安全・安心まちづくり活動
虎の巻

～「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」実施報告書～

平成 25 年 3 月

いいなぁ安心
東京都
青少年・治安対策本部

目　次

あいさつ

概要編　～１時間でわかる！「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」～

第１　ワークショップのねらい ―― 1
第２　ワークショップの概要 ―― 2
第３　みんなで語ろうボランティア！
　１　第１分科会（活動内容の充実）―― 4
　２　第２分科会（参加者の拡大）―― 5
　３　第３分科会（行政や警察との連携）―― 6
　４　第４分科会（学校・ＰＴＡとの連携）―― 7
第４　もっと教えて！ 突撃取材
　１　中野区環境井戸端会議 ―― 8
　２　ＳＶＳ（成城警察署管内大学生防犯ボランティア）―― 8
　３　麻布地区の生活安全と環境を守る協議会委員 ―― 9
　４　亀戸二丁目団地管理組合自治会 ―― 9
第５　ワークショップに参加して ―― 10

本　編　～もっと知りたい！！「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」～

第１　ワークショップについて
　１　進　行 ―― 12
　２　分科会 ―― 13
　３　参加者アンケート（抜粋）―― 14
第２　グループ意見交換要旨
　１　第１分科会（活動内容の充実）―― 18
　２　第２分科会（参加者の拡大）―― 24
　３　第３分科会（行政や警察との連携）―― 29
　４　第４分科会（学校・ＰＴＡとの連携）―― 33
第３　ボランティア団体等の活動紹介
　１　中野区環境井戸端会議 ―― 37
　２　ＳＶＳ（成城警察署管内大学生防犯ボランティア）―― 40
　３　麻布地区の生活安全と環境を守る協議会委員 ―― 43
　４　亀戸二丁目団地管理組合自治会 ―― 46
　５　ＮＰＯ法人ささえ手 ―― 49
　６　地域友好会 ―― 52
　７　東村山警察署管内防犯協会及び防犯活動機動部会 ―― 55
　８　明星大学・防犯ボランティアチーム「ＭＣＡＴ」―― 58
第４　運営委員からのメッセージ ―― 61
第５　ワークショップを終えて ～運営委員感想～ ―― 67

資料編　～参加者の声をまとめました～

　１　活動レポート ―― 69
　２　参加者アンケート ―― 87
　３　配付資料 ―― 102
　４　「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」運営委員会 ―― 114

「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」を振り返って

東京都内の犯罪発生件数は、ピッキングや空き巣等の増加による平成14年がピークで、30万件を超える犯罪が発生していましたが、警察や行政のほか、地域の方々による防犯パトロール活動などにより、10年連続で減少し、平成24年は17万2千件と、ピーク時の57%となっています。この数字は日本が世界一安全な国といわれた昭和40年代よりも少ないものです。

しかしながら、東京都が行った「都民生活に関する世論調査（平成24年8月調査）」では、東京都に最も力を入れてほしいと考える施策の1位「防災対策」に次いで「治安対策」が上位にあげられました。これまでも「治安対策」は、東日本大震災が発生するまで7年連続して1位であり、今日も依然として半数近い都民の方が、犯罪から地域を守って欲しいと、東京都に期待を寄せています。

このような中、地域では防犯ボランティア活動が定着し、「防犯パトロール」や「子供見守り活動」を始めとする様々な取組が行われています。また、パトロールのみならず、花壇づくりや餅つき大会などの開催により、地域の人たちの「絆づくり」を充実させる取組も見られるようになりました。

しかし、構成員の高齢化や活動のマンネリ化などの課題も解決されないままとなっています。そこで、地域における様々な活動や活動の中で生じている課題、その課題解決に向けた取組などをグループで意見交換しながら、これまで個々に活動してきたボランティア団体等の相互連携や交流を促進する場として、「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」を開催しました。

他の団体ではどのように取り組んでいるのか、どのような悩みを抱えているのかなど、いろいろな話を聞いて、今後の活動の参考に出来るものは持ち帰っていただき、地域防犯という同じ目的を持つ仲間同志の交流促進を図りました。

ワークショップに参加すると、あらゆる課題が直ちに解決する訳ではありませんが、日頃から感じている問題意識を仲間同志で共有する。その中から一つでも解決できる方策のヒントを聴取する。他の団体の成功事例や失敗事例は、課題解決に当たり重要な示唆を与えてくれたのではないかと思います。

この報告書が、安全で安心して暮らすことが出来るよう、防犯を含む様々な地域の取組にお役立ていただければと思います。

「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」運営委員会

委員長　小出　治（東京大学大学院教授）

※ワークショップの開催に当たっては、「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」運営委員会（P114参照）を設置し、効果的な進め方等を検討しました。

概要編

～１時間でわかる！「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」～

第1 ワークショップのねらい

独立行政法人建築研究所 主任研究員 **樋野　公宏**

一時期、ピッキングという侵入手段が流行ったのをご記憶かと思います。この背景には、高度成長期以降、コストや便利さを重視するあまり、どの建物でも同一形式のドア錠が取り付けられたことがあります。この錠前は泥棒に研究し尽くされ、侵入盗の急増という結果を招きました。今では「防犯性能の高い建物部品」（CP 部品）に認定される錠前が各メーカーで何種類も製造され、泥棒にとってはやりにくい状況になりました。地域で行われる防犯活動も、それぞれの地域性を加味した多様な活動が行われた方が、犯罪者にとって攻略しづらいと言えます。

防犯活動を多様化するキーワードとして、私は「プラス防犯」を提案しています。まちづくりのテーマは景観、環境、地域活性化など多岐にわたり、「防犯まちづくり」もその一つとして位置づけられます。強調して言うなら、防犯はまちづくりの一つのテーマに過ぎず、総合的な視野を欠いて防犯だけを突き詰めても、必ずしも良いまちづくりは実現しないということです。より良いまちづくりのため、防犯活動に他のテーマを加味すること、逆に、他のテーマの活動に防犯的な意味合いを持たせることが「プラス防犯」です。

今回のワークショップのように、各地域で防犯活動を行う人たちが集まる場は、互いの活動を自らの参考にするだけでなく、それぞれの活動の独自性を競い、刺激し合う場としても有効です。地域独自の活動であることは、担い手のやる気にもつながります。防犯を入り口に、他のまちづくりのテーマにもつながる多様な活動が行われること、それによって地域の魅力と活力が高まり、そこでの生活の質が向上することを祈念しています。

まちづくりコーディネーター **杉崎　和久**

今回のワークショップでは、都内の広範な地域から、また世代も大学生から長年活動をしているベテランまで幅広い人たちが集まりました。そういった中で、参加者には多くの人たちと対話をすることにより、日常の活動に役立つヒントを得て欲しいという狙いをもって企画されました。ワークショップという手法自体は、性別や世代、価値観やライフスタイルなど地域を構成する多様な人が対話するための手法として、まちづくりの現場ではよく使われている手法です。

具体的には、話し合いの単位（少人数のグループに分けるなど）、対話の順序・テーマ設定、人前で自分の考えを表明しやすくするための道具（付箋紙など）の使用、議論の過程が見えるようにする（模造紙等の活用）などの工夫が行われます。今回はさらに、参加者の関心に沿ったテーマで対話するため、事前アンケートを反映したテーマ設定や、より多くの人たちの経験や知恵を得るために途中で席替えを取り入れるなどの工夫を行いました。最近ではワークショップに関する参考書も多く出版されています。

みなさんの活動の中でもよりよい話し合いをするために、目的や参加者構成等に合わせた対話の工夫をしてみてはいかがでしょうか。

第2 ワークショップの概要

ワークショップの開催に当たり、具体的な進め方等を検討するため『「いいなぁ安心まちづくりワークショップ」運営委員会』を設置しました。

1. **開催日**　平成 24 年 11 月 18 日（日曜日）

2. **開催場所**　東京都庁第一本庁舎５階　大会議場（新宿区西新宿２－８－１）

3. **開催目的**　地域で活動するボランティア団体等のネットワーク強化、防犯活動の活性化を図る。

4. **進行及びファシリテーター**

○ 進行

小出　　治（東京大学大学院教授）
樋野　公宏（独立行政法人建築研究所主任研究員）
杉崎　和久（まちづくりコーディネーター）

○ ファシリテーター

小口　優子（有限会社まち処計画室　代表取締役）
原田　正隆（株式会社まちづくり商会　代表取締役）
林　　秀雄（株式会社まちづくり商会）
市川　　徹（株式会社世田谷社　代表取締役）

5. **参加者**　101 名

東京都安全・安心まちづくりアカデミー修了者 注1
東京都子供見守りボランティアリーダー育成講座修了者 注2
防犯ボランティア団体、学生ボランティア

6. **運営手法**　ワークショップの開催に当たり、具体的な進め方等を検討するため「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」運営委員会を設置しました。４つの分科会（16 グループ　※ P13 参照）を設け、地域における防犯活動上の課題や解決方法等について自由に意見交換し、これからの活動のヒントを見出すとともに、仲間づくりを促進しました。

注１　東京都安全・安心まちづくりアカデミー」とは、各地域における防犯ボランティア団体の結成促進と活性化を図るため、東京都が平成 16 年度から平成 17 年度にかけて開講した全国初の実践型防犯リーダー・オブ・リーダーの養成講座である。

注２　東京都子供見守りボランティアリーダー育成講座」とは、地域の子供の見守り活動を推進するため、東京都が平成 22 年度から平成 24 年度にかけて開講した地域防犯活動を主導するボランティアリーダーの養成講座である。

7. 進行内容

① オリエンテーション
（ワークショップの進め方、話し合いのルール等を説明）

② グループ活動１・２（各 40 分）
（自己紹介、テーマ・課題別の意見交換）
グループ活動１とグループ活動２の終了時に席替え

③ グループ内発表（20 分）
④ 全体発表（任意の４名）
（参考になった事例やワークショップの感想等を発表）

⑤ 講　評
（小出運営委員長ほか２名の運営委員より）

⑥「いいなぁ 安心の樹」の作成
（参加者全員がこれからの意気込み等を葉っぱ形の付箋に記入し、
「いいなぁ 安心の樹（表紙参照）」を作成）

第3 みんなで語ろうボランティア！

４つの分科会で行われたグループ意見交換の要旨を紹介します。

※自由な意見交換を促すため、各テーブルにはファシリテーターを配置しておりません。

1 第1分科会（活動内容の充実）

第１分科会では、【活動内容の充実･工夫】【若い世代の参加】【高齢者の見守り】などについて意見交換が行われました。

【活動内容の充実・工夫】

○ ＰＴＡが「買い物時間帯に子供達を見守ってほしい」と商店会等に呼びかける。
○ パトロールに参加できない人にはプランターを配付し、そのプランターへの水やりなどの時間を子どもの見守りタイムにしてもらう。
○ パトロール活動は、友達づくり、地域のコミュニケーション、ゴミ拾いなども兼ねて行っている。
○ 活動を継続させるためには、楽しくできることが大事である。
○「七夕」や「お祭り」などのイベントの手伝いを頼むことで、地域のまとまりを強めている。
○ 定期的な活動は、活動情報をオープンにして、きちんと続けることが大事である。
○「地域全体で子どもを見守る」機運を高めるため、啓発ポスターを公園や学校等に貼ってもらう。
○ 落書きや掲載期間が経過した掲示物、剥がれかかっている掲示物はそのままにしておかない。
○ パンフレットなどを配布する際、相手の顔を見ながら渡すと受け取ってもらいやすい。

【若い世代の参加】

○ 防犯ボランティアとしての現場経験を若い人に伝えるための交流の場が必要である。
○ 企業の参加も得て、朝晩のパトロールを活発に行っている。
○ 一人暮らしの学生は､地元の方と知り合う機会がほしいと感じていても､地元との接点が全くない。
○ 学生ボランティアとして活動しているが、10 回参加すると地元警察署から感謝状がもらえる。
○ 学生ボランティアを広げるためには、就職活動に有利であることをアピールしたり、「活動による単位取得」等を進めることが必要である。

○ 大学生は地域に愛着がない。地域の方から「一緒にやりませんか。」と言われても、地元の人達が連携している中に入っていく勇気がない。
○ 幼稚園、小学生のような幼少期からのボランティア活動の教育が必要である。

【高齢者の見守り】
○ 民生委員と連絡を取り一人暮らしの老人を見守ろうとする動きも見られるが、プライバシーの保護が課題となっている。
○ 一人住まいの孤独死を防ぐために、「おはよう」などの一声運動を実行してみてはどうか。
○ 集合住宅では孤独死がわからない状況にある。例えば、新聞屋さんやボランティア団体等が互いに提携することも必要である。

【第１分科会のまとめ】
防犯活動の目的は犯罪を抑止することにあるが、それ以外にも、地域の住民同士のコミュニケーションづくりや、安全・安心なまちづくりに貢献している。人と人との関係性が希薄になっている中で、防犯活動を通じ、町会のイベント等に積極的に係わることで、地域の団結力が高められている。
一方、若い世代の参加を促すための感謝状贈呈や学生への単位取得等のインセンティブ付与も工夫の一つと考えられる。
また地域の取組として、「子供見守り活動」のほか、高齢者の孤独死を防止する動きも見られる。
都内各地域では、こうしたパトロール以外の活動が自主防犯ボランティアによって、既に取り組まれている。

2 第2分科会（参加者の拡大）

第２分科会では、【参加者の拡大･工夫】【参加者の高齢化問題】【若い世代の参加、子供の参加等】について意見交換が行われました。

【参加者の拡大・工夫】
○ ＰＴＡのお母さんなど、若い世代の参加促進を考えている。
○ 定年退職した人にターゲットを絞り勧誘している。
○ 自治会のお祭りの準備を 100 人体制で進め、そこでのコミュニケーションづくりが、地域の防犯対策の一つとなっている。

【参加者の高齢化問題】
○ 転んで怪我をする人がいるので、参加年齢の上限を設けている。

【若い世代の参加、子供の参加等】
○ 学生のボランティア活動参加について、学生は「地域の方々との交流ができて楽しい」、地元の方は「学生の参加は非常に嬉しい」という声が多い。

○ 若者を育成する方法の一つとして、子供達をパトロールに参加させている。
○ 中学校に声をかけ、道路のゴミ拾い活動を行っている。

【第２分科会のまとめ】

自主防犯ボランティアの高齢化は各地域の課題である。

大学生など若い世代の参加を促進し、一緒に活動してみたいが、そのための方法がわからないという意見が多い。地域と学生が交流し、双方が楽しみながら一緒に活動するためには、行政や警察などが主体となり、交流の場を設けること、地域や学生が自ら働きかけることが必要と思われる。

3 第3分科会（行政や警察との連携）

第３分科会では、【行政や警察との連携】【ボランティア同士の交流】【他団体との連携】などについて意見交換が行われました。

【行政・警察との連携】

○ 行政や警察との連携で最も大切なのは、頻繁に顔を合わせること。役所等を訪問して直接意見交換することが重要である。
○ 町会長が積極的に警察や区役所を訪問し、地域の課題等を理解してもらうことが重要である。
○ 行政はいろいろなサービスを行っているが、そのことを知らない人が多い。ぜひ活用すべきである。

【ボランティア同士の交流】

○ 都の講習会で知り合った仲間と、月１回程度集まり情報交換している。
○ 相互に情報交換することにより、他の地域の行事にも応援に行き、新たな仲間作りと取組のアイデア等をもらうことができた。

【他団体との連携】

○ 民間のみで解決できないことは、行政、警察、民間の三位一体でやることが重要である。
○ 交通安全や防犯、防災の団体がバラバラに活動しているので、これらの団体が一堂に会する場所を設けて情報交流していきたい。

【第３分科会のまとめ】

行政や警察と連携するためには、担当者と意見交換しながら、互いに協力しあうことが重要である。

また、ボランティア同士や関係団体が連携することで、互いの地域情報が共有でき、活動の幅が広がる。防犯活動以外でも助け合うことができるので、各団体が情報交流できる場を設けることが必要である。

4 第4分科会（学校・PTAとの連携）

第４分科会は、【学校・ＰＴＡや町会との連携】【子供の防犯対策】などについて意見交換が行われました。

【学校・ＰＴＡや町会との連携】

○ 学校と話し合いの場を設けている。
○ 学校とタイアップしてパトロールを行っている。
○ 学校から「地域で生徒を見守ってください。」と地域にお願いされている。
○ 学校やＰＴＡと話をする機会が全くない。
○ 地域の安全・安心づくりは、学校主体ではなく、地域が率先して学校に協力してもらうことが重要である。
○ 学校との連携・協力のきっかけづくりはとても難しいが、例えば、毎日、子供の通学路に立ちＰＴＡと交流することが望ましい。
○ 町会がしっかり防犯活動を行うと、その地域では空き巣やひったくりなどの犯罪が少なくなる。

【子供の防犯対策】

○ 防犯ブザーを持たせていても、それだけでは駄目。人と人とがつながり、地域で子供を見守っていくことが重要である。
○ 大声を出す練習も必要である。

【第４分科会のまとめ】

子供の見守り活動には、地域、学校・ＰＴＡが互いに連携することが重要である。学校との話し合いの場を設けたり、学校からも地域に協力をお願いするなど、互いに積極的に協力関係を築いていくことが重要である。

地域や学校・ＰＴＡとボランティアが団結して、防犯活動を行うことで、犯罪が発生しづらい環境が形成できる。子供へ防犯ブザーを携帯させるだけでなく、地域として子供を見守る体制を構築していくことが必要である。

第4 もっと教えて！ 突撃取材

参加者アンケートで、より多くの方々から「今後の活動の参考となる事例」として選ばれた団体等の活動について取材しました。

1 中野区環境井戸端会議

取材メモ

中野区環境井戸端会議の活動は、学校における「緑のカーテンづくり」、子供の見守り、防犯パトロール、道のゴミ無くし隊、子供への防犯教育など、とても多様。特に「緑のカーテンづくり」は区内の全ての小中学校へと広がり、「道のゴミ無くし隊」も地域住民だけでなく、区内の中学生、教員、ＰＴＡ、企業、区職員など幅広い組織・団体から参加していただいた。

これらを円滑に進めるためには、日々の地道な活動が子供や学校、地域に認められることが必要であり、そこで得られた信頼が多様な取組の成功へとつながっている。

また、防犯・防災活動をきっかけに、小学校区の３町会が強い絆で結ばれていることも特徴的である。

今後も町会同士や学校・ＰＴＡとの連携を更に深め、子供達が「安心して暮らせるまち」の環境づくりに向け、取り組まれることが期待される。

2 SVS（成城警察署管内大学生防犯ボランティア）

取材メモ

ＳＶＳとは、成城警察署が地元の大学生を集めて防犯活動に協力していただくものである。学生は10回参加すると警察署から感謝状をいただけるというユニークなインセンティブが設けられている。

学生の中には、地域の犯罪抑止活動に継続的に参加することで、防犯意識を高めるとともに「やりがい」を見出し、更にはいろいろな年代の人と会話や地域の方々と交流、先輩との繋がりなど副次的な効果に価値を見出す者も現れている。

今後は、ＳＶＳに登録する学生同士の交流を促進するとともに、地域への愛着心や防犯意識を高めて、ＳＶＳの活動以外でも、例えば区と連携して独自の活動を展開するなど、より裾野が広い活動が期待される。

3 麻布地区の生活安全と環境を守る協議会委員

取材メモ

麻布地区の生活安全と環境を守る協議会では、六本木という東京でも有数の繁華街を抱え、他地域とは異なる環境の中で、環境美化や防犯パトロール等の活動を行っている。

事件が多い地域のため、活動は警察官と一緒に行うなど、地元警察署との連携はとても重要である。以前は交番勤務の警察官との交流を深めるため昼食会を開催している。当該協議会には、警察や消防、行政も参画しており、この場を通じて要望や意見交換等を行っている。

一方、活動資金や地元参加者の不足が課題となっており、マンパワーについて在勤者で補っている。

行政や警察等と一体となって防犯・防災に取り組んでいること、企業の積極的な協力により、今後とも地域の防犯活動は継続して行われることが期待される。

4 亀戸二丁目団地管理組合自治会

取材メモ

亀戸二丁目団地管理組合自治会は、620 世帯という大きな団地の中で防犯・防災に力を入れている自治会である。地元小学校の子供見守り活動を柱に、地域が一体となって団地祭りを毎年開催している。祭りの準備や運営には、100 人規模の応援体制で取り組み、そこで知りあった方々と協力関係を築いている。

また少子化のため、隣接地域や隣接区との連携・連帯の必要性が増したことから、周辺大学や小中学校、他区の団体とも積極的に交流を深めている。

これらの取組は、防犯・防災対策を視野に入れて進められている。

このような大規模団地の中で活動が継続しているのは、役員をはじめ防犯・防災対策の意識が高く、団地や地域の方々からの信頼の賜物である。祭りを通じて自治会の団結力を向上させ、地域と連携しながら、交流を図っていることが鍵となっている。

今後とも祭りをきっかけとして、若い世代の参加を増やすなど、地域活動の一層の広がりが期待される。

第5 ワークショップに参加して

＜代表者の意見や感想＞

Aさん

○ 活動を開始して、まだ１年程度。今日は５年以上活動されている方々からお話を伺えて、非常に貴重な経験となった。
○ ボランティア活動をする中で、子供とどう接したら良いのかが悩みの一つだった。
○ 中学校付近でパトロール活動をしている方からお話を聞くことができた。以前は、年 10 件以上中学生による犯罪が発生していたが、友達のように親しく中学生と接していくことで、今年は犯罪件数をゼロに防ぐことができたと聞いた。非常に貴重なお話であった。
○ 自分でボランティア団体を立ち上げ、のぼり旗を作って防犯活動を広めている方から話を聞いた。今日は非常に勇気をもらった。今後も防犯ボランティアとして活動に励んでいきたい。

Bさん

○ 初めてボランティアの集いに参加した。大変有意義な時間を過ごさせていただいた。
○ 長年ボランティア活動をしているが、今日の集まりには熱気を感じた。さらに自分を奮い立たせて、もう一度ボランティアに力を入れようという勇気が湧いた。
○ もう 70 歳になるので、皆さんの地区では後継者問題をどうしているか聞きたかったが、なかなか結論が出なかった。
○ 学生ボランティアは４年間のサイクルで、学校を卒業すると、その地区からいなくなってしまう。
○ 学生さんの意見は貴重だったが、10 年、20 年のサイクルでボランティア活動ができる人を育てないといけない。
○ ボランティアの継続性についての結論が出ず残念だったが、これを機に防犯活動に力を入れたい。

Cさん

○ 防犯に限らず防災も含めて、また、子供見守りだけではなく、地域を見守るという観点で考えると、警察や消防といった行政機関との連携も非常に大事である。
○ 警察や消防の組織は縦割りなため、勉強はさせてくれるが、活動しようと思うとなかなかそこの所がつながっていかないことが問題であって、解決策はまだ見つかっていない。
○ 後継者問題について、大変活発な議論が出た。
○ パトロール活動に葬儀社等の地元企業も参加していると聞き、素晴らしいと感じた。
○ パトロールしている方々は高齢者が多いので、地元企業にお願いすれば、人を出してくれるのではないかと聞いた。
○ 盆暮れにお子さんと一緒に、拍子木を打ちながらパトロールすることも一つのアイデアである。アイスクリームを配り、子供と一緒にパトロールをする。そして町会長が表彰状を作り、それを学校で受け取るという活動を進めれば、子供達も喜び保護者も注目する。

Dさん

○ 今日話し合って、ボランティアリーダーの重要性が高いのではないかと感じた。
○ どんなに地域が頑張ろうとしても、ある程度の所で責任問題や活動の制約といった課題が出てくる。行政やＰＴＡが協力体制をとらないと、防犯活動は難しいのではないか。
○ 僕自身、公務員を志望している。公務に就いたら、できるだけ偉くなって、できるだけ地域のことを考えていきたい。

みなさん
安全・安心のまちづくりのために
一生懸命がんばっています！
そんな仲間達がたくさんいるって
とても心強いですよね♪

本 編

～もっと知りたい！！「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」～

第１ ワークショップについて

１ 進 行

はじめに、全体進行役の杉崎委員からワークショップの進め方などについて、オリエンテーションを行い、その後席替えを挟んで２回グループ活動が行われた。

グループ活動では、事前アンケートをもとに４分科会（テーマ）・16 テーブルに別れて、それぞれ自己紹介や意見交換が行われた。休憩をはさんで再度席替えを行い、グループ内でワークショップに参加した感想等が発表された。そのうち４人の代表者が全体に向けて自らの感想等を発表、小出委員長から講評をいただいた。最後に参加者一人ひとりが葉っぱ形の付箋に今後の抱負や意気込みを書いて「いいなぁ 安心の樹」を作成した。

① オリエンテーション

話し合いのルールや分科会のテーマ設定、席替えなどワークショップの進め方について説明した。

② グループ活動（１回目）

当初のテーブルは事前アンケートをもとに事務局が指定。自己紹介の後、テーマ別意見交換を行った。

自己紹介（一人１分）は、氏名、地域、日頃の活動概要を紹介。

意見交換（27 分）では現在抱えている課題、課題解決に向けた成功事例や失敗事例などを語り合い、情報共有した。

グループ活動の感想をレポートへ記載した。

③ グループ活動（２回目）

興味のあるテーマの分科会への席替えを促した。その後はグループ活動（１回目）と同様。

④ グループ発表

誕生日月（季節単位）で席替えを行った。

氏名や地域を紹介した後、今後の活動の参考になった話や感想についてグループ内でそれぞれが発表した。

⑤ 全体発表

４名から参加した感想等について発表があった。

参加者一人ひとりが葉っぱ形の付箋に、今後の抱負や意気込みを書いて「いいなぁ 安心の樹」を作成

いいなぁ 安心の樹

2 分科会

分科会では、図１のとおり「内容の充実」、「参加者の拡大」、「行政や警察との連携」、「学校・ＰＴＡとの連携」をテーマとして、意見交換が行われた。

活動内容の充実

○既存の活動のレベルアップ
○新しい活動の企画・実施に向けた取組方法
○地域の課題解決に向けた検討手法
○社会的防犯事案に対する問題意識の共有と、ボランティア活動への反映
○防災活動との連携
○交通安全活動との連携
など

～ 青色のテーブル

参加者の拡大

○メンバーの高齢化に伴う団体の維持・継続
○青年・壮年世代への働きかけ
○ボランティア活動未経験の高齢者への働きかけ
○防犯ボランティア団体と学生ボランティアとの連携
○参加者拡大に向けたイベントの企画・開催
など

～ ピンクのテーブル

行政や警察との連携

○地元の区市町村や警察署への相談・働きかけ方
○防犯活動関連の補助金情報（東京都、区市町村ほか）
○行政や警察との上手な連携の仕方
○行政や警察への各種申請手続き
○地域の防犯情報の取得
○防犯講和の講師派遣
など

～ 緑色のテーブル ～

学校・PTAとの連携

○地域と学校の関わり
○地域活動へのPTAや子供の参加呼びかけ
○具体的な子供の見守り方法
のほか、
○防犯ボランティア団体と学校との連携
○防犯ボランティア団体と町会や自治会、商店会との連携
○町会と町会の連携
など

～ 黄色のテーブル ～

3 参加者アンケート（抜粋）

本アンケートはワークショップ参加者（101 名）に配付し、回収できた 87 票を有効票として集計した。グラフに記した(N＝87)は､回答者の合計数を示している。このため単純回答の場合、回答個数の合計は 87 となるが、複数回答の場合、１人が複数個選択するため、回答個数の合計は 87 を超える。複数回答における占有率（%）は、回答個数を回答者総数 87 で除した値としている。

なお、(　) で囲んである数字は回答個数を表している。

(1) 加入している主な活動母体

加入している主な活動母体は、「町会・自治会」(39.1%）が最も多く、次いで「防犯協会」(37.9%)、「学生ボランティア」(23.0%）となっている（図 2)。

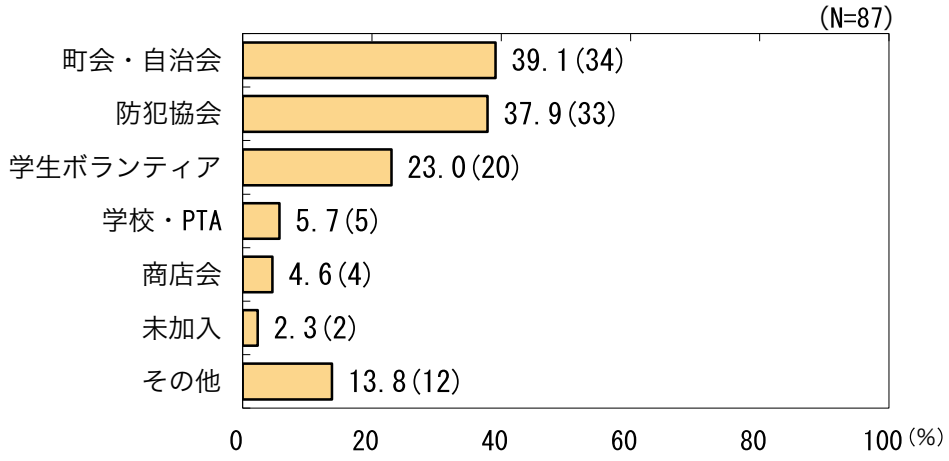


図２　加入している主な活動母体（複数回答）

(2) 防犯活動の取組年数

犯活動の取組年数は、「15 年以上」(20.7%）が最も多く、「10 ～ 15 年未満」を合わせた防犯活動 10 年以上が、回答者の約 1 / 3 （34.5%）を占めている（図 3)。

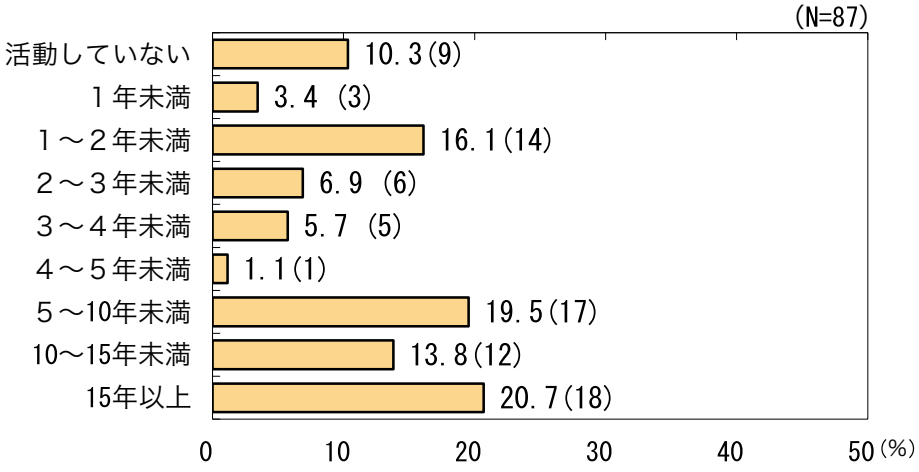


図３ 防犯活動の取組年数

(3) 平均的な活動日数

平均的な活動日数は、「週に３日程度」（18.4%）が最も多く、次いで「月に１日」（17.2%）、「週に１日程度」（16.1%）となっている（図４）。

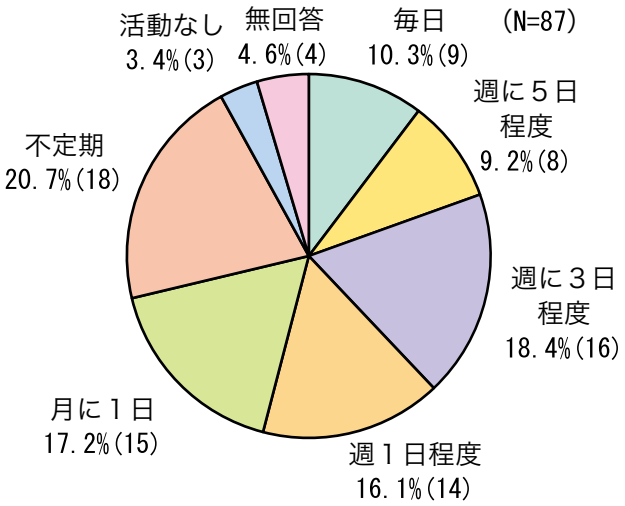


図４　平均的な活動日数

(4) 主な活動内容

主な活動内容は、「防犯パトロール」（69.0%）が最も多く、次いで「子供の安全確保（保護・誘導・見守り）」（36.8%）、「環境浄化活動（落書き対策・清掃活動など）」（27.6%）、「青少年の健全育成」（20.7%）となっている（図５）。

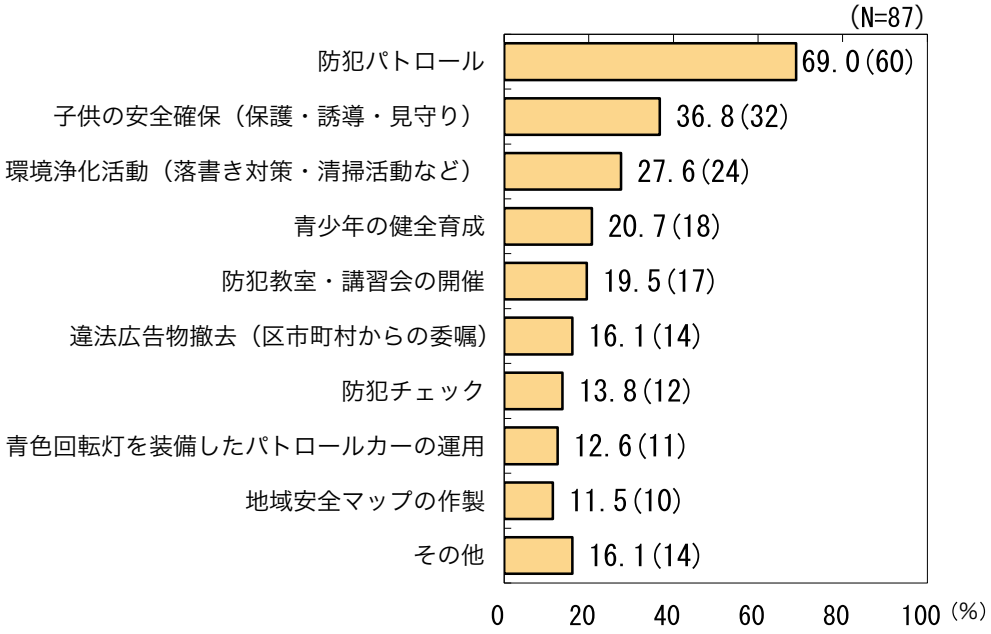


図５　主な活動内容（複数回答）

(5) 活動上の課題

活動上の課題は、「町会・自治会との連携」（41.4%）が最も多く、次いで「警察との連携」（39.1%）、「学校・ＰＴＡとの連携」（29.9%）、「仲間づくり」「構成員の高齢化」（ともに26.4%）、「行政との連携」（23.0%）となっている（図６）。

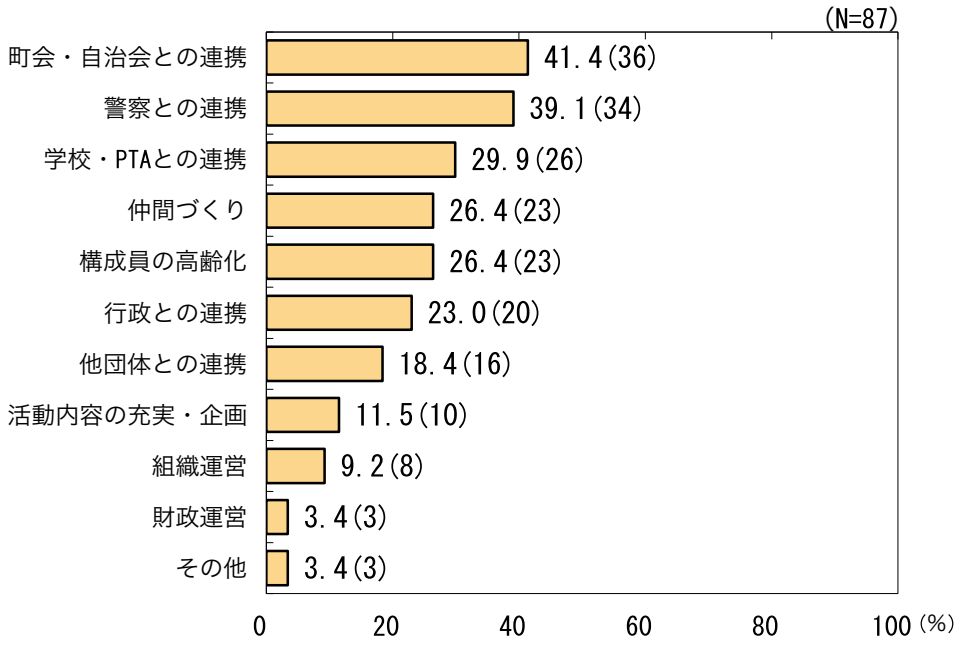


図６　活動上の課題（複数回答）

(6) ワークショップに参加した感想

○ ワークショップに参加した感想は、「とても参考になった」と「参考となった」を合わせると 82.7%となっている（図７）。

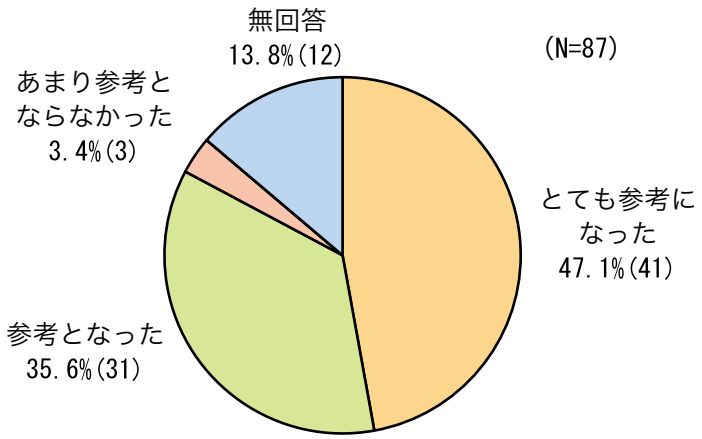


図７　ワークショップに参加した感想

○ 主な感想は以下のとおり。

・いろいろな話を聞くことができた。
・様々な活動団体の問題点や内容を聞くことができ、参考・勉強になった。
・これからの活動に関心が出た。
・他地域の活動内容を地元への活動に取り入れたい。
・若いボランティアが積極的に参加していることに驚きを感じた。
・自分達以外にもボランティアで防犯活動をしている人がいることを知り勇気が出た。
・単純に交流にもなった。
・いろいろな案を手に入れることができた。
・時間が足りず、充分に聞きたい部分を掘り下げることが難しかった。
・ファシリテーターを１つのテーブルに一人つけてほしかった。
・自分達の問題とマッチするテーマがなく、議論がかみ合わなかった。

(7) 席替えの感想

○ 席替えの感想は、「とても良かった」が 70.1％となっている（図８）。

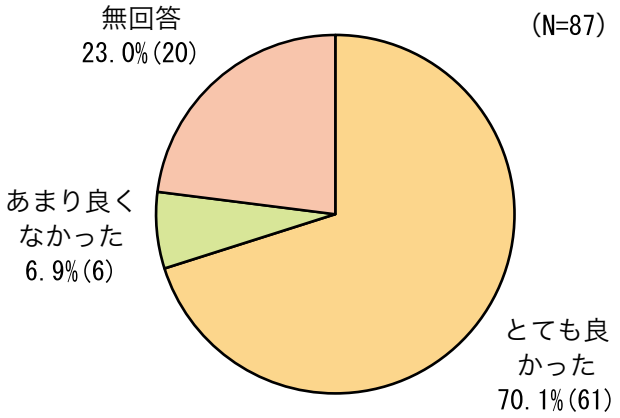


図８　席替えの感想

○ 主な感想は以下のとおり。

・いろいろな意見を聞くことができた。
・繰り返して話すことで、参加者がオープンになってきた。
・様々な人と交流することができて良かった。
・時間が足りずに、テーマを決めてじっくり話ができるようにしてほしい。
・バタバタとして落ち着かない。　　等

第2 グループ意見交換要旨

1 第1分科会（活動内容の充実）

（パトロール）

○ 週３回（月水金）、メンバーが集まりやすい時間帯の午前 11 時から昼まで、健康のためにパトロール活動をやっている。

○ 友達づくり、地域のコミュニケーションづくり、ゴミ拾いなど美化運動も兼ねたパトロール活動を行っている。

○ ４日間行う年末パトロールでは、連日 30 人以上が参加している。若い親子も参加し、子供には 500 円の図書券をあげている。

○ 六本木繁華街のパトロールを週１回、夜７時から８時までと、２週間に１回、通学路で朝７時半から８時半まで行っている。地元住民のみならず、企業も参加している。

○ 夜のパトロールは午後９時から週に１回行っている。週ごとに曜日をずらし、雨が降ったら中止している。

○ 町内の人達にもわかるように、拍子木を叩きながらパトロールしている。火の用心もかねて、夏でも冬でも叩いている。音を出すのは効果的である。

○ パトロール活動中、いろいろな方と話ができるのが良い。

○ パトロール中、小学生に「５時だから帰りましょう。」と声をかけている。

○ ルートを変えてパトロールすると「こんな所に空き家があった。」と発見することがある。できるだけこまめに地域をパトロールしたい。

○ 町会では、青少年対策委員とＰＴＡ校外委員と婦人防犯部の三者でパトロールをしている。子供達のために夕方５時から６時まで、町会のために夜９時から 10 時までやっている。

○ ３年前老人会に入り、元気な方が家の中にじっとしているのは良くない、「老人を外に出そう。」と思いパトロール隊を結成した。

○ 町会で防犯活動を始めた。30 人位を月～金の曜日ごとに５つに分けている。休日と雨の日はやらない。参加メンバーは自由だが、３人揃ったらスタート。２人だったら止める。

○ 私達がボランティア活動に参加する魅力を作らなければいけない。

○ 登校中の子供達にあいさつしながら見守り活動することは、若返り方法の一つである。

○ 月報を毎回活動グループごとに作り町会長に報告している。

（見守り）

○ 品川区では、83 運動（子どもの登下校を見守る運動）推進委員会に予算を付けて、公立小学校に入学した１年生の保護者に防犯ジャケットやシールなどを渡している。

○ ＰＴＡから品川区内の商店街に対して「買い物時間帯に、子どもを見守って欲しい。」などと働きかけている。

○ 20 日に１回程度、子供の見守り活動として、子供達を並ばせて学校へ連れて行く。そのとき、子供は整然と歩かず分散するので大変である。

○ 子供見守りボランティアと防犯委員をやって良かったことは二つある。一つは、子供見守りは登下校の時間に合わせなければいけないので、生活が規則正しくなった。もう一つは、地域のお母さん達と顔見知りになり溶け込めたこと。

（チラシ配布）

○ パンフレットは、相手の顔を見ながら渡すと受け取ってもらいやすい。

○ 商店街の活性化を進める中で防犯の意識も高めていく。例えば、買い物袋を商店街で作り、その中に防犯のチラシを入れてはどうか。

○ 振り込め詐欺防止のチラシは年配の人、ひったくり防止カバーは主婦などに渡すよう工夫している。

○ チラシ配りのとき、「これはあなたとおばあちゃんの分ね。」と言いながら手渡すと、チラシを読んでもらえる。

○ チラシを配るとき、話を聞いてくれない人が多い。また、チラシを受け取らない人も多い。街頭でのコミュニケーションは難しい。

○ 若い子は「ティッシュはいらない。ホッカイロがほしい。」と言う。そうした話をきっかけにコミュニケーションがとれるようになるのであれば、それで良いのかもしれない。

○ 振り込め詐欺防止の活動でティッシュやチラシを配っている。若い人はティッシュだけを受け取り、チラシはゴミ箱に捨ててしまう人が多い。

○ 地域で発生した具体的な犯罪事例が記載してあるチラシであれば受け取ってもらえる。

○ 年齢層によってチラシの配り方が異なると思う。お年寄りなら朝早く、声をかけて同じ目線でいろいろな話をすると興味を持ってチラシを受け取ってもらえる。

○ なかなかチラシを受け取ってくれない。自転車ひったくり防止カバーなどを付けたときは受け取ってくれた。チラシのみの配布は効果があるのか。

（広報活動・キャンペーン）

○ 広報活動は、警察の車両で警察官の運転により行っている。警察車両が使えないときは、周りから見て分かるように、自家用車に防犯ステッカーを貼って行っている。スピーカーで「振り込め詐欺に気を付けましょう。」と流している。

○ 駅前でキャンペーンを年間５、６回やっている。広報活動では世田谷警察署の方と一緒に車に乗って活動している。

○ 歩きタバコやゴミのポイ捨て禁止のキャンペーンを月に３回位、駅頭で行っている。

（高齢者の見守り）

○ 町会で民生委員と連携しながら、一人暮らしの老人を把握しようという話が出ている。
○ 団地では、孤独死も分からない状況にある。例えば、新聞屋さんとボランティア団体などがお互いに提携することも必要だ。
○ 孤独死を防ぐためには、「おはよう。」などの一声運動が良い。
○ 一人暮らしの老人に声をかける。出て来なくても「声だけでも聞きたい。」と話す。そのため、活動地域では老人の振り込め詐欺被害が発生していない。

（防災活動）

○ 地域の住民へ災害対策用に２、３日分の食事とペットボトル２本程度を用意するよう呼びかけている。
○ 防災訓練では、土嚢を準備することもある。震災はいつ起こるか分からないが、台風は分かるので１週間位前に区に申請すると持って来てくれる。
○ 小学校における地域安全マップづくりの指導や、防災士の資格を取得し防災活動をしている。防犯と防災は車の両輪である。
○ 防犯と防災は両輪だという意見に全く同感だ。交通安全、消防も含めて活動する組織ができると良い。
○ 自助・共助・公助。自分達の命は自分で守る。自分達のまちは協力して守る。そして、例えば避難所の運営やいろいろな道具、施設は公助で対応する。
○ 防災訓練の時間が長すぎる、２時間半位かかる。人数が多いと訓練にならない場合もある。全体での訓練は避難訓練だけとした方が良い。

（防犯機器・グッズ等）

○ 町内に防犯カメラを付けるのは、経済的にまだまだ難しい。
○ 地域全体に防犯カメラを付けるのではなく、ゴミの持ち去りや不法投棄が認められる場所に１台でも付けると良い。
○ 防犯カメラの設置に関しては、東京都に補助制度がある。例えば、町会や商店会と連携すると、都が２分の１、区が３分の１出すので、町会としては６分の１の経費負担で足りる。
○ 防犯用のポスターを作り、公園に貼った。町全体で「子供を見守ろう、育てよう」というイメージが持てるようになった。
○ 防犯ブザーを装着する位置が非常に気になった。地域に戻ったら、みんなと意見交換してみたい。

（環境整備）

○ 落書きや掲載期間が過ぎた掲示物、剥がれかかっている掲示物はそのままにしておくと、犯罪が起きやすいと言われているので注意している。
○ 退職した警察官と一緒に落書き消しや花壇づくりをしている。
○ 防犯カメラを付けると落書きや犯罪がなくなるのではないか。
○ 子供達や通勤・通学者が安心して利用できる歩行者空間の環境整備を徹底している。

○ 制服・制帽を着用し、違法駐輪警告札を自転車に貼っている。
○ 空き巣の86％は下見をすると聞いている。場所を選ぶ基準は、落書きのある所、ゴミの放置、自転車・バイクの放置、違法広告物などが挙げられる。

（活動内容の充実）

○ 団体をＮＰＯ法人にして子供の見守り活動をしている。
○ プランターを地域のＰＴＡなどに配付し、花を植えてもらった後、水をあげる時に、地域を見守る気持ちも育ててもらえるよう啓発活動をしている。防犯活動の手段はたくさんあるので、パトロール以外であれば行えるという人を参加させていきたい。
○ いざというときの連絡手段の一つとして、高齢者向けのインターネット講座の活動もしている。
○ 東村山警察署と新座警察署の各防犯協会は、近隣で何かあった場合、共同で活動できるよう姉妹提携した。
○ 定期的な活動は、きちんと続けることが大事である。例えば、「毎月何日の何時にはお茶会を開くので来てください」というように情報をオープンにして、毎月きちんとその時間に開催することが重要である。
○ 活動を継続させるためには、楽しくできることも大事である。音楽祭など学生が参加できるものを考えるのも良い。
○ 隣の町会では掲示板に「本日パトロール中」と貼紙をし、犯罪抑止効果を高めている。
○ 町会のお祭りのとき、地域の方にもお手伝いを頼むことでまとまりができている。お祭りに来ることができない高齢者には、金魚すくいのポイ紙貼りなどを依頼し「町会行事に参加した」という意識になってもらっている。
○ 小さな子供たちを対象としたお祭りをやると、祖父母が参加しやすい。
○ “まちなかサロン”という居場所づくりを行っている。誰でも自由にお茶を飲みに来てもらう。お茶を飲んでいるうちに、名前で呼び合えるようになる。お年寄りなどは馴染むのが早い。
○ 若い母親達が“ママサロン”をやることになった。子供を連れて集まってもらい育児相談等を行っている。

（参加者の拡大）

○ 町会の掲示板の数を増やした。町会旅行や餅つきなどの案内をすると、参加者が集まる。参加すれば顔見知りになれる。そういう仕掛けづくりが大事である。
○ 夜に人口が激減してしまう地域は、防災組織が町会だけで構成され、企業はほとんど参加してくれないので、行政から地元の企業に協力するよう働きかけを依頼した。
○ 夜のパトロールもやっているが、人数は減るばかり。「（女性のパトロールは）危ないから夜は出歩くな。」と言われ、活動ができなくなってきた。

○ 無理があるうえ、自分のやりたいことを削って活動しなければならないのはストレスとなる。
○ ボランティア団体が高齢化している。やみくもに入りなさいと言っても活動は長続きしない。

（若い世代の参加）

○ 若い人たちによるボランティア活動がないと困る世の中となっている。
○ 行政や教育委員会が積極的に取り組むと、学生など若い人がボランティア活動に参加する機会も増える。そうした環境づくりも高齢者の役目ではないか。
○ 若い人と高齢者の交流の場が非常に少ない。防犯ボランティアとしての現場経験を若い人に伝えるための交流の場が必要。
○ 年齢を超えてつながると、地域に変な人が入って来づらくなる。
○ 小学生や幼稚園児の頃からボランティアの教育が必要である。
○ 若い人は、仕事や家事などで忙しいため、パトロール活動に参加してもらえず、人が集まらない。町会主催の行事で活躍しても、ほとんど地元にいないため、子供達への声かけなどは上手にできない。
○ ワンルームマンションが増え、町会行事などに参加する世帯が減ったことも、人集めが大変な理由の一つである。
○ 若者を迎え入れるための仕組みづくりが難しい。若い人が活動に参加できるよう、地域団体なども体制を整える必要がある。
○ 若い人もお祭りだけ一生懸命やってくれるが、後が続かない。
○ お年寄りは若い人にいろいろなことを教えることができる。背中を見せて「ああいう生き方をしたい。」と思わせなければならない。

（学生ボランティア）

○ 学生には子供の登下校の時間に見守りができないなど時間的な制約がある。
○ 学生ボランティアを増やすためには、就活に有利となることのアピールや、ボランティア活動による単位取得を進めることが必要ではないか。
○ 大学生のボランティア活動は、授業もあるので月に３人程度しか参加できないときもある。
○ 学生ボランティアとして活動しているが、10 回参加すると地元警察署から感謝状がもらえる。感謝状ほしさに参加する学生もいる。
○ 大学を通して参加登録すると、警察署から活動案内のメールが来る。
○ 学生ボランティアは、町会のボランティア団体と一緒に活動したいと感じているが、交流がないため上手く入っていけない。
○ 地域と大学とのつながりを大学職員がレクチャーしてくれる。
○ 高校の生徒会でボランティア活動をしている。町会や警察署と協力して、公園に花壇を造ったり、掃除をしている。
○ お祭りのとき、近くの大学や高校に「お祭りの手伝いをしませんか。」と呼びかけると集まるのではないか。
○ 大学の部活動ごとにボランティア活動への参加を促すと良い。
○ 一人暮らしの学生は、地域の方と知り合う機会がほしいと感じていても、地元との接点が全くない。
○ 大学生には地域での存在感や地域への愛着がない。隣人の名前も知らない。地域の方から「一緒にやりませんか。」と言われても、すでに地元の人達の連携ができている中に入っていく勇気がない。

○ 大学生はさまざまな地域から来ているため、現在住んでいる地域を守る気持ちが薄いのかもしれない。
○ 自分の学びたい分野が福祉関係だったことが現在の活動につながっている。このようなきっかけがなかったら、防犯という分野では活動していなかったかもしれない。
○ 若い人が活動に加わると活気づく。
○ 若い人達が当然のようにボランティア活動に参加してくれることは心強い。
○ 学生が懸命に活動しているのであれば、もう少し大人も頑張って良いのではないか。地域に持ち帰って意見交換したい。

（学校・ＰＴＡ・地域との連携）

○ 地元の小学校などと連携して、大人２人と子供２・３人で一緒にパトロールしてはどうか。
○ 小学校の活動として、登校班ごとに夜のパトロールをしてはどうか。
○ 町会のパトロールには、小学校ＰＴＡや渉外委員が必ず２名入っている。
○ 小学生による各地域の公園などの清掃活動に町会として協力している。小学校の行事のときは、連絡網ですぐ集まれる組織となっている。
○ 中学校の防災組織と町会、商店会が協力して取り組もうという動きが出てきたので充実させたい。
○ 一番困っているのは、町会に入ってくれないことである。300 世帯のうち 70 世帯位しか入ってくれない。
○ リーダーが変われば一気に変わる。ＰＴＡ会長などがボランティア活動を行事に盛り込めば良いのではないか。
○ ＰＴＡや学校に声をかけて、児童に「日頃の活動を紹介する」授業を設けていただいた。

（活動費）

○ 活動費や援助・報償がほしい。ボランティア活動は無償ではやっていけない。
○ 警察署からのたすき、のぼり旗、腕章等が支給されるのみ。
○ 町会は自治会費が使えるから苦労はないが、ボランティアには出ない。
○ 子供と同じで、何かやったらご褒美が必要ではないか。
○ 町会からの活動補助は防災に出ても防犯には出ない。
○ 青年部の夜間パトロールには町会から活動費が出ている。

（その他）

○ 防犯協会などの団体に所属していないと、警察や行政の支援を受けづらい。
○ 塀のない小学校では、犯罪等は一つもないと聞いている。できればそのような学校が一番である。新しく家を建てるときは、塀を低くすると「おはよう。」も言いやすくなる。
○ 一人暮らしの老人に関する情報入手は、個人情報保護の観点から難しい。民生委員をやっているため、やっと担当する町会から要援護者の名簿をもらえた。
○ 町会には民生委員が２人しかいない。一人当たり約 120 ～ 130 人ずつ受け持っている。災害があったとき、どうなるか不安だ。
○ 防災活動に町会の人達が参加して、それぞれが役割を受け持つ。災害時には、その人達が活動することとなるので、町会は大事である。

2 第2分科会（参加者の拡大）

（高齢化と後継者）

○ 参加者の高齢化が進んでいる。ビラ配り中転んで怪我した人がいたので、参加者の年齢上限を 88 歳にしようとしている。ボランティア活動を楽しみ、生きがいにしている高齢者もいるので、なかなか断れない。

○ 見守り活動を行う者には高齢者が多い。その高齢者の参加も少なくなり、若い人もボランティアに参加しないため、活動を週５日から２日にした。

○ 防犯ボランティア組織に入り 11 年目だが、その後新しい人は一人も入ってこない。サラリーマンの参加はなかなか難しい。

○ 町会の共通課題は、高齢化と若い人が仕事などで活動に参加できないことである。

○ 65 歳まで働くようになり、ボランティアに協力してくれる人が少なくなった。若い人が全然入ってこない。それが一番の悩みである。

○ 後継者がなかなか見つからない。自身の健康のためにもなるし、地域の人とも顔が広がり良いことだと勧めるが、なかなか参加してもらえない。

（拡大方策）

○ 自分たちの活動に共感した人だけで活動している。

○ 町会長や副会長が定年退職する人を訪問して、「退職したらボランティアどうですか。」と参加を勧めている。

○ 子供達にチョッキを着せて、午後６時頃から１時間程度見回る。保護者が付いてきてくれるので人数が集まる。

○ 自治会の防犯担当のほか祭りも担当している。祭りになると 100 人体制を敷くため、「（お手伝いを）頼みますよ。」と声をかけ、『一杯飲み会』を頻繁にやる。そこから絆ができる。こうしたことが防犯活動にはとても重要である。

○ 積極的に参加を促していないため微増である。

○ 下校時間に合わせ掃除している。その際、子供達に遠くから声をかけている。仲間を募ろうと思っても入ってもらえない状況。地道に頑張ろうと考えている。

○ 新しい人を入れるしかないが、宣伝方法がわからない。

○ 50 代～ 80 代の仲間は大勢いる。次世代につなげる方法がわからない。

○ 自治会活動に参加していないサラリーマンを引っ張り込みたいと、プラス面をアピールして声かけしている。

（若い世代の参加）

○ いつでも受け入れるので、ずっと活動してもらえる人がほしい。だんだん年をとるので若い人に入ってもらいたい。

○ 大学の部活と連携して防犯活動を行ったが、２、３回しか続かなかった。
○ 防犯協会の活動に若い世代を誘ったところ、一度は 30 代、40 代の人も来てくれるが、２回目、３回目となると、なかなか来てくれない。
○ 我々の年寄りグループの中に若い人も入ってもらうきっかけができると良い。
○ 学生が参加すると確かに若返るが、一時的なものになる。地元の若い人が毎回出て来られるようにするにはどうしたら良いか。
○ 若い人を無理に誘っても駄目。積極的にボランティアへ参加してくれる人でないとどうにもならない。
○ 若い人がボランティア活動をやれば、それが将来につながっていく。
○ 高齢者と若い人の交流の場をつくらなければいけない。そこで意見交換ができると意識や活動内容も変わるのではないか。

（学生ボランティア）

○ 警察署からの依頼により学生ボランティア団体を設立した。福祉系のボランティアが多い大学で、防犯は異質のため不安だった。参加人数の増減には問題ないが、学生同士の横のつながりは薄い。
○「学校で夜の見守り活動を始めよう。」と話し合い、一度活動してみたが、地域との連携がないと「不審者が来た。」と思われてしまう。オレンジの腕章を付けて活動しているが、あらかじめ地域に活動を伝えるようにしている。
○ 登録は 40 名であるが、実質パトロールに出ているのは 20 名位。防犯活動は土日などに行うことが多いので、メンバーは交代で参加している。
○ ボランティア活動に参加する学生は、主に公務員を目指すなど防犯意識が高い。しかし、まだ参加者が少ないと感じている。
○ 当初、学生ボランティアに入った理由は、何となくだったが、活動を通じて地域の人と係わるのが楽しくなった。学生時代にボランティア活動することで、社会に出てもその経験が活かせる。
○ ボランティア活動をすると、何らかのメリットがあり、自分のためになる。就職活動のネタになることも多い。計算してやるものではないが、それでもやらないよりは良い。
○ 高校生・大学生のボランティアは、年寄りが褒めてあげることで喜びを感じ、「やりがい」につながっている。
○ 日本大学や成城警察署付近の大学同士が集まって活動している。他大学とコミュニケーションをとりながら連携することが必要だ。
○ 若い人がいると勢いも出るし、大切でありがたいと言われた。地域の防犯は非常に大事なので、これからもしっかり参加していきたい。
○ 大学生の防犯ボランティアである。振り込め詐欺や、自転車のマナーアップの声かけ、交通安全教室のお手伝い等をやっている。自分達も仲間を増やして頑張っていきたい。また、自治会や他の団体の方と交流したい。

○ 学生に参加してもらえるのは非常に嬉しい。若い人が参加してくれると我々も士気が上がる。
○ 隣接する地域に大学があるので一緒に活動したい。
○ 学生は大学が所在する地域との交流が少ない。ボランティア活動を通して、地域の人と交流することで地域に愛着を持つようになるのではないか。
○ 地域との交流を深め、同じ目的を持って活動することにより、若い人、年長者のそれぞれに得られるものがある。
○ 他の学生と世間話はできても、踏み込んだ話ができずもどかしい。活動終了後も、授業のためすぐ解散してしまう。交流のための場が設けられたら良い。
○ 行政や警察に「交流の場をつくってください。」と言えば、設けてくれるのではないか。
○ 中高年齢層は子育て、仕事が忙しく無理である。やはり大学生の参加は重要である。
○ 中学生の場合はボランティア手帳がある。活動に参加するとボランティア手帳に判子が押され、生徒はボランティア手帳を見て「こういう活動をした。」と思い出作りになる。

（活動内容の充実・工夫）

○ お盆と年末は、子供も一緒にパトロールを行っている。小さな子供は、保護者に同伴してもらっている。また、参加した子供たちには感謝状を出すことにした。これは非常に良かった。
○ 毎日のパトロールは、朝９時から夜９時までの時間帯のうち、ランダムで行っている。以前は非常に空き巣被害が多かったが、パトロールを始めると『空き巣被害ゼロの月』となるなど、すぐに効果が現れた。
○ パトロールの時間帯は、試行錯誤を重ねた結果、11 時から 12 時、天気に関わらずやると決めた。その結果、みんな出て来るようになった。今では歯を磨くのと同じである。
○ パトロールへの参加は自由で強制はしていないが、みんな来てくれる。顔見知りが声をかけると、足腰が痛い人まで出てきてくれる。
○ パトロールの標語をいっぱい作った。その中の１つに、『能書きも肩書もいらないパトロール』というのがある。
○ 子供見守り活動は、朝きちんと起きないといけないため、規則正しい生活となる。
○ 日頃から、「おはよう。」「かわいいわね。」「暑いわね。」と声かけや挨拶などをしている。そうすると最初は黙っていても、いずれ返してくれるようになる。
○ 子供見守り活動に参加したことで、地域に溶け込むことができた。保護者とも非常に親しくなった。
○ 防災や消防団、防犯、交通安全の関係者が集い、お茶を飲みながら話し合える場所としての『番屋』の設置を行政などに提案している。
○ 防犯活動は、警察ができる範囲、行政でなればできない支援、民間のパワー、これらが三位一体として機能しなければ良い取り組みが行えない。
○ 災害ボランティアは、大学などで相当細かく組織ができている。防犯と防災が一緒になれば、災害ボランティア組織も防犯のほうに引き入れることができる。

（行政や警察との連携）

○ パトロールは、警察官に同行してもらって活動するとよい。警察官がいるだけで、防犯活動であることが一目でわかる。夜のパトロールなどは特にそうしたほうが良い。

○ 毎月 20 日は安全安心の日で、パトロールが決まっているが、警察はいろいろなことを言って来て、皆決めてしまう。そうすると皆働いているので、人集めが難しい。

（学校・ＰＴＡとの連携）

○ 見守り活動の担い手が年寄りばかりであったため、ＰＴＡに働きかけ、連携した活動ができるようになった。

○ 社会福祉協議会を通して、地元の学校へボランティアの募集をすることができる。ただし、両親の承諾が記載された証明書が必要となる。

○ 幹線道路のゴミ拾いを行うため、６つの中学校に声をかけたところ、120 人位が集まった。参加した中学生達は「通行人に褒められて嬉しい。」「拾うのは大変だから、汚すのは止めよう。」と感じたようだ。

○ 地域活動の中で、異世代がふれあえるよう一晩学校で暮らす企画を開催したところ、ＰＴＡや保護者の意識が一変した。『異世代交流の会』などをつくれば、スムーズに腹を割って話せるようになるのではないか。

（自治会・町会との連携）

○ 学区内にある３つの町会が連携し、防犯カメラ６台を取り付けた。設置にかかる費用には、都と区の補助金を活用した。

○ 町会として『まちなかサロン』を協力者の立場で運営している。実施主体は社会福祉協議会などであるが、町会がこのような場を設けても、町会未加入者が多いため参加してくれない。

（企業との連携）

○ 渋谷区はオフィス街なので、地元企業との協力の必要性が出ている。

○ お金と人を出してもらうという点で、企業は必要である。

○ 近所に企業があるので、会社の人達に「新人教育にどうですか。」「町内の人と仲良くするのはどうですか。」と声をかけると来てくれる。

（活動費）

○ 活動費は区の助成金やバザー等を行い捻出している。区や警察が非常に力を入れてくれて、三位一体で活動しているので、活動経費の面は苦労していない。

○ 一番の悩みは活動の維持である。ボランティア活動は、交通費も全部自己負担。休憩時に出すお茶などのような活動費がほしい。冬は、焼き芋や肉まんなど出してあげたい。ボランティア活動へもある程度の経費補助をいただけるような制度が必要ではないか。

○ ボランティアは報償を求めてはいけないと言われるけれど、少しは報償がほしい。

○ 大学の中にボランティアセンターがある。活動終了後は、学校が経費で麦茶などを出してくれる。ボランティアを支えている。

○ 町会に加入していれば、町会の活動として町会や自治会の予算から、多少は活動費を補助してくれる。

○ 防犯活動に対する支援として、帽子などは貸与されるが、活動のための補助金は出ない。しかし、防災活動には補助金が出ている。

○ 六本木では企業が補助してくれる。パトロール活動なども、会社からの指示により企業の方が参加してくれる。企業は経営者のＯＫが出れば、従業員もお金も出してくれる。

（その他）

○ 地域づくりに興味があったため、ワークショップに参加した。このような場を体験すると、「こういう意見交換が、これからの日本を作っていくのに重要だ。」と気付く。

○ このようなワークショップに参加すると、学生だけではなく、いろいろな方と出会えるのでコミュニケーション能力が身に付く。

○ 無償ボランティアは、これから先は成立しない。

○ 有償ボランティアにしないと無理である。ある大学ではボランティア活動をするために授業を３回まで欠席しても良いという制度がある。そういった協力・支援体制が整備されないと上手くいかない。

○ 防犯パトロールに入った理由は、親を亡くしたとき町会にお世話になり、自分にできる恩返しとして、パトロールならできると思い始めた。

3 第3分科会（行政や警察との連携）

（連携の内容）

○ 活動内容を報告書にまとめ、警察署と区役所に提出している。
○ 町会とは異なる自主防犯ボランティア団体だが、区や警察署と連携して、イベントやパレードなどにも参加している。
○ 警察署で防犯指導員のような研修をやってもらえる。連携は上手く取れている。
○ 毎月 20 日に、警察官と一緒にのぼり旗を持ちタスキをかけて、駅前までパトロールしている。
○ メンバー募集のチラシを持参して、警察へ挨拶に行ったところ「喜んで協力しますよ。」と言われた。
○ 振り込め詐欺防止キャンペーンを、毎月 15 日に必ず行っている。区の安全パトロール隊も、のぼり旗やタスキ、ティッシュを持ってきてくれる。青パトで２～３人来てくれる。
○ 区によっては補助制度があり、「こういう団体を作った。」と申請すると、ジャンパーや腕章、帽子などを作るための補助金をいただくことができる。
○ 防犯用のジャンパーは警察署で配っている。
○ 学校でのボランティア活動は生徒会がまとめて行っていて、外部のボランティア活動は町会や警察署と行っている。最近では防犯等キャンペーンをしたり、公園の花壇に花を植えている。
○ 区内で地域活動をするとポイントシールがもらえる。ポイントが貯まると、商品券等に交換できる『長寿応援ポイント』という制度もできた。防犯活動の場合、１回 200 円とありがたい制度である。

（連携の課題）

○ 察や行政は、担当者の異動が頻繁なことが課題である。
○ 行政や警察、学校が一体となっているケースは非常に少ない。縦割り組織で、情報はそれぞれが持っており出してくれない。
○ 行政では、いろいろなサービスを行っているが、それを知らない人が多い。知っている人だけが利用し、他の人は上手に使えていない。
○ 行政や警察が情報の共有化をしていない。
○ 警察、消防、役所は縦割り過ぎて、お互い関係がないとなってしまう。これからどうやって変えていけばいいのかが課題だ。
○ 警察は行きやすいが、消防には行きにくい。もっと消防署も門戸を開くことが大事ではないか。
○ 役所関係は入りづらい。どこに行って、どうしたら良いかわからない。地域で聞かれた時にお手伝いができるよう勉強したい。

○ 行政が事務局をやってくれると各町会は必ず人が集まる。しかし、中身は自分達でつくっていかなければいけない。そのための時間が必要という悩みがある。
○ 警察署から協力依頼がある。月２回程度なら協力できるが、それ以上となると協力してくれる人は少ない。警察署からの協力依頼が増えることに悩んでいる。

（連携の強化）

○ 豊島区がセーフコミュニティの認証を受け、池袋駅に大きな看板を掲げた。セーフコミュニティは、防犯、防災、交通事故防止を三本柱としている。単に犯罪防止だけでなく、防災や登校時の交通安全も含めて、子供達を見守ろうとしている。民間だけではできないことなので、行政と警察と民間の三位一体でやることが重要。
○ 行政や警察との連携で最も大切なのは、頻繁に顔を合わせること。訪問して訴えることである。
○ 警察官にもパトロールに参加してもらえるよう、警察署にも顔を出している。顔を出すことは大切だ。
○ 警察との上手な連携のためには、防犯でも、交通安全でも、警察と話をすることが重要だ。
○ 上手に行政と連携するには、役所を訪問し「私はこういう者で、何か私にヒントを頂けますか。ご指導いただけますか。」と聞くことが大事である。まずは足を運ぶ、そしてヒントをもらう、顔見知りになることである。
○ 防犯講習会を受けた仲間達と、毎月１回会って情報交換している。そうすると、行政サービスに違いがあることがわかる。
○ 市では、安全・安心まちづくり条例に基づいて、必ず安全・安心まちづくり連絡会を開催する。警察、防犯、交通、消防、保健所、教育委員会が参加し、意見交換・交流をしている。その結果を各団体が持ち帰り、関係者へ周知している。
○ 行政との連携は顔を合わせて親近感を持つことが第一歩である。
○ 防犯も交通安全もあるいは防火も、警察署以外に消防署等との交流も必要ではないか。
○ 行政と警察と地域とが三位一体になって活動すると、非常に大きなことができる。警察には力があるし、行政にはお金がある。地域には気持ちがある。

（活動内容の充実・工夫）

○ パトロールの年間スケジュールを作り、それに基づいて活動している。
○ 夜の防犯パトロールでは、ハンドマイクで「只今、防犯パトロール中です。」と言いながら、拍子木を叩いている。また、昼間のパトロールは子供達の下校時間に合わせて実施している。
○ 団地内で、週１回、拍子木を叩きながら夜間パトロールを行っている。
○ 区内には、様々なパトロール隊が多数存在している。そのおかげで、侵入盗やひったくりなど減ってきており、パトロール隊の活動が評価されている。
○ パトロール隊が神経を集中して活動してくれていることにより、下着泥棒がいなくなった。これはパトロール隊の活動成果である。

○ パトロールで一番大事なのは、「誰かが見ているぞ。」と知らせることと、「実行犯にさせない。」という気持ちを持つことである。
○ 警察からいただいた赤色のユニフォームを着用して住宅街をパトロールしていると、「ご苦労さまです。」と声をかけてくれる人々がいて、やりがいを感じる。
○ 警察からもらった緑色のチョッキを着用してパトロールしていると、「どうもご苦労さまです。」と言われ、何か嬉しくて偉くなったような感じになる。

○ パトロールのとき、トングを持ってゴミを拾っていると地域の人達に感謝される。
○ 地域を第１～３ブロックに分け、必ずどこかのブロックで車両による広報活動を行っている。また毎月、チラシ配りなどによる防犯キャンペーンを行っている。
○ 銀行ではなく、ＡＴＭで高齢者の方に振り込め詐欺防止の声をかけている。
○ 会員は 180 数名在籍し、必ず月１回位は活動するように呼びかけている。会員になった以上は何か活動をしたいという意見が多い。
○ 団体構成員は仕事、子育て、介護をしている年代であり、一緒に防犯パトロールを行うという発想はなかった。ただ、それ以外で地域の安心に繋がるような活動ができないかと考え、プランターを配付し、プランターに水をあげる時間を『見守りタイム』にしてもらっている。この活動によって意識啓発をしている。
○ 現在は、交通安全協会や防犯協会、防災協議会などが、バラバラに活動しているため、人数が足りないなど課題も多い。これを解消するためには、いつでも団体同士がお茶を飲めるような場所を行政が提供し、そこで情報交換が行えるようにすると良い。防犯と防災は、消防団も含めて同じメンバーにより取り組まれることが望ましい。一緒にやっていかないと、まちを守ることはできない。

（若い世代の参加）

○ 防犯ボランティア活動に、もっと若い人達が入ってきてほしい。老人会のみでやっている地域もある。
○ 行政や警察から働きかけて、地域パトロールなどに、若い人をどんどん送り込んでくれないと大変である。昼間はお年寄り、夜は若い人というのが理想である。
○ 若い時にボランティア活動を経験すると大人になっても取り組みやすい。大人になって未経験から始めようとしても難しい。
○ 活動の主力は婦人部や防犯協会であり、メンバーは年配の方が多い。何とか若い人に入ってもらいたいが、なかなか難しい。
○ 子供が狙われる時間帯は、主婦は忙しく、手が離せなくなる時間帯と重なる。見守り活動に参加できない。

（学生ボランティア）

○ 学生ボランティアによる小学生の下校時の声かけは、「さよなら。」「気を付けて帰ってね。」のふた言だけれども、参加した学生は「本当に楽しかった。」と話している。

○ 東日本大震災以降、着実に学生のボランティア意識が高くなっている。「ボランティア活動をしてみたい」という気持ちがあるので、それに応えてあげたい。

（学校・ＰＴＡとの連携）

○ 月１回、学校の校外委員と防犯指導員、町会役員、防犯部が合同でパトロールを行っている。

○ ＰＴＡのお母さんと一緒に１時間、遊んでいる子へ「気を付けて帰ってね。」「暗くなるからね。」「５時になったよ。」と声をかけている。

（町会との連携）

○ 目白大学の学生ボランティア（ピーポーズに登録）は、地元の行政との連携により、区のイベントには参加しているが、地元の町会などとのつながりは全くない。何とか、上手く連携できないか。

○ 町会長のリーダーシップが重要である。警察、行政、学校でも、（町会と）連携を取りたいときは、まず町会長さんに話を持っていくと良い。

（その他）

○ 防犯協会会長のリーダーとしての姿勢は、ボランティアの方々の取組意欲や積極性に大きく影響する。

○ 一日警察署長として芸能人を呼び、横断幕を持って商店街をパレードしているが、犯罪の抑止になるのかと疑問。

○ 警察でも行政でも、振り込め詐欺防止ばかりやっていて少し疑問を感じる。

○ 活動にはお金が必要である。行政にはもう少し支援してほしい。

○ 商店街がなくなってきているが、やはり必要だと思う。商店街があった時代は、声もかけやすく防犯の役にも立っていた。

○ 最近、近所の子供の顔と名前が全くわからない。昔は、この家のお子さんだとわかったので、注意する時もこの家に行けばというのがあったが、今はない。

○ 住民も、顔と名前が分かりづらくなっている。マンションは、住人の出入りが激しい。

○ 行政は縦割りで、他自治体と横のつながりがない。警察も他の管轄に口出しができない。しかし、地域住民による情報交換により、信頼関係など様々な効果が生まれる。他の地域の行事に応援に行くこともできる。

4 第4分科会（学校・PTAとの連携）

（連携の内容）

○ 町会では、毎月 20 日「５時回り」という見守り活動を小学校のＰＴＡの方と一緒に実施している。

○ 学校と連携し、週２回午後３時から５時頃まで青パトでパトロールしている。そのほか週１回ＰＴＡと巡回している。

○ 毎年、区の「環境行動の日」に、６校の中学生を 120 人位集め、幹線道路のごみ拾いを行っている。道行く人が参加した中学生を褒めてくれる。褒められると中学生はやる気になる。

○ 防犯活動に若い人を入れることを目標に、ＰＴＡ校外委員に協力してもらい防犯マップをつくった。子供達から見て「危ない･怖い」という場所を抽出した。子供見守り隊として、お母さん方が協力してメンバーを出してくれた。

○ ＰＴＡが行事参加のポイント制度を設けている。自分達の団体にパトロール参加すればポイントをもらえるようにしていただいた。その結果ＰＴＡの方々も参加するようになった。

○ 町会では１年ごとに班長が決まり、順番でほとんどの人が班長になる。町会では年１回、前年度の班長と次年度の班長が旅行に行ったりして、交流を深めている。

○ 地域防犯活動に町会からのバックアップがあれば活動が活発となり、事故や空き巣、ひったくりなどの犯罪が少なくなる。

○ 町会と連携するため、子供達の誕生日給食会に、毎月各町会から２人ずつ参加させるようにしている。１年生から６年生まで一堂に会して一緒に食べる。そこで顔見知りになる。組織作りは、見えることをやれば付いてくるのではないか。

（連携の課題）

○ 学校との連携については、話し合ったことがない。ＰＴＡでも防犯パトロールをしているようだが、活動が重なることはない。

○ 先生方にとって、ボランティア活動はうっとうしいようで、「必要ないのか。」と感じるときがある。

○ 学校、ＰＴＡと防犯の話をする機会が全くない。話し合いの場を持つべき。

○ 学校と地域が話し合って、検討した方が良い。

○ 町会には、未就学の子供が参加できる行事が少ない。若い夫婦は町会に入らないし、入っても何もしない。町会離れは仕方がない。

○ 町会は、昔から住んでいる人が大威張りしている構造がある。

○ 自治会から抜けているので、町のお祭り等には参加していない。以前、町会に加入してみたが、地元の人でがんじがらめという印象があったので、抜けてしまった。

○ 防犯上も、人とのコミュニケーションが大切。コミュニケーションを取ることが難しい社会になっており、回覧板も少なくなってきている。近所にどういう人が住んでいるのか全然わからず、地域のつながりが分断されている。

○ お年寄りが活動する午前10時から11時頃に防犯活動を行っているが、何故かあまり人に会うことがない。学校やＰＴＡ、地域の方とコミュニケーションを取り、地域のことをわかってから活動しないと意味がない。

○ 引越ししてから５年。古くから住んでいる人が多く、溶け込むのが難しい。

（連携の強化）

○ 育成会連合会では、子供に関係する団体が集まり、話し合いの機会を設けている。警察も同席している。

○ 学校は、「地域で生徒を見守ってください。」と地域の高齢者の方にお願いするが、どのようにして見守る組織を立ち上げ、スクラムを組むかは町会の対応次第である。

○ 地域の安全･安心活動は、学校が主体となってはいけない。学校は授業を教える場であり、地域が率先して、学校に協力を求めることが重要である。

○ 学校と連携するのは非常に難しい。ただし、毎日通学路に立っていると、ＰＴＡの方なども見ている。そういう所からきっかけを作るのが第一だと思う。

○ 学校は「連携、連携」と言うが、あまり連携がうまくないと感じるので、こちらから学校側に行くと良い。

○ 一番大切なのは、ＰＴＡと83運動であり、ＰＴＡは結構大きな力を有している。ＰＴＡやＰＴＡ連合会で子供見守りの人材育成を図ると効果的である。

○ 自分が地元住民であるという立場で、防犯意識を持つことの大切さを改めて実感した。地域住民の連携もなくなってきているので､町会活動にも目を向けるべきだと気付かされた。

○ 学生も地域の人々と連携を取りたいと思っている。

（活動内容の充実・工夫）

○ パトロール活動は危険なので３人以上で行っている。雨天時は行わない。

○ パトロール中に、「こんばんは。」「お帰りなさい。」と挨拶をしている。最初は戸惑っていた子供達も、今ではちらから声をかけてあげると、「こんばんは。」と返すようになった。

○ 定期的なパトロール活動により「この地域はパトロールをしている。」とのメッセージを発信することで、犯罪者は警戒心を強める。犯罪者を地域に入りにくくする。

○ 子供達の登下校の時間に『見張り番』をする。見張り役なので、本当に危ないことがあったとき、注意するだけで十分である。

○ 中・高校生は「おはようございます。」と言っても返事が返ってこないが、何度も繰り返すことで、必ず返事をするような子に成長していく。

○ 地域の『安心すこやかセンター』と連携し、高齢者の家を訪問している。玄関の中に入らず、「ご無事ですか。」という声かけをする。また、その状況をセンターへ報告している。

○ 民生委員は、高齢者の状況がわかるので、民生委員とタイアップしてやると良いのではないか。

（若い世代の参加）

○ 若い人達と、経験を積んでいる人達との交流の場を持ちたい。若い人達にも、経験豊富な人やお年寄りの意見を聞き、自ら活動に反映できるような環境づくりをやってほしい。

○ 若い人達にも育ててもらうという気持ちや姿勢が大事で、つまらないと思う話でも、「得られるものは必ずある。」と耳を傾けていると、良いことを言ってくれるかもしれない。

○ これからは、若い人達がボランティアの道筋を新たにつくっていくことが非常に大事である。そのためには地域との連携は不可欠である。

○ 活動回数を重ねると、お互いがわかるようになるので、若い人達には２回、３回と参加いただいて交流が深まるようにしてほしい。

（学生ボランティア）

○ 高校では、生徒会がボランティア活動をまとめてやっている。町会や警察と一緒になって、キャンペーンや、近くの公園の花壇造りなどの活動をしている。

○ 高校生のボランティア活動を広めてもらいたい。地域にも高校があり、清掃活動をよくやってくれている。高校生が参加する地域パトロールも考えているが、授業等を考えるともう一歩踏み込んでいけない。そのあたりは、大学生と違いがある。

○ 高校生と大学生では活動内容も変わる。高校生は活動の幅が狭まり、学校周辺の清掃活動等が主となるが、それで充分だ。

○ 学生達は、授業などの空き時間に、大学近くの住宅を見回り、ついでにゴミ拾いもする。それを見たお年寄りがそばに寄ってくるので、学生はいろいろな話が聞けるし、褒めてもらえるので非常に嬉しいようだ。褒めてもらえるのは、若者にとっては最大の喜びである。

○ 警察署主催の防犯活動（振り込め詐欺撲滅運動、ひったくり・万引き撲滅運動、交通安全）に参加している。

○ 道を歩いている人にチラシを渡すのは難しいが、理解してくれない（受け取ってくれない）人もいると割り切って活動すると楽しい。

○ 大学生が防犯ボランティア活動に参加していることを初めて知った。もっと宣伝してもらいたい。

○ 学生に防犯ボランティアをやっていただいているのはありがたい。

○ 学生時代にボランティア経験があると、卒業してからもボランティアをやってみようという気持ちが起きてくる。経験の有無は大きい。

○ 学生は卒業して社会人となり、新たな活動地域に根付いていく。その地域でも同じような活動をすぐに行う柔軟性を持っている。非常に貴重な存在である。

○ ボランティアの考え方が根付いていけば、本人にとってプラスになる。住民の社会参加の流れを学校や地域全体で進めていく時代になっている。学校の先生にも積極的にいろいろな活動に出ていただくことが大事である。

○ 学生ボランティアの活動の中には、自治会の方と一緒に活動することもあるので、活動終了後、自治会の方と何も話さずに解散するのはもったいない。

（その他）

○ 最近一番の問題は、朝の酔っ払いの多さである。子供たちの通学路でも傷害事件が発生している。子供は安心して通学できず学校を替えてしまう。

○ 地域の子供達も巣立ち、地元の学校は廃校となり『高齢者のまち』となった。子供が健やかに地域で育てられるようなまちづくりをしていかなければ、まちは発展・継続できない。

○ 一部の区市では、地域安全マップづくりがとても盛んで、ある区は統廃合になる前の学校の区域でほとんど実施していた。しかし、学校や教育委員会により実施していない区市もある。地域安全マップをどうやって広げていくかが課題である。

○ 日本人のボランティアに対する認識が非常に低い。地域がボランティアというものを、きちんと受け入れて認めることが必要だ。

○ 現在の住居は、外構をなるべく高くせず、周囲からの目線が届くような体裁を取り、地域を犯罪から守るというまちづくりが主流となっている。

○ 登下校のとき、高校生が道路いっぱいに歩き、自転車が通れない。小学生もマナーが悪いので、時々注意している。

○ 駅から大学まで警備員を配置している大学もある。

○ 区内の小学生は、ストラップ型のＧＰＳ付きの防犯ブザーを持たされているが、必ず音を鳴らすことができる位置には付いていない。この取組は周囲からの評価が高いが、子供達には負担のようだ。間違えて音を鳴らすと怒られ、位置情報と個人情報がセンターに通報されてしまう。間違えて鳴らす子も多いので、電話機能で内容を確認してから、（必要な場合に）登録しているボランティアが駆け付ける。

○ 身を守るためには機械だけでは駄目。人と人とがつながらないと何にもならない。機械はやはり道具でしかない。大声を出す練習をするとよい。

第3 ボランティア団体等の活動紹介

「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」のアンケートにおいて、参加者の皆さんから「今後の活動の参考となる事例」として挙げられた団体等に、活動状況を取材しましたので紹介します。

1 中野区環境井戸端会議

プロフィール

●名　称：中野区環境井戸端会議
●設　立：平成 13 年
●構　成：中野区環境アドバイザーの資格を取得した人達の集まりとして発足
●参加者：8 名
●設立経緯：中野区の地域環境アドバイザー養成講座の第 1 期修了後、アドバイザー仲間を核にしてグループを結成した。
●活動内容：子供の安全見守り・環境美化等
●活動頻度：不定期（対応可能なメンバーで活動）

鈴木さん（中野区環境井戸端会議代表・中野区白鷺町会環境福祉部長）

ボランティア活動に参加したきっかけ

○ 平成 14 年、還暦を迎え“おつりの人生”で無理なく何ができるか考え、防犯を兼ねたゴミ拾いを一人で始めた。朝 5 時半頃から、袋を 2 つ持って歩き、6 時半頃には家に戻った。ゴミ拾いを始めて 2 か月くらい経った頃、地域の人に「ご苦労様」などと声をかけられるようになり、この一言で活動に自信がつき、昼間の美化活動へと一歩前進させた。

○ 平成 17 年、さらに地域の役に立とうと「東京都安全・安心まちづくりアカデミー」を受講し、いろいろな先生からのお話に目から鱗が落ちた。講座で学んだことを踏まえ、通学路の子供見守りやあいさつ運動、地域安全マップ作製の指導員としての活動などへと活動の幅が広がっていった。

活動費

○ 環境井戸端会議では会費を徴収していない。何か事業を実施するとき、行政機関などの補助金等を活用する。ただし、補助割合によっては自己負担の場合もある。

取組状況

【緑のカーテン】

○ 学校で緑化推進活動ができないかと考え、地元の小学校にゴーヤを使った「緑のカーテンづくり」を提案した。当初は受け入れてもらえなかったが、平成 19 年に新しい校長先生

に再度お願いして、校舎の壁面（窓の外側）に 214 本のゴーヤを植栽することができた。これにより、壁面温度が下がり、室内と室外で６℃の温度差が出た。

○ 隣接自治会にゴーヤの堆肥について働きかけたところ、お年寄りが落葉で作っていた堆肥を快くわけてくれた。また、ゴーヤへの水遣りは他町会からも参加してくれるなど、この活動を通して、小学校を核とした町会、自治会同士の連携ができた。

○ 夏休み前に、子供たちと一緒にゴーヤの収穫祭を行い、給食に収穫したゴーヤを出していただき全校児童で食べた。また、取れた種は翌年の事業に使い、育てた苗の一部は、児童館など地域の希望者に無料配布することで、仲間の輪を広げている。

【子供の見守り】

○ ～挨拶は投げ、返事は受ける～

８年前から小学生の登校時の見守り活動を、ほとんど毎朝行っている。「目立つ格好」で「決まった場所」に立っていると、数回会っているうちに子供達からあいさつをしてくれるようになった。まずは、「知らないおじさん」から「知っているおじさん」にならなければならない。「笑顔で挨拶の響くまち」になれば、子供は必ず返してくれる。

○ 下校時、公園で５人の小学４年生グループに出会い、「ボランティアグループをつくった。ゴミを拾って、この公園を綺麗にしたい。やり方を教えてほしい」と言われた。（校長の了解のもと）休みの日に集まり２つの公園を掃除したこともあった。

○ 同じ時期に町会に防犯パトロール隊が結成され、発起人の一人として活動するようになった。区や警察署などの支援でユニフォーム、ベスト、帽子、腕章、停止灯などのパトロール用装備品を揃えてもらった。また、防犯パトロール隊の自作ステッカーを作成し、隊員の家へ門標として貼ってもらった。

○「いつでも、どこでも、無理なく、自由に」活動できるように、時間も何も決めなかった。「やりたい人がいれば、ユニフォームを着て歩いてみてください。」と声をかけ、仲間を増やしていった。

○ 子供たちとの会話で得た情報の中には、学校の先生も知らないことがある。食事や勉強、行事などいろいろなことが出てくるので、この情報を学校側に伝えている。

【道のゴミ無くし隊】

○ 道のゴミ無くし隊の活動は、幹線道路のゴミを拾って歩く活動であり、平成 17 年から６年間続けた。区内６の中学校の生徒や教師、ＰＴＡをはじめ、企業、町会役員、民生児童員、地域住民、区職員など毎回 130 名を超える参加者があった。

○ 活動後は、小学校の調理室で井戸端会議のボランティアなどで作った「カレーライス」や「すいとん」を全員で食べた。
○ 防犯の第一歩は､「ゴミのないまちづくり」から。綺麗なまちには犯罪抑止力がある。環境が子供を育てるので、大人は環境を良くしなければいけない。

【子供への防犯教育】

○ 子供自身が犯罪に遭わない力を育成するため、学校などで「地域安全マップづくり」の指導員として活動している。フィールドワークにより子供たちが通学路などを点検しながら、「入りやすく・見えにくい場所（危険な場所)」、「入りにくく・見えやすい場所（安全な場所)」を探し、なぜ危険なのか、安全なのかを子供自身が考えるお手伝いをしている。

【学校との連携】

○ ２年前からお誕生会給食を始めた。各町会から２名ずつ参加し、１年生から６年生の子供達と一緒に学校給食を食べる。一緒に食事し、話をすることで顔見知りになる。
○ 学校を核として地域づくりに取り組んでいる。学校から信頼を受けるとＰＴＡとも連携できる。今では学校行事があると各町会に声をかけ、喜んで協力してもらっている。他の町会長などとも仲良くなった。そうした絆は７年になる。

【その他】

○ 学校を中心とした地域に、町会、ＰＴＡ、商店街などと連携して防犯カメラを６カ所付けた。設置後は、この地区でほとんど犯罪が発生していない。防犯カメラを付けた効果が出ている。
○ ７年前に警察署から放置自転車の警告札をもらい放置自転車対策に取り組んでいる。
○「子供 110 番の家」への“駆け込み体験”や年末にはＰＴＡとの協働での子供防犯環境パトロールなども行っている。

目 標

○ ～一人の 100 歩より 100 人の一歩を目指して～
大人も子供も地域社会の一員である。お互いを尊重し、生活や社会のことをともに考え行動し多くの仲間を育てたい。また、これまでの活動で垣根が外れた３町会とＰＴＡ・学校が連携し、子供達の笑顔とあいさつが響くまちにしたい。
○ 公園周囲の「子供 110 番の家」を増やし、地域から放置ゴミが消え、緑豊かな環境の良い安全で安心できる住みよいまちにしたい。これからも、“大人が環境を育て、環境が子供を育てる”をモットーに、安全・安心なまちづくりに取り組んで行く。

2 SVS（成城警察署管内大学防犯ボランティア）

プロフィール

●名　称：ＳＶＳ（Student Volunteers of Seijo Police）
●設　立：平成 23 年 9 月 19 日
●構　成：成城警察署の管内にある日本大学、日本女子体育大学、成城大学の学生有志によるボランティア（平成 24 年 12 月末現在、213 名）※個人ごとの登録
●設立経緯：平成 23 年春の警察署協議会において、委員の方から「管内の犯罪防止のため、若い人に防犯ボランティア活動への参加を促してみては。」との提案を受け、大学生ボランティアを募集、設立に至る。
●活動内容：振り込め詐欺をはじめとする犯罪抑止に向けた啓発活動
（例）・　振り込め詐欺防止キャンペーンへの参加（偶数月の年金支給日）
・　地域パトロールへの参加
●活動頻度：不定期（月に 1･2 回程度）
●感謝状制度：10 回活動に参加すると、成城警察署から感謝状が授与される。

廣澤さん（日本大学文理学部４年）
青木さん（日本大学文理学部３年）

ボランティア活動に参加したきっかけ

○ 大学の公務員講座で成城警察署が防犯ボランティアの募集を行っていることを知った。警察官を目指していたこともあり、気軽に参加してみようと思った。
○ 成城警察署管内に住んでいるので、地元をもっと知るために防犯パトロール等をやりたいと思った。

活動費

○ パトロール等に必要なチョッキや合図灯などは、その都度、警察署から貸与されるので活動費は不要。

取組状況

【チラシの配布】

○ 振り込め詐欺防止のチラシを配るとき、最初に「成城警察署のボランティアです。」と名乗ると受け取ってもらいやすい。

○ 子供への声かけは親が警戒するので、まず親に声かけをするなどの工夫が必要。
○ 警察から貸与されるチョッキを着ていると警察官に間違えられ、道を尋ねられることもある。
○ チラシ配布に当たっては、しっかりキャンペーンの趣旨を理解していないと、相手にそのことを伝えられない。
○ チラシなどを配布するときに、相手と話をするといろいろな情報を聞くことができる。
○ 成城警察署が被害状況や犯人逮捕などの情報を教えてくれるので、チラシを渡すとき、そうした実例を話すと真剣に話を聞いてくれる。

【感謝状制度】

○ 10回参加すると感謝状をもらえ、履歴書にボランティア活動の実績（地域活動に貢献）を書くことができる。
○ こうした感謝状制度は、ボランティア活動に参加するきっかけとしては良いと思うし、インセンティブとなる。
○ 感謝状や履修単位がもらえるから参加するのではなく、ボランティア活動の趣旨に賛同して学生自らが積極的に参加してほしい。
○ 10回参加して感謝状をもらう頃がボランティア活動に慣れてくる時期で、15回位参加するといろいろな人と話ができるようになる。まだまだ振り込め詐欺等の被害が出ているので、さらに活動したい。
○ さらにボランティア活動を継続するためのインセンティブとして、20回参加で顕彰バッジの授与も考えられる。ただし、ボランティアにはインセンティブなど要らないという考え方もある。

【ボランティア活動への参加】

○ 公務員志望の学生は、年明けから試験勉強のため参加できない人が増える。
○ 日本大学では、３年生で公務員講座を履修するので、２年生までの参加が得られない。講座以外でも活動を紹介すると意欲のある１・２年生が参加するかもしれない。
○ 遠方から通学している学生が、講義のない日にボランティア活動をするのはきつい。
○ 同じ学年でもあまり交流がない。同学年で交流すれば就職の話で盛り上がることもある。パトロールのときなど二人一組の活動もある。
○ 就職課などに（ボランティア募集の）ポスターを貼れば１、２年生へも周知できる。
○ 東京オリンピック招致に絡め、「招致のためのまちづくりに貢献しませんか。」とのうたい文句を付ければ、自分もやってみたいと思う学生もいるのではないか。

○ 今後は、ボランティアに熱心でない学生にも積極的に声をかけて頑張りたい。
○ 就職活動の面接時にも、学生時代に取り組んできたボランティア活動がアピールポイントになる。就職難の時期に人と違うことに取り組むと、長所としてアピールできることをＳＶＳの新たな魅力にしてはどうか。
○ 若い人は１日の大半を過ごす大学がある地域を自分には関係ないと思っている。地域の町会や自治会等と接点を持ってはどうか。

【他大学の学生との交流】

○ 他大学の学生とも交流したいが、何の情報も持たないまま意見交換をしても重たい空気になるので、一緒に活動した後に交流会をしたい。
○ ＳＶＳの学生全員が集まって話す機会がない。年に何回か警察署に集まり、情報交換するだけでも輪が広がる。学生目線の提案もできる。
○ 現在は個々の集まりとなっていて、全体がまとまることはない。まとめ役がいた方がより良い取組ができる。

【その他】

○「ピーポくん」のプリントがあると安心する人もいる。

ボランティア活動に参加して思うこと

○ チラシ配りをしているとき、「（この情報を）ほかの人にも伝えるね。」と言ってもらえると、広報活動としては成功だろうと感じた。
○ キャンペーン活動で配布した「ひったくり防止カバー」が自転車に取り付けられていると、自分達がやってきたことが目に見え、役に立っているという実感が湧く。
○ 防犯活動を通して自分の地域のことがわかると、さらに防犯意識が高まる。
○ ＳＶＳに参加して、たくさんの町会の人が活動していることがわかった。それを知るだけでも全然違う。
○ 活動のきっかけは感謝状でも、活動をしたり、人の話を聞くことで認識が変わる。やりがいもでてくる。
○ 若い人は自分のおばあちゃん、おじいちゃん以外、お年寄りと話す機会は非常に少ない。ボランティア活動を通じていろいろな年代の人と話せるのは大きなメリットで、社会に出た時に大変役立つ。そういう面をアピールすれば良いのではないか。いろいろな年代の方と話をすると、価値観や意識なども変わる。

失敗したなと思ったこと

○ 声をかけやすい人とかけにくい人がいるが、声をかけにくい人の所に行くのは、やはり気が引けると思ってしまう。
○ 自転車利用のマナーを知ってもらうためのビラ配りをしたとき、駐車違反の取締りと間違われ、「私の何がいけないんですか。」といきなり怒鳴られた。
○ 笑顔で行うようにしているが、挨拶しただけでも構えられてしまうことがある。
○ 夕方の駅前で急いでいる人にもビラ配りをして、怒られたことが何回もあった。

3 麻布地区の生活安全と環境を守る協議会委員

プロフィール

●名　称：麻布地区の生活安全と環境を守る協議会委員
●設　置：平成 16 年 4 月 1 日
●設立経緯：港区の「安全で安心できる港区にする条例」第11条に基づき、地域における生活安全活動を推進するため、総合支所を単位として 5 地区に協議会が設置された。
●組　織：協議会に 2 分科会を設置
①生活安全分科会（自転車・自動二輪車対策、公園・道路の安全対策）
②環境美化分科会（落書き・ピンクチラシ対策キャンペーン、タバコルールキャンペーン）
総数 100 名以上（所属団体：区・警察・消防・六本木町会など 83 団体）
●定期的な防犯活動
1) 麻布地区の生活安全と環境を守る協議会及び分科会の開催並びに地域活動
2) 六本木をきれいにする会（平成 8 年 10 月結成）
①活動内容：清掃活動
②活動頻度：毎週金曜日　20:00 から 1 時間程度
③活動時期：通年
④参加者：100 名以上／回
3) 六本木安全安心パトロール隊（平成 16 年 12 月結成）
①活動内容：パトロール
②活動頻度：朝パトロール（隔週金曜日　07:30 から 1 時間程度）
夜パトロール（隔週木曜日　19:00 から 1 時間程度）
毎月 1 回水曜日　20:00 から 1 時間程度
③活動時期：通年
④参加者：朝パトロール　15 名程度／回
夜パトロール　30 名程度／回
毎月 1 回水曜日　30 名程度／回
4) 児童見守り隊
登校時　07:30 から 1 時間程度　3 名
下校時（午後から夕方）人が通る時に見守り　1 名
5) 地域の特徴：六本木地区は、東京でも有数の繁華街であり、都内の他の地域とは異なる様相を呈している。

小林さん（麻布地区の生活安全と環境を守る協議会委員）

ボランティア活動に参加したきっかけ

○ 六本木地区で会社を起業したとき、「地域に根差した取組をして、周りから評価されないと駄目」とアドバイスをいただいた。そのような中、協議会の取組を紹介され、加入することとした。

○ 協議会には、「パトロール隊」や「まちをきれいにする」活動を行っている委員がいて、その活動に共鳴を受けたことから、積極的に参加するようになった。

活動費

○ 活動費は、行政からの助成金や寄付金で賄っている。助成金は用具、寄付金はお茶代に使っている。

【意　見】

○ 腕章や合図灯はタダではないため、無償のボランティアは継続が困難となるケースが多い。しかし、すべて行政の予算で活動するのであればボランティアは必要ない。行政は、地域のニーズに応える支援や補助制度などを整えて、参加者の増加に努めてほしい。

取組状況

【防犯パトロール】

○ 有数の繁華街を有する地域特性から、パトロール中のトラブルを想定し、警察官に同行を依頼している。

○ 六本木パトロール隊の見守り活動に、社員も３人程度参加している。朝７時から交差点に立ち、登校中の小学生が来ると一緒に学校まで歩いて送り届けている。中学生には声をかけるあいさつ運動を実施している。

【環境美化分科会の活動】

○ 活動に必要な物品は行政から支給を受け、落書き消しやゴミ拾い、違法駐輪の取締り、打ち水作戦などを行っている。

【放置自転車対策】

○ 区内に新たな放置自転車の集積所ができたことから、条例による撤去が可能となった。撤去のための手続きとして、区の指導のもと警告札を付ける活動をしている。

【行政や警察との連携】

○ 協議会には、住民や企業、警察・消防、道路管理者などの行政担当者も出席する。警察や消防などへの質問も即答できるものはその場で答えてもらっている。また、答えられないものも持ち帰り、次回必ず報告される。このように協議会を通じて警察や消防などともコミュニケーションが図られている。

○ 以前、警察署が音頭をとり、ボランティアと交番勤務の警察官とのコミュニケーションが深められるよう「ランチミーティング（昼食会）」を設けられていた。
○ 交番勤務の警察官は「地域の顔」であるので、絆を深めた方が良い。六本木地区では地域の事情をよく知る警察官の協議会への参加協力が得られたことで連携が図られている。
○ 落書き消しやゴミ拾いには、警察署の少年柔剣道の子供達も参加している。

【防犯ステーション設置の夢】
○「明大前ピースメーカーズ」を見学したとき、「これだ。」と思った。地域住民の安全・安心まちづくりを実現するために、地域にはこのような場が必要と感じた。
○ 六本木地区における防犯や防災活動は、住民が少ないため在勤者が手伝って成り立っている。さまざまな行事があり、防災及び防犯、交通安全などの団体により取り組まれているので、活動拠点となるステーションを設けて交流できるようにするのが夢。
○ ステーションを設置し、例えば、「明日、交通安全行事があるよ。」と情報交換することで、防犯や防災の関係者も参加できるようになると良い。

【ボランティアの課題】
○ ボランティア活動を行う上で、２つの課題がある。１つはボランティア活動もそれなりの資金がないと長続きできない。自治体も全地域画一的ではなく地域別に濃淡を付けて、強化地区へは相応の補助をすべきではないか。２つ目は、ボランティアは非常に無責任な面がある。責任がないから、休んでもよいという人もいるのではないか。資金援助等条件が整えば無責任にならないと思う。
○ ボランティアとは自主的な活動であり、行政の施策に参画することをボランティアと呼ぶには違和感がある。
○ 六本木地区の場合、ボランティアというよりも行政の施策に、地域の企業が参加協力することが多い。

【行政との連携】
○ いろいろな活動に区民を参画させてくれる港区の取組姿勢はとても良い。
○ 港区の行政サービスはきめ細かく大変良くできているが、コミュニケーションづくりなどの地域活動を進めるためには、協議会にもっと権限と財源を与えれば良い。

【その他】
○ 保護者はこの地域の治安が非常に悪いと感じているので、子供を隣接地区の学校に行かせてしまう。
○ 参加者を増やすためには、資格制度や顕彰制度といった「生きがい」や「やりがい」を見出す仕組みづくりも必要。

4 亀戸二丁目団地管理組合自治会

プロフィール

●名　称：亀戸二丁目団地管理組合自治会
●設　立：平成 16 年（パトロール隊結成）
●設立経緯：東京都安全・安心まちづくりアカデミーを修了し、その内容を生かすために組織化した。江東区からの依頼により登下校時の子供見守り活動をスタート。
●メンバー：パトロール隊　約 60 名
●活動内容：居住地内パトロール／登・下校児童の安全パトロール／防犯・防災研修会の訓練／各種イベントでの防犯・ＰＲ活動／行政・警察のイベントに参加　等

小関さん（自治会会長）
植村さん（副会長）

活動開始のきっかけ・自治会の独立

○ ボランティア活動は、昭和 41 年の管理組合設立をきっかけとして開始した。この管理組合は、建物管理と自治活動の両方行っていたが、平成５年に理事会と自治会に分離した。自治会は外部の交渉窓口をはじめ、防犯パトロールやお祭りなどのイベントのボランティア活動を行っている。

○ パトロール隊は、これまで個別に見守り活動をしていたものを組織化し、役割分担や服装などを定めた。

活動費／資材の調達

○ 防犯活動の資金は、自治会費から充当している。資器材は、警察署や行政機関からの支援を受けている。

取組状況

【夜のパトロール】

○ 定例パトロールは、毎週金曜日の夜９時から 10 時頃まで、拍子木を打ち鳴らしながら防犯・防火を呼びかけている。５人１班でパトロール隊を編成しているが、自主参加する人も毎回いるので、あわせて常時 15 名前後の活動となっている。定期パトロール以外にも、不定期で自治委員や隊員が見回りをしている。

【見守り活動】

○ 子供の見守り活動は、「地域の方にも登下校の児童の防犯対策をお願いしたい。」という江東区からの依頼によりスタートした。我々パトロール隊員と保護者、シルバーが朝の７時半～８時半まで行っている。

○ 小学校では、学校があるときも毎日行い、幼稚園は始まる時間に合わせ、小学校の登校とは別に実施している。下校時も必要に応じて自転車を駆使して見守っている。

【お祭りを活用した防犯体制づくり】

○ 隣の自治会と共同で「ここがふるさと夏祭り」を開催している。この祭りを活用して絆づくりをしながら自治活動を推進している。

○ 祭りの時には、ネットワークを持つ10人の人が、それぞれ20人に声をかけ200人を動員する。これをサテライト方式と呼んでいる。こうした動員経験が、防犯・防災活動に役立つ。

○ 地域には3つの神社が鎮座されていて、それぞれの神社が上手に祭りを運営している。これらの祭りも大事な自治活動の一つで、地域の絆づくりに大いに役立っている。祭りを等しての「まちづくり」「生活安全づくり」は大事なイベントとなっている。

【防災活動】

○ できるだけ多くの人に、救急救命士や防災士の資格、あるいは介護の技術を取得してもらい、そうした人たちを防災活動のメンバーに登録して、災害時に役立てたい。

○ ＡＥＤも設置しており、講習会も行った。

○ 手押しポンプを利用した「女性の消火放水隊」も組織し、訓練を重ねている。

【参加者の拡大】

○ 団地の中で育ったので、「自分たちの団地は自分たちで守る。団地に恩返しをしたい。」と思うような人たちを増やしていきたい。新しい人にどんどん入って来てほしい。

○ 自治活動をやると若返る。生きがいと達成感が若さづくりになる。後期高齢期を迎えても、家の中だけで過ごさないで自治活動に携わり、絆づくりの大事さを知っていただきたい。

○ 高齢者も体調面や生活面等で参画者が減少の傾向にある。働き盛りに人も仕事と家事・育児で時間に追われている。何とか自発的な自治意識・絆づくりの機運を高めたい。

【学校や他の団体との連携】

○ 大学生のパトロール見学や、紫陽花祭りと称する植栽・文化祭における地域の町会や自治会の人々との交流を積極的に行っている。亀戸20町会の連合体では、防災・防犯に力を入れ、無線機を活用した防犯訓練等も行っている。また、他地域の団体では文京区のＳＹＭ（湯島の新花会・三組弥生会・三組町会の三町会からなる自主防災組織）と情報交流を図っている。

○ 地元の幼・小・中学校は、評議員活動・公開授業・道徳授業・文化祭・運動会等の行事に積極的に参加するほか、校長・生活指導の先生と父兄との懇談会等を行っている。

【子供の見守り活動】

○ 連合町会運動会では、少ない父兄で取り組み、とても苦労している。ボーイスカウト･ガールスカウト等の子供の団体を立ち上げたくても、子供をいろいろな地域から集めなくてはいけないので、隣接地域との連携・連帯が重要である。

○ 仕事をしている保護者は、昼間に学校の宿題を見ることができない。自治会で子供を集めて昔のような寺子屋的な塾(学校の施設を使って伸び伸びとした子供の遊び相手､文体サークル活動等）を開きたい。

○ 子供の遊び場として放課後の校庭を解放しているが、子供がケガをしたとき、誰が責任を持つのかが問題になっている。高齢者が見守ってはどうか。

【若者の育成】

○ 高校には青少年赤十字活動（ＪＲＣ活動）があり、これを地域の安全・安心活動に結びつけていきたい。大学生の場合は、ボランティア活動を取得単位として認めたり、地区での活動を卒業論文にして提出させてはどうか。

○ 学校教育は初等教育が大事である。幼稚園の頃から立ち止まってあいさつすることを体に教え込ませる。生活にしみ込んだ教育を徹底していただきたい。

【その他】

○ 私は東京都安全･安心まちづくりアカデミーの第１期卒業生であり、当時は、警察や消防、行政の安全・安心のスタッフの方々から「何か御用がありますか、どうですか。結果は。」等と声をかけられた。それで奮い立ちもしたし、励みともなった。

○ アカデミーは、大変内容のある大事な研修であったと同時に安全・安心の取組の動機づけとなり、現在の活動のベースとなっている。

5 NPO法人ささえ手

プロフィール

●名　称：ＮＰＯ法人ささえ手
●設　立：平成 22 年 1 月 20 日
●代　表：斉藤美和子
●会　員：約 50 名
●設立経緯：安全・安心なまちづくりを人任せではなく、自分達で動いて、何かあったときには支えられるような関係を作ってきたいと思い設立した。
●活動内容：・まちづくり事業
・セミナー・イベント事業
・地域交流事業
・広報活動事業
●活動頻度：毎日（事業へのかかわり方による）
●特　　徴：多忙な人も自分のペースで参加できる多彩な活動。元々ＰＴＡ活動をしていた人達と一緒に始めたので、ボランティア精神豊かな人達が集まった。

活動のきっかけ

○ ボランティア精神があっても、仕事や子育て、介護のために積極的に参加できない人は多い。そうした人達が地域活動に参加できる方法はないかと考え、活動を始めた。
○「感謝と感動の絆を！」をメインテーマに、老若男女あらゆる人たちが支えあい、楽しく元気に、地域をこれからも守り続けようと活動を始めた。

活動費

○ 主に会費や寄付で賄っている。
○ 行政機関等からの補助金等を活用する場合もある。

取組状況

【グリーンバルーンプロジェクト】

○ 会員の方にプランターを配付し、そこに花や野菜を植えてもらう。子供達の登下校時などに花や野菜に水をあげてもらい緑を育てながら子供達に意識を向けてもらうことで地域を守る意識啓発につなげていく。

【コミュニティ農園（ささえ手農園）】

○ 小学校の一角を借りて、野菜づくりを行っている。活動は、メールで連絡を取り合いながら月１回程度。この活動は、学校や地域との絆を深め、まちの緑化にも貢献する。

【キッズアートプロジェクト】

○ 子供達が作ったアートをプレートにして、近隣に配付している。

○ 子供達の言葉や芸術作品をまちに広げることで、地域の人が子供に関心を持ち、地域全体で見守りができるようにしている。住宅の壁面等に子供達の作品が飾られることで、防犯の効果も期待できる。商店街に子供達の作品が広がることで商店街の賑わいも期待でき、まち全体の活性化につながる。

○ 参加した子供達が、作品づくりを通して地域の安心を考えるきっかけづくりができるように働きかけている。

○ プレートが地域見守りのシンボルとなり、犯罪者を寄せ付けない安心なまちづくりに役立つ。

【その他】

○ 3.11 以降、防災にも力を入れており、連絡手段の勉強として、高齢者向けのインターネット講座を行っている。

参加者の拡大

○ コミュニケーションを重視している人は、さまざまな人脈がある。そのような人脈を活用して活動に引き込むことが重要である。

○ 新しく活動を始めた人が、ボランティアの気持ちを持続できるような、小さな楽しみを作っていくことで、活動が広がり、内容の充実につながる。

○ 人員の確保は大変。新しい人が入ってくれても、活動の趣旨について理解の相違が生じることもある。新しい人の意見も取り入れて、活動を活性化していく。

地域・行政・警察との連携

○ ボランティア活動を継続するのは大変である。町会とも連携したいが、町会があまり機能していない場合はできない。自治会や、公的に認められている団体と一般のＮＰＯ団体等が手を取って一緒にできると良い。

○ 行政から言われれば、人が集まりボランティアのようなものを作ることは比較的簡単である。しかし、そこから皆で勉強し、活動しようとすると、途中の段階で、かなり努力しないと続けられない。

○ 行政も勉強はさせてくれるが、警察や消防、役所は縦割になっているので、その後がうまくつながらないことが課題である。

今後の目標

○ プランターの配付数は現在約 100 個である。今後も趣旨に賛同してもらい、配付数を増やしていきたい。また、成果発表の場を増やして趣旨を広め、いろいろな団体にも真似をしていただきたい。

MEMO

当団体は、子育て等の理由でボランティア活動に参加できない人にも、参加できる活動を見出して提案している。具体的には、プランターを配付し子供の登下校時に花や野菜への水やりを促すグリーンバルーンプロジェクトや、小学校の用地を借りて野菜を植えるコミュニティ農園、子供のアートを街中に飾るキッズアートプロジェクトなどであり、これらは防犯活動にも役立っている。

ボランティアというと身構えたり、気遅れしてしまうこともあるが、気軽に参加できるのがこの活動の強みである。活動費も上手に補助金などを活用している。

課題は活動の充実と拡大である。今後は活動の趣旨をアピールすることで賛同者を増やすとともに、地元の警察や自治体をはじめ、町会や他のＮＰＯ法人との連携をどのように図っていくかが注目される。

6 地域友好会

プロフィール

●名　称：地域友好会
●設　立：平成 16 年 6 月
●代　表：赤羽忠明
●参加者：25 名
●設立経緯：東戸山小学校の校長から、ラジオ体操の指導員をしていた代表に防犯活動の依頼があり、友人・知人に声をかけて発足した。
●活動内容：防犯パトロール／自治会活動／警察行事への参加
●活動頻度：パトロールは水曜と金曜に 1 日 2 回。昼間は女性、夜は男性
●特　　徴：地域の安全・安心のパトロールを自主的に行っている。
無理のないペースで続ける地道な活動。

活動費

○ ボランティア終了後に、夏は「ビール」、冬は「焼き芋」や「肉まん」を自費で配ることがある。団体はボランティアであるため、交通費なども全額自己負担で行っているが、会員が少し休息できるような維持費が必要である。これが悩みとなっている。現在、運営費に対する補助の要望を出している。
○ 帽子やチョッキ、パトロール用ユニフォームなどの資器材に関しては支援してもらっているが、資金面での補助はない。ボランティアも、無償ではこれからはやっていけない。活動費に使えるような援助、報償がほしい。
○ 町会は自治会費が使えるが、ボランティアには資金補助がない。
○ 地域友好会は任意団体であり活動費は設けていない。

取組状況

【防犯パトロール】

○ 以前は、小学生中心の見守りと、ひったくり防止活動を月曜日から土曜日まで行っていたが、高齢者には無理をさせられないため、現在は水曜日と金曜日に絞っている。
○ 女性は夕方 4 時 30 分からパトロールを行い、男性が夜 9 時から 10 時までパトロールしている。巡回するメンバーは、昼間は最低 3 名、夜は 4 名以上で行っている。
○ 基本的には団地内のパトロールであり、夕方は小学校、幼稚園、保育園など児童や園児の下校コースを重点的に、夜は不審者が隠れやすい公園をはじめ路地や駐輪場などに目を配っている。

【防災活動】

○ 小学校を中心とした避難所運営会議の管理協議会に携わり、防災・防火活動を行っている。防災訓練を実施する際、地域に呼びかけ約 1,000 人参加してくれる。

○ 参加者の高齢化により、２時間半位の時間を要する訓練等のイベントは、疲れてしまうことから、活動時間を短くした。

【その他】

○ ラジオ体操第一にみんなで参加して顔見知りになり、地域の輪が広がりつつある。

参加者の拡大

○ ラジオ体操の指導のために立ち上げた団体のため、高齢者が多く、若い人は参加してくれない。一番の悩みは高齢化であり、さまざまな事情によりメンバーが減少しても補充するのが大変な状況にある。

○ 周辺高校の学生ボランティアは、社会福祉協議会を通じ、両親の了解や証明書があれば、いつでも受け入れている。彼らと一緒にパトロールを行うことも可能である。

防犯活動による変化

○ 日頃まちを歩いているときも「このあたりは危険だな。」とか「不審者が隠れやすそうだ。」といった目で見るようになった。また、大半のメンバーがシルバー世代であるが、ボランティア活動をすることにより、社会や地域とのつながりができたので、ほとんどのメンバーは「ある種の生きがいになっている。」と話している。

○ この地域に暮らす人の意識も変わってきた。パトロールを始めた頃は、例えば公園などで遅くまで遊んでいる子供に声をかけると、母親が走ってきて「変なオジサンに声かけられたと子供から報告がありましたが。」こちらが不審者扱いされたこともあった。最近ではパトロール以外でも「こんにちは。」「いつもご苦労さま。」などと言ってくれる。

○ 住民の防犯意識が高まったと同時に、昔ながらのご近所付き合いが少しずつ復活しているように思える。それが一番嬉しい。

防犯活動をやって思うこと

○ 防犯パトロールというと、「逮捕に協力した。」などという活躍が報じられることもあるが、実際は地味な活動の積み重ねである。団地内を歩いているだけという声も一部にはあるが、１日も休まずにやることがどんなに大変か、それが犯罪の抑止につながっているか考えてみてほしい。

○ ご近所の方から「毎晩ご苦労様」「おかげで夜も安心して歩けます」と声をかけられたり、子供たちがニコニコと安心して遊んでいる姿を見ていると、「防犯パトロールをやって、本当に良かった」と思える。

今後の目標

○ とにかく「継続は力なり」ではないが、１日も長くこの活動を続けていきたい。そして次の世代に上手くバトンタッチできればと思っている。そのためにも、団地内にある４つの自治会とも連携を図りながらやっていきたいと思っている。

MEMO

多くの団体が抱えるメンバーの高齢化に対応するため、パトロールの頻度を減らす、高校生ボランティアの受入体制を整えるなどの取組を行っている。また、任意団体のため公的補助が受けづらく、ボランティア活動の継続に向けた支援の必要性を問題提起している。

「１日も長くこの活動を続けたい。」という地道な防犯活動を行うことにより、住民の防犯意識も高まり、「毎晩ご苦労様。」「おかげで夜も安心して歩けます。」と温かい声をかけていただくことがシルバー世代にとっての生きがいとなっている。

今後はどのようにして、次の世代にバトンタッチしていくかが注目される。

7 東村山警察署管内防犯協会及び防犯活動機動部会

プロフィール

●団体名　：東村山警察署管内防犯協会及び防犯活動機動部会
●設　　立：東村山警察署管内防犯協会…昭和 40 年
　　防犯活動機動部会……平成元年
●会　　長：豊田治樹（両団体とも）
●参加人数：東村山警察署管内防犯協会…156 名（防犯活動推進員含む）
　　防犯活動機動部会……23 名
●設立母体：東村山警察署管内防犯協会…東村山防犯協会・清瀬市防犯協会
　　防犯活動機動部会……青パト運行ボランティアなど機動的に活動できる役員・委員
●設立経緯：東村山警察署管内防犯協会…東村山警察署開設時に設立された。
　　防犯活動機動部会……各種防犯活動を企画・実施し、東村山署管内における状況に応じた素早い防犯活動が有用であることから設立された。
●活動内容：徒歩および車両によるマイク広報および防犯パトロール、侵入窃盗被害防止・振り込め詐欺、還付金詐欺被害防止のマイク広報・犯罪被害防止広報誌配布
●活動頻度：毎日
●特　　徴：機動的活動

防犯活動機動部会活動のきっかけ

○ 防犯広報の拡充および活動の活性化
○ 地域住民との連携による犯罪発生の抑止

活動費

○ 東村山警察署管内防犯協会
　・東村山市・清瀬市の双方からそれぞれの防犯協会に交付された助成金の一部
　・各職域防犯協力会からの協力金など。
○ 防犯活動機動部会
　・会費 1,000 円（年額）および有志の寄付等を活動運営資金に充当している。
　・防犯グッズおよび犯罪抑止啓発看板等は管内防犯協会より提供

団体の概要

○ 東村山警察署管内防犯協会は、東村山市と清瀬市の両市民で構成される協会であり、電話やファックス、ネットで連絡を取り合いながら活動している。

○ 平成元年に、防犯協会の傘下に防犯活動機動部会を立ち上げ、ＰＴＡや地域の方々に参加していただき、パトロールやポスティング、駅前のビラ配りを行っている。

取組状況

【青パトによる防犯パトロール】

○ 防犯広報車の更新を東村山防犯協会に要請し総会で議決。青パト第１号車(パトカー仕様）が導入された。

○ 一番力を入れているのは、子供見守り隊の活動であり、現在は当番制で 13 台の青パトで登下校時にパトロールを実施している。

○ 朝は８時から、午後は２時から、通学路を中心にパトロールを行っている。
朝は、出勤前の活動であるが、楽しんでやっているので、つらいとは思わない。

○ ２人１組のパトロールは、隊員に都合のよい日をあらかじめ聞いておいて、うまく活動できるようにしている。

○ 青パトのスピーカーで、「怪しい人を見たらすぐに 110 番をお願いします。」と呼びかけている。不審者は警察がいう挙動不審者ではなく、「おやっ」と思う人。高齢者の迷人、泥酔状態の寝込み、交通事故などは、躊躇しないで 110 番している。

○ パトロールや広報で一番大事なのは住民に不安を抱かせないこと。むしろ安心を提供する姿である。

【自転車による防犯パトロール】

○ 防犯活動機動部会では、防犯パトロール用の電動アシスト付き自転車２台と中古自転車を購入し､前カゴに｢防犯パトロール 110 番｣と記載したカバーを取り付けた。防犯協会会員、元ＰＴＡ役員などのメンバーで、買い物に出かける時など、できる時に自転車パトロールをやっていただいている。

【その他】

○ 振り込め詐欺、還付金詐欺の被害防止を呼びかけている。

○ 代表が勤務している病院内に「東村山警察署ホームページ」というお知らせコーナーを設け、来院者に見てもらっている。

地域・行政・警察との連携

○ 行政や警察署を訪問してお互いに情報交換することが大切である。懇談の中にも数多くのヒントがある。

○ 行政や警察署などには人事異動があるため、その都度、活動の現状等を報告し、積極的に人の輪を広げていくよう努めている。

○ 各自治体には安全・安心まちづくり条例に基づいて、安全・安心まちづくり連絡会議が設置されている。その中で、警察署・消防署・教育委員会・保健所・防犯協会・交通安全協会・小・中Ｐ連・商工会議所が一体となって意見交換を行っている。

○ 警察署からは安全・安心まちづくりのためにタイムリーな情報をいただけるので、その時間帯などに合わせて活動することができている。今後もそれぞれの立場や役割でできることを積極的にやっていく。

ボランティア活動に参加して思うこと

○ さまざまな問題が起きても、継続していくことが大切である。それを実現するためには一人ひとりのボランティアがリーダー・オブ・リーダーとなり学ぶことが重要である。リーダー・オブ・リーダーにはやり過ぎるということはない。

MEMO

侵入窃盗や振り込め詐欺の防止のほか、子供見守り活動にも力を入れ、自転車や13台の青パトを活用したパトロールを登下校時に行っている。また警察署と上手に連携することで、警察署からタイムリーな情報をもらい、活動に役立てている。

そのコツとしては、行政や警察署へマメに足を運び、顔見知りになる、活動報告を行い情報交換をする、人の輪を広げることが重要と提言している。

また継続的に防犯活動を行うためには、メンバーの一人ひとりがリーダー・オブ・リーダーになるための取組が必要であるとしており、今後とも行政や警察などと連携した幅広い活動の実施に向け、どのように取り組まれていくかが注目される。

8 明星大学・防犯ボランティアチーム「MCAT」

プロフィール

●名　　称：明星大学・防犯ボランティアチーム（通称「ＭＣＡＴ」エムキャット）
「MEISEI COMMUNITY ACTION TEAM」の略で、「COMMUNITY ACTION」は「地域のために 活動する」という意味
●設　　立：平成 22 年 6 月 30 日
●構　　成：明星大学の学生有志によるボランティア 50 名
●設立経緯：平成 6 年当時、警察署の方から「防犯活動に若い力がほしい」との要請があり、（当時）学長と学生部長がボランティア活動に非常に熱心であったことから、学生による防犯ボランティアチームを結成した。平成 17 年まで継続していたが、諸事情により一時活動を休止していた。平成 22 年に再結成し活動を復活した。
●活動内容：住宅街の防犯パトロール、ゴミ拾い、高齢者宅訪問、下校時の児童の見守り、震災に伴う義援金の募金、振り込め詐欺防止をはじめとする犯罪抑止に向けた啓発等、地域のための活動であれば何でも引き受ける。
●活動頻度：週 3 回、午後 1 時から概ね 1 時間地元住宅街の防犯パトロールを行う。
週 1 回、小学生の下校時に児童見守り活動を行う。
（基本的には授業の合間を縫って実施）
●特　　徴：警察や行政と連携し、多岐にわたる活動を行っている。

活動費

○ 複数の助成金に応募し、交付された資金を活動費に充てている。

取組状況

【地域貢献】

○ 警察署や市役所、防犯協会などと協力しながら、明るいまちづくりに日々貢献している。
○ 常時活動しているのは、30 人程度。授業の空き時間に大学周辺の住宅をパトロールしている。そのときパトロールするだけではもったいないので、ゴミ拾いもしている。それを見たお年寄りがそばに寄ってきて、学生にいろいろな話をしてもらえる。このような場面は、学生にとって地域とつながっている実感が湧く貴重な時間だと思う。
○ 半分以上の学生は日野市在住。活動することで日野市を好きになり、もっと地域のために貢献しようと考える。お年寄りから褒めてもらうことは、若者にとって最大の喜びであり、モチベーションとなっている。

○ 老人会の人達とも一緒に活動し、あいさつやいろいろな話をする。住宅街をパトロールしていると声をかけてくれる人もいて、やはり感謝されるとやりがいを感じる。
○ 大学近くの小学校の下校時間にあわせて声かけ運動もしている。学生の提案を校長や副校長に伝えたところ快く承諾していただき、学校からも喜ばれている。
○ 正門から出てきた子供とのハイタッチや、子供が拾ったドングリをプレゼントされたりすることは、学生にとってとても新鮮で楽しんでいる。

【行政・警察との連携】

○ ボランティアセンターの呼びかけに、地域が応えてくれたので、それをきっかけに活動の輪が広がり、市内のあらゆる活動に参加している。
○ 振り込め詐欺防止、ひったくり・万引き撲滅運動、交通安全運動などの警察署主催のいろいろな活動にすべて参加している。
○ 行政とは、防災安全課、環境保全課、まちづくり都市計画課、社会福祉協議会などと多岐にわたって連携している。また、活動を通して商工会や観光協会の方々と知り合ったことで、さまざまな行事に参加させていただいている。
○ 警視庁の推薦を受け、防犯ボランティアフォーラムに出場。日頃の成果について発表した。
○ 最近では、中学生や高校生を活動に組み入れている。中学校や高校の社会科科目「体験授業」などの機会に参加を呼びかけると、生徒を参加させてくれる学校もある。それぞれの校長先生にこの話をすれば賛同が得られるのではないか。

【団体の運営】

○ 私はＭＣＡＴの顧問であり、ＭＣＡＴには学生のリーダーがいる。リーダーに任せると学生は結構動いてくれる。月１回定例のミーティングをしているが、学生は毎日のように集まって何かやっている。
○ 気軽に立ち寄れるボランティアセンターを居場所として、学生同士の交流の場ができている。現在も活動を積極的にアピールしながら人員を募っているが、ボランティア募集や活動日などの周知はほとんどメールで行っている。
○ 活動参加希望者には防犯講習会の受講後、活動体験をさせている。
○ ユニフォームは、警察庁から貸与された赤色ベストで統一している。学生は、防犯パトロール・警察庁と入っている装備品で活動することを大変誇りに思っている。
○ パトロールは防犯に力を入れており、防災関係は道路の陥没や土砂崩れをチェックする程度である。

活動を通して学生に思うこと

○ 学生の自主性が身につき、思いやりの精神が養われている。学生活動に誇りを持っている。
○ 東日本大震災以降、ボランティア意識は強まってきている。何か人のためになることをしたいという学生が多く、学生達のそのような気持ちに応えてあげなくてはならない。東北三県の被災地における瓦礫の撤去作業でなくても、一番身近な所（地域）で人のためになる活動があることを教えてあげられて良かった。

○ 東京都子供見守りボランティアリーダー育成講座に、本学生が複数参加している。熱心な学生に恵まれている。

今後の目標

○ これまでの取組は「受け身」的だったが、今後は「積極的」に地域に出ていきたい。
○ 新たにやりたいことは、地域の子供会などと一緒に活動すること。

MEMO

大学がボランティアセンターという学生の居場所を設け、学生同士の交流、さらには行政や警察との円滑な連携を図り活動していることが大きな特色である。

学生から地域の小学校に働きかけ、声かけ運動を展開するほか、警察や自治体等の防犯活動にもすべて参加している。また地域のお年寄りから褒められることで学生のモチベーションを上げ、更に活動を活性化させるなどの相乗効果も生み出している。

学生のボランティアに対する意識も高く、自主性の向上、精神面の成長に一役買っている。

今後は受け身の姿勢ではなく積極的に地域へ出て、子供会や中学生、高校生との活動も視野に入れた若者らしい取組がどのように展開されていくかが注目される。

第4 運営委員からのメッセージ

～プラス防犯をキーワードとしたまちづくりに向けて～

独立行政法人建築研究所 主任研究員
樋野　公宏

このワークショップのタイトルは「いいなぁ安心まちづくりワークショップ」です。「まちづくり」という言葉は、かなり一般的かつ広い意味で使われるようになりましたが、日本建築学会の書籍では以下のように定義されています。

> ***地域社会に存在する資源を基礎として、多様な主体が連携・協力して、身近な居住環境を漸進的に改善し、まちの活力と魅力を高め、生活の質の向上を実現するための一連の持続的な活動***
> *（日本建築学会編「まちづくりの方法」丸善、2004 年）*

ここで私がキーワードだと考えるのは、「多様な主体が連携・協力」、「生活の質の向上を実現するため」という２つの部分です。以下、それぞれのキーワードを切り口に、今回のワークショップの意義について考察します。

■多様な主体が連携・協力　～担い手に着目して

＜活動の評価基準＞

近年、防犯ボランティアによる自主防犯活動の活発化は目を見張るものがあります。警察庁の統計によると、2011 年末時点で防犯ボランティアは約 270 万人であり、この数字は、日本の国民の 47 人に 1 人に相当します。

しかし、これら全ての自主防犯活動が順風満帆というわけではありません。むしろ、大半の団体が課題を抱え、活動の継続に難しさを感じていると思われます。課題としては、「参加層が限られる」「特定の個人の負担が過大」「他団体と連携できない」などがよく挙げられます。

こうした団体に対して、私は、自らの活動を次の３つの評価基準で振り返ることを勧めています。１つ目は「やるべきか？」です。地域に活動の必要性（ニーズ）があり、実際に安全･安心に貢献できているかどうか振り返ってみてください。２つ目は「やれるか？」です。いくら活動の必要性が高くても、自分たちの持つ資源（ヒト、モノ、カネ、情報）の範囲を超えるような活動は長続きしません。

３つ目は「やりたいか？」です。リーダーは人一倍の使命感を持って活動しますが、リーダー以外のメンバーがやりがいを感じていることが重要です。今回のワークショップで、「防犯活動に参加すると、地域が安全になるばかりか、自分が健康になるし、地域にも顔が広がる。退職を控えた方々にそう言って勧めている」という発言を伺いました。防犯ボランティア活動を、自己実現の場として感じてもらえるような仕掛けが必要です。

＜二大勢力の連携＞

別の統計（平成 23 年社会生活基本調査）を使って、性別、年齢別に「安全な生活のための活動」の行動者率（行動者数 ÷ 属性別の人口 ×100%）を表したのが図 1 です。女性は 40 ～ 44 歳で行動者率がピーク（9.5%）に達します。これは小学生を持つ母親がＰＴＡ活動として見守りを行っているものと考えられます。一方、男性は 70 ～ 74 歳で行動者率がピーク（10.2%）に達します。これは退職後のサラリーマンが地域に回帰して、自治会や町内会の防犯パトロールなどに参加しているものと考えられます。

しかし、この二大勢力（町会・自治会等を母体とする団体と、ＰＴＡ・学校を母体とする団体）の連携する事

例は少ないようです。そこで両者が連携する可能性を探るため、東京都が実施した「防犯ボランティア団体・活動に関するアンケート調査」の結果を分析しました。両者の相違点の１つ目は、活動の動機です。活動内容は同様であっても、ＰＴＡ系が「子どもを犯罪から守ること」を動機にしているのに対し、町会系は「子どもの健やかな成長」という包括的な目的で活動していることが分かりました。

両者の相違点の２つ目は、団体が抱える課題です。ＰＴＡ系は 36% の団体が「地域とのつながりがない」ことを課題に挙げました。一方、町会系は 83% が「活動メンバーの高齢化」、63% が「活動メンバーの確保」を挙げました。両者の連携を進めることで、町会系は若い世代のメンバー確保、ＰＴＡ系は地域とのつながりの構築といった課題解決に結びつく可能性があります。

両者の連携を進める上では、「地域ぐるみで子どもの健やかな成長を見守る」というビジョンが共有しやすいと考えられます。具体的には、（町会系が重視する）高齢者と子どものふれあい活動、（ＰＴＡ系が重視する）高齢者の経験を子どもの教育に活用する取り組みなどが接点になると考えられます。これは地域の高齢者の生き甲斐にもなり、世代間で「お互い様」の支え合いの関係を作ることにもなります。市区町村、学校区といったより身近な範囲で、今回のワークショップのような交流の場が望まれます。

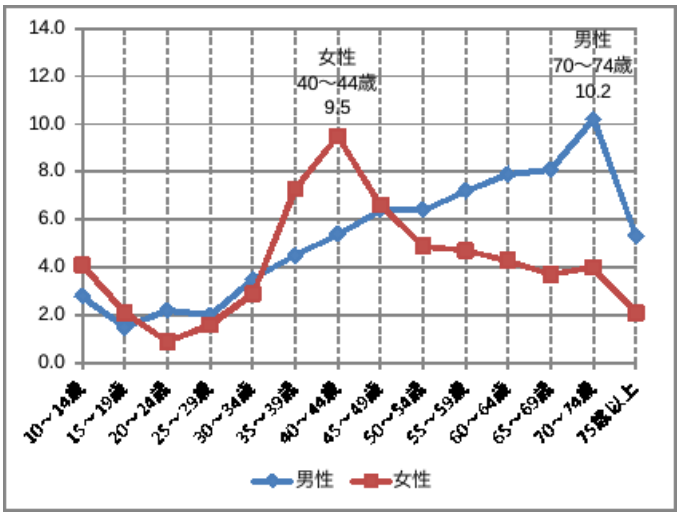


図１　「安全な生活のための活動」行動者率（%）
出典：平成 23 年社会生活基本調査（総務省）

＜学生・現役世代の参加＞

今回のワークショップで最も印象的だったのは、高校生、大学生といった若い世代の参加が多かったことです。「安全な生活のための活動」の行動者率を示した図１を見ると、男女ともこの年代が最も低くなっていますので、とても奇特な方々だと言えます。彼らは体力だけでなく柔軟な思考力が強みです。学生の参加がようやく本格的になったばかりの現時点では少ないかもしれませんが、学生の企画による、学生ならではの活動が増えてくることを期待しています。

さて、警察では、こうした大学生のほか、現役世代の参加促進に力を入れています。しかし、唐突に現役世代に参加を呼びかけても難しいと思います。おそらく、ワークショップに参加された先輩方の多くも、現役世代は地域を振り返ることは少なかったでしょうし、実際に「自分も会社勤めの 30 代、40 代の頃は、忙しくてこういう活動に参加できなかったよ」と、現役世代に同情する声もありました。

しかし、学生時代に地域活動に参加した経験があって、その必要性を知っているかどうかで、就職してからの地域への関わり方は大きく変わってくるはずです。ワークショップに参加した大学生からも「社会人になってもこういった活動に関わっていきたい」という発表がありました。そうした世代を地域の先輩方が支えるといった地域像が描けるはずです。

■生活の質の向上を実現する　～活動内容に着目して

＜防犯環境設計＞

防犯環境設計とは、犯罪が遂行される環境に着目し、犯罪が起こりにくい環境を作り出すことを目的とする考え方です。そこで重視される原則が図２に示す「自然監視性の確保」と「領域性の強化」です。「自然監視性の確保」とは、見通しや明るさの確保により、自然と人目が届く状況にあることを指します。「領域性の強化」は、領域（なわばり）を明示することで、物理的・心理的に犯罪者が接近しづらい状況を作ることを指します。これらの２つの原則に照らして有効な防犯活動が望まれます。

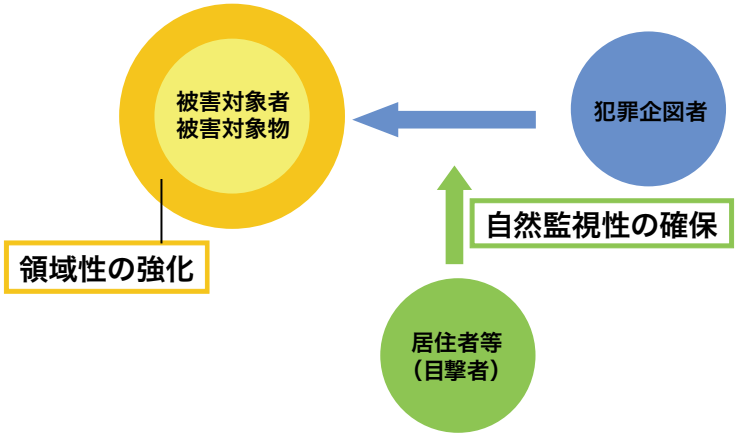


図２　自然監視性と領域性

＜防犯活動の多様化＞

一時期、ピッキングという侵入手段が流行ったのをご記憶かと思います。この背景には、高度成長期以降、コストや便利さを重視するあまり、どの建物でも同一形式のドア錠が取り付けられたことがあります。この錠前は泥棒に研究し尽くされ、侵入盗の急増という結果を招きました。今では「防犯性能の高い建物部品」（CP 部品）に認定される錠前が各メーカーで何種類も製造され、泥棒にとってはやりにくい状況になりました。

地域で行われる防犯活動も、それぞれの地域性を加味した多様な活動である方が、犯罪者にとって攻略しづらいと考えられます。そもそも、各地域状況の多様性を考えれば活動が多様であることは当然ですし、地域独自の活動であることは、担い手のやる気にもつながります。

今回のワークショップのように、各地域で防犯活動を行う人たちが集まる場は、互いの活動を自らの参考にするだけでなく、それぞれの活動の独自性を競い、刺激し合う場としても有効です。

＜プラス防犯＞

防犯活動を多様化するキーワードとして、私は「プラス防犯」を提案しています。

冒頭に「まちづくり」の定義を紹介しました。まちづくりのテーマは景観、環境、地域活性化など多岐にわたり、「防犯まちづくり」もそのひとつとして位置づけられます。強調して言うなら、防犯はまちづくりのひとつのテーマに過ぎず、総合的な視野を欠いて防犯だけを突き詰めても、必ずしも良いまちづくりは実現しないということです。

都が毎年実施している「都民生活に関する世論調査」によると、2004 年から 2010 年まで、都政への要望の第一位は７年連続で「治安対策」でした。しかし犯罪の減少や震災の影響で、この２年は「防災対策」「高齢者対策」が上位に来ています。こうした都民ニーズをかんがみて、前述した自主防犯活動の大きな人的資源を、他のテーマのまちづくりにもつなげることが重要だと考えています。

これは、もちろん防犯活動をやめろと言うことではありません。防犯と親和性の高い他のテーマを加味した活動に発展させることで、より多くの人が参加できますし、より生活の質が向上すると考えられます。このように、

防犯活動に他のテーマを加味すること、逆に、他のテーマの活動に防犯的な意味合いを持たせることが「プラス防犯」です。例えば、花づくりと一緒に子どもを見守る取り組み（環境美化＋防犯）（写真１）、通過交通を減らして地域の領域性を高める取り組み（交通安全＋防犯）、子どもを見守る高齢者を招いての食事会（高齢者福祉＋防犯）などが実際に行われています。

今回のワークショップでは、こうした「プラス防犯」のヒントが得られたのではないでしょうか。既に各地域で盛んに取り組まれている防犯を入り口に、様々なテーマにまちづくりが広がること、それによって地域の魅力と活力が高まり、そこでの生活の質が向上することを祈念しています。

写真１　花づくりと一緒に子どもを見守る「見守りフラワーポット大作戦」

参考文献
・「防犯活動から広がるまちづくり」（2012.10）
http://www.kenken.go.jp/japanese/research/hou/topics/bouhan/pdf/ristex.pdf からダウンロードできます。

～多様な人たちの参加によるまちづくりのススメ～

まちづくりコーディネーター
杉崎　和久

みなさまお疲れ様でした。最初にも話をしましたが、今回のワークショップは、各地で防犯まちづくり活動に実際に関わられている方同士が活動の中で抱えている課題や活動を通じて得られた経験を共有し、実際の活動をより良くするためのヒントとすることを目標としました。実際に参加してみていかがだったでしょうか。私からは、今回のワークショップに関して、２点コメントをしたいと思います。

■ワークショップの種明かし

まずは今回のワークショップの種明かしをしたいと思います。そもそもワークショップという手法は、性別や世代、価値観やライフスタイルなどが多様な人が対話するための手法として、まちづくりの現場ではよく使われるものです。ワークショップは、そこに集まった人たちの知恵や経験を共有し、それらを踏まえて共通の成果を作り上げていくことが多いです。そのための対話を行うために話し合いの単位(少人数のグループに分けるなど)、対話の順序・テーマ設定を、人前で自分の考えを表明しやすくするための道具（付箋紙など）の使用、議論の過程が見えるようにする（模造紙等の活用）などの工夫が行われます。今回のワークショップもこういったさまざまな工夫をしていますが、さらに今回のワークショップの目標に合わせていくつかの工夫をしました。

まずは、「参加者の関心を踏まえたテーマ設定をするため」に事前アンケートを行いました。参加者が一回のワークショップの限られた時間の中で実際の防犯まちづくり活動に役立つヒントを得るところまで対話を進めるために、テーマ設定はワークショップの中では行わず、事前に参加者に対するアンケート結果に基づいて行いました。それにより、参加者のグループ分けも関心テーマに対応して行うことができました。

次に、「より多くの人の経験を共有するため」にグループを固定せずに席替えを行いました。まちづくりにおけるワークショップでは、メンバーを固定したグループで対話や作業を行い、成果を作っていくことが一般的です。そして、このときのメンバーは性別、世代、テーマとの利害関係等が多様な人たちで構成するように配慮します。それにより生み出された成果は、一人であるいは、特定のグループによる成果よりも、多様な視点が織り込まれた創造的なものであることが期待されます。とはいえ、グループを固定していることから、一回のワークショップで、参加者が対話をするのは同じグループのメンバーに限られてしまいます。そこで、より多くの人たちの影響を受けながら、対話をするために、途中でメンバー交代をする企画にしました。グループや全体での成果をつくることを目的としていなかったために物足りなかった方もいらっしゃるかと思いますが、今回の成果は参加者一人一人の心の中に残った「気付き」なのです。ただ、「気付き」も多くの人と共有したいと思い、ワークショップの最後にシート記入していただきました。この報告書では、このとき記入された参加者のみなさんの気付きも掲載されています。是非ご覧下さい。

■学生ボランティアへの期待

次に、ワークショップの議論の中で気になった点についてコメントします。今回のワークショップは、たくさんの学生さんが参加しています。実際にこれだけの学生さんが、防犯まちづくりの活動に参加しているのは心強いことです。ただ、学生によるまちづくり活動には継続性に難があることを指摘しているグループがあり、少し気になりました。

確かに大学生の場合は、長くても４年間という期限があり、卒業後に多くの学生は就職等の事情で地域を離れてしまいます。確かにまちづくり活動で重要な継続性という観点からは相性が悪いと思うかも知れません。だからといって、学生がまちづくり活動に参加することを期待してはいけないのかという点が気になります。むしろ、

私は学生の力を活かせる地域になって欲しいと考えています。確かに大学生は、4年間という期限がありますが、（授業やバイトもありますが）比較的自由に動け、子供たちにとってお兄さん・お姉さん的な存在であり、若い彼らは力仕事にも役に立つ、ちょっとしたパソコン作業も教えてもらえる、専攻分野によっては専門的な知見も得ることができる・・・挙げたらキリがないくらいの可能性があります。地域の人たちの活動に不足しているものを補ってくれる可能性があります。

またそういった具体的なことだけでなく、学生が入れ替わるということを前向きに捉えると、毎年新人さんが入ってくるということでもあります。どうしてもメンバーが固定しがちなまちづくり活動の中で「今年はどんな子が来てくれるのだろうか？」という楽しみ方もあるのではないでしょうか。そのときどきの学生の得意技・性格などの個性が活動を刺激することになるかと思います。つまり、風を起こしてくれるということです。いずれにしても4年しかいない学生の活動に期待しないのではなく、それを承知で積極的に活かしていくという力も地域のまちづくり活動を継続させていくために効果的だと思います。

一方で学生さんは、長い間地域で活動をされている人の経験に圧倒されるかも知れませんが、そこは開き直って、自分の貢献できることを見つけて積極的に発言、行動をしてほしいと思います。学生だから見えること、自分だから役に立てることを見つけてください。そういう事が広がっていくと、後継者問題とか刺激、活動の展開が広がっていくのではないかと思いました。

このことは学生だけでなく、現役世代で地域の外に通勤している人や子育てまっただ中の方などまちづくり活動に参加するためには時間などの制限があるような人たちの力を防犯まちづくり活動に活かすためにも同じような感覚が必要かと思います。

まちづくりには「ヨソモノ・ワカモノ・バカモノ」が必要だとよく言われます。つまり、多様な人たちで構成された「まち」の中でまちづくり活動をするためには、同じようにそのまちづくり活動には多様な人たちが参加することが望ましく、かつ日常活動している人（「土」の人）だけでなく、「風」のように通り過ぎていく人が活動を刺激し、創造的にそして活性化する役割を担うことも多いです。

そして、そういった人たちが互いのことを理解し、力を合わせて活動していくきっかけとなる手法としてワークショップがあります。こういった手法も活かしながら、多様な人が得意技を用いて参加している、持続性のある防犯まちづくり活動をめざしてください。

第５ ワークショップを終えて ～運営委員感想～

東京都子供見守りボランティアリーダー育成講座修了者
斉藤　美和子

東京都が主催するワークショップということで、少し硬い感じをイメージして会場に入ったところ、テーブルクロスがピンクや黄色といったパステルカラーで明るく、最初の小出教授のあいさつもざっくばらんな内容で、まったく緊張もなく楽しい気持ちでスタートできました。

また、自己紹介を１分に区切って全体をまとめて進行するなど、進行もとても丁寧だと感じました。誰もが発言するよう促すルールを全体に説明してくださったのも、グループごとの話し合いの時に生かされて、大変良かったと思います。

私が参加したのは「行政や警察との連携」「活動内容の充実」の分科会ですが、どちらでも出てくるのが「人」の問題でした。後継者が育たない、せっかくつながったと思ったら担当が変わり引き継がれてない、トップが理解しないと何も始まらない、動ける人がいない。働いて税を納める世代、子育て、介護の世代に無理にボランティアをさせるわけにはいかない。学生に単位をあげてボランティアをさせようという意見もありましたが、子どもの貧困という言葉が知られ始めてお分かりのように、学費を稼がなくてはいけない学生も増え、ボランティアばかりしていられる時代ではなくなりつつあります。どの人たち、団体もこうした「人」の問題を抱え、ぎりぎりの中で活動していることがわかりましたが、これに関しては答えが出ませんでした。

「いいなぁ 安心」という街にしていくには、見守り、パトロールといった防犯の面はもちろんのこと、防災に関しても充実させていく必要があります。私たち一般市民としては警察と消防が一括りなのに対し、実際には管轄が違うことでなかなか連携を図れない場合があるのも、一般市民が少しボランティアしようかという気持ちにブレーキをかけさせてしまう、つまり面倒になってしまうことにつながっているとの意見もありました。

私は、学生もバイトしなくてはいけない、働き世代は税を納める、高齢者にパトロールは厳しい等々悲観的な要素がたくさん出ている中で、それならそうした状況でできることを生み出す必要があると切実に感じました。みんな忙しいけど、みんな安心できるまちに住みたい。一つの例として、花に水をやりながらの地域見守りなら、参加しやすいと提案しました。ＮＰＯ法人ささえ手が活動している内容です。

企画として面白かったのは、最後の意見をシェアするためのグループ分けが誕生月ごとだったことと、「いいなぁ 安心の樹」を作成したことです。７７歳の方と誕生月のことで盛り上がり、その後の話し合いも楽しめました。

今回のワークショップに参加し、自分の抱えている問題を話すことで明確化できたことや、他の方のお話から自分の活動に活かせるものを見つけられたことが大変有意義でした。エネルギーをいただき、頑張ろうという元気な気持ちが、今でも継続しています。

東京都安全・安心まちづくりアカデミー修了者
豊田　治樹

100 余名の参加者それぞれ皆が課題を持ち、イメージ論ではなく具体的に実践しておられる姿に敬意を持ち共感・共鳴できたことが、とてもうれしく感動いたしました。

ボランティアそれぞれが、エリアやチームにおける人間関係や社会性において、有効な活動が期待されているのではないかと思いました。

アンケートから抽出されたテーマは「シャッフル」により一層明確になり、それぞれの活動の地域的スキルと人間関係をより深めていく「絆」である。「敬意を持って互いを知り合い親しくなる」ことにおいて大成功だったと思います。

さらには自治体・警察署に足を運ばれ、行政との連携を密にされる意見交換等があればより一層の発展が期待されるのではないかと思いました。

主催者である東京都青少年・治安対策本部並びに小出先生はじめ樋野先生・杉崎先生に深く感謝申し上げます。

資料編

～参加者の声をまとめました～

1　活動レポート

○「今後の活動の参考となる事例」として、上位に挙げられたものは表１のとおり。
上位 10 事例には、まちづくりのさまざまな取組を行いながら、幅広く地域住民に参加を促しながら活動を行っている事例、行政・警察・学校との連携を図りながら活動を行っている事例、大学生が活躍している事例などが挙げられている。

本資料は、ワークショップ参加者から「グループ活動レポート（P108 参照）」を回収した 90 票を有効票としてまとめたものです。意見交換の中で、今後の活動の参考となる事例を、自由記入してもらったもののうち、数の多い順に整理しました。（同数については、名簿番号順）

名簿番号	取組事例（概要）	N
34	10 年前から登下校の見守り・防犯パトロールを始め、小学校にゴーヤでの緑のカーテンづくりを提案。収穫したゴーヤの収穫祭等のイベントで他自治会やＰＴＡとの連携、異世代交流を進め、学校での様々な行事へと発展。防犯カメラ設置等も行う。	9
2	朝夕の通学路の見守りを行う六本木パトロール隊。防犯組織と警察とのランチミーティング等で連携体制を強化している。	8
46	防犯キャンペーン等を行う学生ボランティアの参加機会を促す手法として、活動参加回数（10 回以上）に応じた感謝状制度を導入している。	8
95	行政、警察、ＰＴＡ、町会、学生等、さまざまな主体に協力を呼びかけ、防犯パトロールを展開。小学生の見守り活動も行っている。	8
4	メンバーの高齢化にともない、組織運営が困難さを増している現状を説明し、ボランティアであっても無償では継続が難しいことを問題提起。	7
5	公園に鯉のぼりをあげる等、できるだけ多くの親子が参加できるような企画を展開し、防犯活動への参加者を増やしている。	7
13	83 運動（朝８時と昼３時）で登下校時に保護者の目を光らせるとともに、区との連携によりＧＰＳ付きの防犯ブザーを全児童に持たせている。	6
36	公園と隣接した塀のない小学校があるまちだが、警察や行政との連携を密にしながら、防犯につとめている。	6
91	明星大学の学生主導による防犯ボランティア。地域の小中学生や高校生との交流も行っている。	6
93	区域外の他のボランティア団体や警察と連携しながら、一人暮らしのお年寄りに対する一声運動等を行っている。	6

＊Ｎ数は、当該事例を選んだ人の人数。また、Ｎ数が同じ場合は、名簿番号順に表記。

名簿番号	34
取組事例	選択理由
10年前に通学路で声かけ活動から始め、小学校に緑のカーテンづくりを提案。これをきっかけに学校、町会等と協働で防犯活動へ発展。現在、通学路に６台の防犯カメラ設置にまで至る。	長い期間の活動により、活動を発展させるためのきっかけづくりにアイデアがあり、良い結果となっている。
学校と町会の連携。核となる学校を中心に、３つの町会があり、垣根がありましたが、緑のカーテン事業を通じて、町会の垣根が取れ、学区内に６箇所の防犯カメラを設置するまでの過程を話されました。	-
環境問題の改善。通学路の見回りについて等。	とても良い活動をしていると思うから。
異世代交流。ＰＴＡと地域との連携。小学生から育てていくべき。一緒に同じことをすることが大切。子供を褒めることで、きっかけづくりをする。	自分自身も少し感じていた。ちょっとしたきっかけづくりをすることで、これからの働きかけになる。
子供と一緒に地域との連携を図った。ゴーヤを植え、キャンプ。祖父母との交流を考えた。世代の交流。夜６時パトロール。	いろいろな行事を計画している。
子供の通学路に、登下校ごとに見守り、防犯パトロールをひとりで10年前から行動し、３年くらいかかったが、地域と協力して緑のカーテン（ゴーヤ）を学校に。今では、学校で月１回誕生会を行う時に、３町会６名が毎月参加するようになった。	三位一体の取組が自然と素晴らしい型。学校に入り込めたこと。
小学校の父兄の取組。世代間の交流。	-
世代の触れ合い。異世代交流。父母を呼び込む。緑のカーテン。場所の提供。子供達の防犯パトロール。社会福祉。	人材不足で新メンバーに参加してもらいたい。
通学路での毎日の子供の見守りから始めてごみ拾い、学校でゴーヤでの緑のカーテンづくり、補助金をもらい、防犯カメラ設置へと進んだ。収穫したゴーヤの収穫祭等のイベントで他自治会、ＰＴＡとともに連携を取りながら、学校でのさまざまな行事へと発展している。	学校との連携という観点では素晴らしく、防犯活動からさらに進んだ展開が素晴らしいと思った。

名簿番号	2
取組事例	選択理由
子供の通学時に、近くに住む外国人が出てきて危ないので、ボランティアを配置し安全を守っている。	子供の安全を守るために、このようなことを行うことは良いことだと思ったから。
住宅街とは異なり、子供たちの登下校も危険を伴うので、まちの中に拠点を設置して見守り等に活用できている。	六本木という特殊な地域での取り組みに興味が持てた。
セーフコミュニティの話が大変参考になりました。	-
セーフコミュニティのお話、無償のボランティアの話。豊島区で実践している。	-
東京都の再開発については、六本木の外国人の問題等、民間では限界があるので、警察も協力して欲しい。	六本木で遊ぶことがあり、外国人の多さに驚くことがあるから。
防犯組織と警察とのランチミーティング。	行政と密着情報が大事。
港区の六本木で防犯活動をしているとのこと。セーフコミュニティの普及を望みたいと思います。	-
六本木パトロール隊。朝夕、通学路の見守り。六本木という場所柄、朝でも朝帰りの酔っ払いがいるそうで、安心して通学できないとのこと。	警察との連携が素晴らしい。所長さんの計らいで、警察官とのランチミーティングを３回やった。道場にパトロール隊の中の10人が顔写真で紹介されている。

名簿番号	46
取組事例	**選択理由**
学生の方々のボランティア活動参加機会を取り込むための方法として、活動参加回数（10 回以上）を評価し、表彰する。	参加者の増員。
学生ボランティア、10 回参加すると表彰されるそうで、参加者が増えているそうです。	-
学生ボランティアが多く集まるためのポイントを発行しています。	-
学生ボランティアで参加し、チラシ等を配布しているが、渡す相手を見て、ひったくり、振り込め詐欺等を抑えている。	誰でも良いと思い、チラシを配布していた時があったから。
学生ボランティアをしているが警察官と見間違えられ、警戒されてしまう。	話を聞いてくれる人も勿論いるが、そういう人も世の中にはいる。
警察官と一緒に防犯キャンペーン活動をしていた時に、子供にチラシを配布しようとしたら、親が勘違いをして、文句を言ってきて困ったことがあった。	-
大学１年生で、振り込め詐欺の防止活動をしている。	若い人が頑張っている点。
大学生で成城警察署の防犯ボランティアをしているが、子供に声をかけしたところ、親に拒否され、どうやって対処していいのか戸惑ったが、人にはそれぞれ個性があって考え方も違うので、気にしないで、こういう人もいるんだと考えて活動したらどうかとの意見が出ました。	私自身も同じように感じましたので、これを選びました。

名簿番号	95
取組事例	**選択理由**
行政、警察、ＰＴＡ、町会、学生等、どんどん話し、引き込んで楽しいまちに。	学生、子供、高齢者、障害者等、おもいやりのできるまちに。
行政、警察、学校等の防犯活動について、各地域の安全・安心まちづくり条例を確認して参考にする。それぞれの担当者を集めて意見交換会を開いてもらう。	-
警察、市役所には、時々訪問するようにする。	-
警察と連携して、安全・安心パトロールをしている。ともかく何かあったら警察にすぐ相談する。	警察と仲良くすることがとても大事。
小学校の見守り活動。盆暮れに子供のパトロールを４年、20 ～ 30 名で実施。町会長名で感謝状を出す。小学校にまとめて持っていき、校長から渡してもらう。パトロール終了後にアイスクリームを食べる。	-
ただ、パトロールして歩くだけではなく、愛をこめて、一人ひとりに挨拶するということを伺い、大変、参考になりました。	町会の防犯婦人部に所属しているので。
防犯パトロールをすることで、下着ドロボーや空き巣が減った。	防犯パトロールがこんなにも効果があるのに驚いたから。
連絡を取りながら。	-

名簿番号	4
取組事例	選択理由
金、人が集まらない。高齢者には困る。	-
地域のボランティアのメンバーが高齢者ばかりで困っている。体力的に活動日も限られてくるし、金銭的にも限界がある。若い活動メンバーが必要。	地域のボランティアは、自腹で活動しているのだと知りました。若い活動メンバーを取り入れるのも難しいのだと感じました。
振り込め詐欺、夜警、交通パトロールを皆でしている。	振り込め詐欺、私のところも多いと聞きました。
ボランティアと言っても、全て無償では続いていかない。何か効果的な案があれば提案が欲しい。	ボランティアを続けていく中で切実な問題提起をされていて良かったと思う。
メンバーの高齢化にともなう組織運営の困難。資金的援助を求めていくべき（行政、警察）。	参考になったから。
夜９～ 10 時の夜間パトロール。終わった後の仲間との集会。	何をするにも活動経費が必要。住民の高齢化にともない、防犯団体構成も高齢化。
ラジオ体操第一にみんなで参加して顔見知りになり、地域の輪が広がりつつある。	-

名簿番号	5
取組事例	選択理由
親子の参加者を多くできるような企画をして、防犯活動への参加者を増やし、活動の活性化を図る。	-
公園に鯉のぼり。	周りの目がいっていることが一目でわかるし、子供は楽しい。
地域住民の方にお祭りの簡単な作業の手伝いをしてもらう。	地域の人々が活動に触れるきっかけとなるため。
町会の活動で、鯉のぼりをあげたり、七夕飾りを子供たちと作っているが、自宅にいるお年寄り等に手作業等できることを手伝ってもらい喜ばれている。	小さなことからコツコツと活動していることの大切さ。
町内会の連絡は素晴らしいと思いました。町会等の活動として参考にしたいと思います。どの方も参加者を見つけるのに苦労しているようです。	-
ポスターや鯉のぼりを公園等に貼ったりする広報活動。地域を明るくすることで防犯につなげる。	-
まちの公園に鯉のぼりをあげる。	楽しいまちづくりにつながると思う。

名簿番号	13
取組事例	選択理由
８３運動。朝８時と昼３時に、小学生を見守ることで、防犯を行う。	時間帯を限定していて、活動に参加できる人が固定的になるのかもしれないが、交流や関係を持つという点で優れていると思った。ただ、８時と３時では見逃しがあるのかも。
８３運動で登下校時に保護者の目を光らせるようにしている。品川区役所では、ＧＰＳ付きの防犯ブザーを全児童に持たせている。	地域の子供達を見守るために、地域住民の目が必要だと思ったため。
ＰＴＡ活動をしていて、どのように助成金を？チラシを配る時、もらって頂けない場合どうしたら良いか。	-
学校での防犯活動について、被害にあった時の対処について。	被害に遭った時の対処法を学んだから。
子供達の見守り８：30 ～３：00、83 運動をしている。子供達の見守りには、皆さんの目が光っているので、子供達が被害を受けるようなことがないと思いました。	子供達の見守りをしっかりやっていることに感心しました。
防犯ブザーについて、品川区ではＧＰＳ機能と話すことができる機能がついている。最初は、誤作動とかで大変だったが、今はだいぶ落ち着いてきている。	防犯ブザーの取り付け位置がよく考えられていないので、いざという時には使用できないと思う。

名簿番号	36
取組事例	**選択理由**
一日に時間帯を変えて、3時、5時、9時にパトロールしている。	-
お住まいの地域の小学校には塀がないと聞いて驚きました。公園と小学校がつながっているらしく、出入りは可能なのに犯罪が起きていないのが不思議でした。	地域の連携の大切さを実感しました。
学校と公園が一体化して塀がない。今まで犯罪もない。素晴らしい。	このような学校が初めてなので、選びました。
行政との連携はまず顔を合わせて親近感を持つこと。行政に対して、利用させてもらう、身近な情報が欲しい。	上手な連携ができている。
警察、行政に顔を出すこと。親しくなり、現状を知ることになり、連携を取ることができる。	我々の町会長が「警察、行政の言いなりになるな」と常々言っているので、皆さんはどのように活動を進めているのか知りたかった。
住宅街が95%を占める地域、公園と隣接した塀のない小学校があるため、防犯が難しいが、今までそこで事件が起こったことはない。	上記のような立地条件にありながら、事件が起こらないのは、やはり地域のかかわりが密だから。侵入者を許さない連携が取れているのではないかと感じた。

名簿番号	91
取組事例	**選択理由**
学生が中心となってボランティアをしていることに感心した。そして、学生がその他の方々に働きかけ、大きな輪となって事業を行っている。	中心となる人が、うまくリーダーの方々の力を信じ、任せている。
学生ボランティアを主催し、地域と協働で活動している。3.11以降、学生の意識が変わり、積極的になってきた。大勢の学生が参加するようになった。地域の小中学生や高校生との交流ができ、地域から褒められることにより、さらに意欲が高まっている。	若い人のボランティアに対する意識を知りたかった。
ごみ拾い、防災活動について等。	-
大学生と協力してパトロール。	-
大学生ボランティアが防犯活動。学生中心で中学校に出向く。	参加者拡大。
明星大学の学生さんボランティアの事例。学生が防犯ボランティアをしていると地域のお年寄りが褒めてくれて、学生もモチベーションがあがり、相乗効果があって良い。	学生さんと地域の方とのコミュニケーションが取れているのは素晴らしいと思った。

名簿番号	93
取組事例	**選択理由**
各ボランティア団体との連携により、区域外での活動を行いやすくなった。	区域外での活動が制限されている中で、このように活動の幅を広げていこうとしている努力が素晴らしいと感じたから。
住宅地で高齢者が多いことから、一人暮らしのお年寄りに対する一声運動を行っている。	-
地域を区切って防犯活動をする。	-
東京都と埼玉県の境の東京都側で広報していても、埼玉県に入ってしまうので、隣の町会（埼玉県）と話をして、どちらでも広報できるようにした。	前進した考えです。
隣の警察との縄張りをなくして頂いた。	防犯協会を中心に。
見回りの時に、新聞がたくさんたまる等、不自然な点があれば注意する。	老人の孤独死防止ができたら。

名簿番号	38
取組事例	選択理由
活動経費は最初自前ではじめた。ＮＨＫの取材があった。	-
ご近所付き合い広め隊。できるときに、できることを、無理をせず、仲間が自然体で活動する。バザーや花見、お楽しみ会等を行う。	-
毎日のパトロール。犯罪が激減。効果は必ずある。	-
毎日パトロールを行っている。少ない所は３名～ランダムにパトロール活動をされていることが素晴らしく感じました。	参加者が少ないことに大変苦労しているため。
三日に一度空き巣が入るような地域を年間 10 件ほどに。ＮＨＫでも取り上げられた。区から 10 万円の補助金をもらう前は、バザー等でやりくりしていた。できることをできる人から。	まず、三日に一度も空き巣が入る地域というものを初めて知り、実際に実績を出している点。バザー等でのやりくりは自分でもできると思う。

名簿番号	43
取組事例	選択理由
青パトを所持し、子供の身の回りに力を入れている。自分が育った場所が、安全・安心という気持ちがあれば、必ず戻ってくることを信じている。	-
活動団体の高齢化にともなう団体の弱体化対策として、同地域内の大学等の他団体との交流の必要性。地域住民とのネットワークの強化。	-
地区内での活動。無理な誘いはせず、やりたい人がやりたい時に活動する。３時～４時半に見回り活動。	-
防犯活動、民間交番の立ち上げ、青パトの活用。	-
防犯ボランティアというジャンル全体の課題は高齢化で新しいメンバーの参入が追いついていないが、住民の中で義理が生じて地域での生活と活動の間でギクシャクしてしまうのは困るため、できる人ができる時に参加するというスタンスを取っている。子供見守りに力を入れ、民間交番等も開いた。	ディスカッションの中で、大学生と既存の地域防犯団体との交流という話に議論が及び、警察に働きかけ、学生との地域のボランティア団体の交流の場を設けて欲しいと要望すれば、設けてくれるはず。地域の方も、そういう場を欲しているから、受身にならずに動いて欲しいと言われ、勇気づけられた。

名簿番号	56
取組事例	選択理由
ＮＰＯ法人で助成金をもらい、プランターを買って配置する。花を植えたり、野菜を育てることで、地域を活性化させる。	ボランティアを行っている人の多くは家庭があり忙しい。そのような中で、できることとして、良い考えだと思った。
第一回子供見守りボランティア修了者としての経験。フラワーポット等の活動。	都、区の助成事業の成功例として。
パトロールだけではなく、地域に子供の絵を飾ったり、プランターに水やりをする。	パトロール以外の活動でも地域の環境を良くすることにより、防犯に役立つこと。パトロールより気軽に参加できるため。
パトロールをしたり、ＮＰＯ法人に所属していて子供見守り活動の一部でプランターを配り、花や植物いっぱいのまちにすることで、犯罪をする人も心が揺らぐかなという思いのため。	子育てや仕事がある中で、自分にできるボランティアを行っているというところに魅力があった。花や植物を植えることはいいなと思った。
ボランティア活動に積極的に入りたくなるような仕事はないか。	-

名簿番号	92
取組事例	選択理由
20 年以上前から、防犯協会に参加して活動。	-
チラシ配りの時の顔をみたり、声をかけることの大切さ。	同意見です。
チラシを渡す時、目を見てしっかり渡すともらってくれる。チラシをもらって、オレオレ詐欺に遭わなかった。	チラシを配っても、なかなか若い人はもらってくれない。
配布場所の参考になった。	駅前でしかしていなかったので。
振り込め詐欺を防ぐためのチラシ配り。	毎月、三軒茶屋の駅上でやっているが、なかなか受け取ってもらえない。コンタクトレンズ等のようなチラシ配りのひとと一緒にしているし。顔を見て渡すと良い。

名簿番号	3
取組事例	選択理由
悪質な客引きや酔っ払いから治安を守るために、夜間や通学時間にパトロールを行っている。	普段のボランティア活動で対象としていない人達に対して、どのようなことをしているのか聞けたので印象に残ったから。
学校に対してＰＴＡのかかわり。	-
夜間パトロール、ＰＴＡを介しての朝の子供のパトロール。	とても大切な問題で、どうやって解説していくべきかを考えていたので。
六本木地区を、夜、朝、パトロールを行っている。	40 ～ 60 代が数多く、パトロールに従事している点。自分のところは、60 歳以上が大半。

名簿番号	11
取組事例	選択理由
大きな祭りをする。祭りにより、絆がつくられる。	人が集まる機会を利用して、隊員を増やす方法を知りたかった。
自治会のパトロール。７年前、アカデミーで学んでから始めた活動で継続中。	団地での空き巣や放火が実際に減っている。
第一回アカデミーの修了者としての経験。地域の防犯活動。	経験豊かな事例として。
祭りが１つの防犯対策。そこからいろいろな問題を減らすことができる。まちづくりへのチャンスとなる。	私は、お祭りは、ただのお祭りと思っていましたが、こうした視点によって改善していくことに気づきました。

名簿番号	20
取組事例	選択理由
活動についての都からの助成金がない。	-
通学路の安全活動は、自分が元気を子供達からもらい、父兄とも親しくなる。	-
どのようなところで犯罪が起こりやすいか調べて報告する。地域の人とコミュニケーションを取る。	このような活動をしていけば、一人ひとりが意識・注意して生活できるから。
防犯のやり方を教えてくださった。町会とのかかわり。	-

名簿番号	35
取組事例	選択理由
地域と学校とのかかわり。青パトで巡回している。	-
防災と防犯は両輪。ボランティアは、欧米なみに有償にすべき。責任感が生まれる。無関心層が多い。	-
防犯、防災も大切。ボランティアも無償ではなく有償にした方が良い。	-
防犯カメラ、人に反応する機器の設置、花壇等のプランターの設置。	花壇のプランターを設置するのであれば、地元の小学校と協力できると思ったから。

名簿番号	45
取組事例	選択理由
学童保育の問題、育成会の問題。	見守り隊をしているから。
杉並町内。月～金。１チーム５～６人で行う。３名以下は中止している。パトロールの基本がよく守られている。	-
地域と学校のかかわりについて。	児童の見守り隊をしているから。
保育、学校とＰＴＡの問題。育成会のこと。	学校とＰＴＡは協力して行うべきことが、いまいちできていない。

名簿番号	65
取組事例	選択理由
学生時代からボランティア活動をやっていると、大人になった時には、すんなり入ることができるし、やってみたいと思う気持ちも持っている。	無償のボランティアに入ることは、子供の時の生活環境が大きく作用する。
学生パトロール。高校生が駅前に立つ。	-
高校生が駅前でティッシュを配る。警察の人と自分達で呼びかけをする。	高校生が参加することは良いことと思いました。
練馬工業高校、公園の花壇づくりを学校生徒会で行っている。	学生ボランティアの素晴らしさを知る。

名簿番号	88
取組事例	選択理由
学生さんのため、学校のまわりの町会・団体とのコミュニケーションが思うようにならない。	-
学生ボランティア活動について、地元の学生でないと意識が薄い。	-
子供のことなら、学生ボランティアがいる。	-
明星大学の学生さん、地元の大学生がもっと防犯パトロールに参加して欲しい。	-

名簿番号	105
取組事例	選択理由
次世代につなげて輪を拡げていくには。	学生さん達との話し合いを持ちたい。
自治会と学生ボランティアの交流は若者から働きかけるべき。	ボランティアに向かう気持ちを新たにしました。
地域の若い人とお年寄りの方が交流できる場、意見交換できる機会を作る。	さまざまな意見を取り入れることは大切。このような機会を若い人たちから作っていくことの大切さを再確認した。
若者が地域住民と交流する場にもっと出て欲しい。地域の基盤を作って欲しい。	-

名簿番号	107
取組事例	選択理由
高齢者が多いため、若い人がボランティアしてくださるとありがたい。自治会より予算を頂いている。	-
町会員を増やす方法。	-
町会の現状。	参加率等の話を聞くことができた。
メンバーの高齢化にともなう組織運営の困難。学校ＰＴＡへの呼びかけ。防犯マップづくり。	参考になったから。

名簿番号	108
取組事例	選択理由
学生ボランティアがどのように立ち上げられ活動しているのか。グループリーダーとして約 50 名のメンバーをまとめ、警察の指導により活動している。	高齢化している会員の中で、どのように地元の学生に参加してもらえるようになるのか。
学生ボランティアとして同地域の他団体との交流の必要性。	-
学生ボランティアを立ち上げ、２年あまりになるが、地域とどのように連携していいのか少し迷っている。所属する警察などと話し合いを持ちたい旨、希望を言うことが大事とのこと。	-
大学の防犯団体で活動が終了すると、そのまま解散してしまうので、一緒に活動した団体との交流が図れないのが残念だとのこと。	-

名簿番号	6
取組事例	選択理由
地域社会のつながりはどのようにすれば良いのか。商店街イベントを行うが､来てくれない。どうすれば良いか。警察との連携。地域に溶け込みにくい環境。	若い人が来てくれないという事例から、どのようにすれば来てくれるのか、住み良いまちになるのか、話し合いをしたが、尽きない。
道路でイベントしたいが、どのようにするか。各署に行って話した方が良い。	-
年寄りと子供が一緒に楽しめる会をするために、歩行者天国をしたいが、やり方がわからない。	-

名簿番号	7
取組事例	選択理由
子供見守りボランティアリーダー育成講座を受講し、より強く安全・安心なまちづくりに協力している。	-
わんわんパトロールの事例。	犬の散歩との協働の有効性。
わんわんパトロールを実施している。各自が好きな時に、という自由なあり方が継続につながると思う。	-

名簿番号	8
取組事例	選択理由
行政や警察の根回しをよく行い、防犯係や交通係に行き、よくお願いすること。	若い人の参加者をつくり、地域を安心・安全な町にしたい。
人脈づくり。	他の区の人と話すと、自分の区に足りないものがわかる。こういうことを自分の区に要求していいんだと勉強になる。
人脈づくり。	わが町会に取り入れる。

名簿番号	25
取組事例	選択理由
学童の行き帰りの防犯パトロール。	-
下校時の小学生への対応。	防犯パトロールをしていて、懸案だった。
世田谷区防犯活動。	-

名簿番号	31
取組事例	選択理由
夜間パトロール（PM9 時～）。防犯カメラを設置、人の気配で光るライト。自分の居住地は安心・安全だから余計なことはしなくて良い。	-
夜間パトロール。企業にも協力してもらう。	音を出すことは良いことです。
夜回り活動、地元企業との協力。	夜回りは固定化されて、少々存続が難しいと感じた。地元企業が協力してくれないと、防災面での問題があった。

名簿番号	37
取組事例	選択理由
９年前から、月・水・金 11 ～ 18 時のパトロール。ひとりがパトロール中に 100 人に声をかける。また、ごみ拾い。メンバー 43 名、１回 20 名。	-
月・水・金の清掃。１人、100 人に挨拶する。祭りで参加者に呼びかけ。退職者への呼びかけ。パトロール母体がしっかりしている。皆のパトロールが生活習慣になっている。	-
皆が喜んでボランティアに参加している。良いリーダーに会うと会は盛り上がる。	３町会を受け持っているが、１町会の場合の話を聞きたかった。

名簿番号	41
取組事例	選択理由
365 日、朝のラジオ体操の壇上にのぼり、子供達にも顔を覚えてもらう。	-
偶数の月の 15 日に防犯（振り込め詐欺防止等）の呼びかけ、ティッシュ配り、ビラ配りをしている。警察署からティッシュ等を持ってきてくれる。まちの人々は興味・関心がなく、なかなかもらってくれない。もっと身近に感じて欲しい。	まちの人々はひったくりや振り込め詐欺は自分とは関係がないと思って無関心だと知った。もっと身近に感じてもらうためにはどうしたら良いのか考えたいと思ったため。
年金受け取り時の振り込め詐欺の取組について。ティッシュ等を配り、犯罪防止につとめている。	とても耳にすることが多いので。

名簿番号	44
取組事例	選択理由
行政、警察のいうとおりに使われている状態でいる。若い世代の人にバトンタッチしていかないと、高齢者がいつまでも続かないでのではないか。	-
経験豊かな方なので、耳を傾けましたが、やはり警察からの連絡は早くとのことも同感でした。率先して近所付き合いをしていること。賛同します。	-
わんわんパトロール、防犯パトロール。	-

名簿番号	71
取組事例	選択理由
学生ボランティアの厳しさ。単位免除方式。指導者の必要性。	納得しました。
防犯カメラに対する意見を質問された。	-
学生ボランティア、地域のコミュニケーションが大切。子供を巻き込んでパトロールをしている。指導者が必要ではないか。	-

名簿番号	72
取組事例	選択理由
ＡＴＭ近くで高齢者に声をかけて振り込め詐欺防止活動中。ＳＶＳ成城警察署ボランティアグループに参加、駅頭活動中。	お年寄りの見守りボランティアは必要と思われる。
学生にできること。チラシ配りは良いと思いました。年金の日の銀行前など。	-
成城警察署の依頼を受け、学生が空き時間に振り込め詐欺防止のビラ配り等をする。	同じ学生ボランティアの方だったので、興味が沸いた。

名簿番号	77
取組事例	選択理由
「あいさつは魔法の力」、小学生が挨拶せずに、知らない人は不審者とみなす世の中。こちらから挨拶すると、いつかは挨拶が返ってくる。	20 年くらい前から、知らない人に名前を言わない教育が進み、今は知らない人に敵愾心を抱く。穏やかなまちづくりをしたい。
育成会。	-
中高生の交通マナーやルール。挨拶等。	自分の高校、いろんな中高生等の様子や取組。

名簿番号	85
取組事例	選択理由
週３回のパトロールと訪問活動をされているとのこと。	学生も参加して頂くことが良いと思われる。若い力を頼りにしたいと考える。
大学生で当会への参加。	大学生をいかに地域の防災・防犯活動に取り込むかを思考しているため。
夜間のパトロールで不審者と思われる。授業の空き時間にパトロールしている。	警察官に同行してもらうと良いのでは。若い子がボランティアに向かう姿を知りたかった。

名簿番号	96
取組事例	選択理由
青葉町みまわり隊。７年前より。高齢化が問題。子供にも参加させ、年末に参加した子供に感謝状を出す。	-
お盆と年末に子供と一緒にパトロールする会。パトロールが終わった後に子供達にご褒美をくれる。	子供の思い出づくりと両立した防犯パトロール。かつ、犯罪が起こりやすい時期がうまくカバーしていること。
若い人が参加してくださったことに対して、育てていくには、交通費を出すという良いお話がありました。	-

名簿番号	103
取組事例	**選択理由**
大学生でなぜこの会に参加されたのか。	大学生を地域組織に取り込むか。
ピーポーズでの活動。	同じ学生ボランティア、ピーポーズとして、また先輩として今後に役立つ話をして頂いた。
ピーポーズの組織に加入して活動している。	大学生が防犯ボランティアをできるシステムがあることは良いと思った。

名簿番号	9
取組事例	**選択理由**
パンフレットの配布について、道行く人は受け取らない等、学生さんより人間関係が薄いように思う。大人は、もっと若い人に目を向けて欲しい。	学生さんからのお話が少ない。無理はないと思いますが、もっと何かのかたちで情報を知識にしてあげたい。今日などは、最高に良いと思います。
マンション 300 世帯の管理とごみの問題。解決方法は見つからないとのこと。特に、ポストに入れられるチラシの件。	-

名簿番号	14
取組事例	**選択理由**
自治会で防犯カメラを取り付けたり、防災システムや設備を整えたりと、新しい方法を取り入れ、進歩的な活動をされている様子。自治会の出席率や、協力も高い比率を維持している。	学生なので、自治会の現状は聞き及ぶだけなのですが、自治会の連携希薄化が叫ばれている昨今において、これだけの参加率と活動内容を維持しているのは、本当に凄いと感じました。また、防災の件で、地震の対策は勿論だが、いつくるかわからない地震だけではなく、台風に対する備えという点でも、防災に取り組んでいて、防犯も防災も漠然とした危険より、身近な方が、周りの危機感を高めるだろうと思った。
町会の中に防犯カメラを付け加えて防犯対策をしている。	私達の町会にも欲しいと思い、役員会で出してみたいと思いました。

名簿番号	33
取組事例	**選択理由**
親が参加してくれるボランティア、子供を注意する時の言い方。	親のほとんどが知らなかったことを知ることができる。
子供見守り活動を一緒に活動しようとしても、学校側が非協力的な部分があり、難しいかも？安全マップ作成でも、学校の考え方が違うところがある。	-

名簿番号	42
取組事例	選択理由
週３回の防犯パトロール中でのタバコ、ごみのパトロールの協働・活動。	地域の安全・安心はセーフコミュニティが必要。
週３回、月･水･金、町会のパトロールに 20 人以上の方が集まる。一時間ほどの活動 11：00 ～ 12：00 頃。運動を兼ねて、コミュニケーションを取りながら行っている。	自分達もパトロールを行っているが、なかなか人が集まらない。人集めの参考になった。

名簿番号	48
取組事例	選択理由
どなたも人集めが大変なようです。	-
防犯パトロールを毎週行っている。違反広告を削除したり、落書きを消したりといった活動も行っている。	防犯パトロールは人とのつながりが大切であるということが心に残ったから。また、落書き等を消す作業もしていることに驚いたため。

名簿番号	57
取組事例	選択理由
自分でプリントする。	-
振り込め詐欺防止のキャンペーンをやっている。	-

名簿番号	70
取組事例	選択理由
高校生が公園等の公共施設の環境改善に取り組んでいることに感動しました。	私共の地域でも公園等の公共施設の改善は地域と行政と協議している。
高校生で、皆で協力して公園の安全を作る。練馬ピーポーズという活動の集まり。	子供を巻き込むのは、とても大切だと思う。

名簿番号	73
取組事例	選択理由
学生が参加するためにはどうしたら良いか。参加する魅力、どこが窓口か、ポイントが付くか、保険は。	是非、若者と年配者との交流が欲しい。行政からの連絡（どこの学校が参加が可能なのか）。
ご自身が参加していることに対して、周囲の人達からどのように見られているのかの問いと、学校と警察が連携し学生ボランティアを呼びかけていることがわかりました。若者達にボランティア精神の醸成が必要と考えました。	-

名簿番号	74
取組事例	選択理由
公共施設に花壇を高校生が整備。	きちんと整備された公園は、犯罪の温床になりにくい。子供も来やすい。
高校生の生徒会の取組でボランティアに参加した。パトロールや花壇の整理等をしている。	若い人の頑張りに拍手をしたい。

名簿番号	76
取組事例	選択理由
自分達の仲間でパトロール隊を立ち上げた。	既存の組織に関係なく、自分達で始めた点。
若い人を取り込むための活動として、他の機関とも活動をした方が良い。	全くその通りだと思った。

名簿番号	94
取組事例	選択理由
３学校の防犯パトロール、10 件以上あった。中学生による犯罪を、中学生達と親しく接することにより、今年の発生件数を０に抑えた。	活動の中で子供達とどのように接したら良いのか悩んでいる中で、このような成果が出たという話を聞けたのは、貴重な体験だった。
青パトの運行。	-

名簿番号	104
取組事例	選択理由
初対面の人とうまく会話するのはとても難しい。人とのコミュニケーションをとっておくことで、防犯の心がけがうまくいくし、犯罪が起こりにくい。	どんな面でも人とのコミュニケーションは大切なんだなと思いました。地域の人々が仲良しだと、犯罪が起こりにくいと思います。
大学３年で今まで何もしていないので、何かしなくてはと思い参加。	-

名簿番号	1
取組事例	選択理由
会員を増やすためのチラシ配布等の実施。結果はあまりなし。	わが会も同じ問題を持っており、参考にならなかった。

名簿番号	15
取組事例	選択理由
メンバーが高齢化していて、これから続けていく上で心配です。	-

名簿番号	16
取組事例	選択理由
高齢者が多く、怪我をする人が多いので、年齢制限をしようとのこと。	-

名簿番号	18
取組事例	選択理由
こまめに訪問する。電話を使わないようにしている。	-

名簿番号	26
取組事例	選択理由
長く続けることが必要ですとのこと。	この町の若い人が参加して後継者が育って欲しい。

名簿番号	27
取組事例	選択理由
ＳＶＳ（スチューデント・ボランティア・サークル）を作って協力して頂いている。	-

名簿番号	39
取組事例	選択理由
広報の方法。	-

名簿番号	47
取組事例	選択理由
商店街が問題。	地域の話が聞けて良かったです。

名簿番号	49
取組事例	選択理由
町、商店会とは良いが、行政と警察は、ＰＴＡ・学校とはよくできている。	歴史ある町なので、若い人、学生が参加して育っていて続けて欲しい。

名簿番号	51
取組事例	選択理由
若い人の活動は少人数になってしまう。	-

名簿番号	60
取組事例	選択理由
40 年防犯協会で活動しているが、なかなか人が入ってこない。高齢化が悩み。	-

名簿番号	67
取組事例	選択理由
地域安全マップづくり。	-

名簿番号	69
取組事例	選択理由
子供見守り隊の活動を通じて、子供達から元気な挨拶を受け、むしろこちらの活力が増える。	-

名簿番号	80
取組事例	選択理由
自分が警察官になって取り組みに参加したいという意識が伺えた。	すごいと思ったから。

名簿番号	81
取組事例	選択理由
振り込め詐欺被害防止の呼びかけ等を行っているが、私は高齢者ではないと拒否されてしまう。	-

名簿番号	84
取組事例	選択理由
月・水・金も 11 ～ 12 時の防犯パトロール。	参加意識が高いこと。目に見える活動を行っていること。

名簿番号	87
取組事例	選択理由
広報活動。	学生との連携をしたいが、内部事情がわからないので。

名簿番号	89
取組事例	選択理由
マウンテンバイク、オフロードバイクを講習して、災害時に助けに行く団体を作ったら参加するか聞いたら。	時間があり、機会があれば、参加したい。

名簿番号	90
取組事例	選択理由
学生ボランティアの努力にびっくりしました。	-

名簿番号	97
取組事例	選択理由
自分の活動の始まりが、コンビニの協会の方だという。	コンビニ関係が動くきっかけを知りたかった。

名簿番号	98
取組事例	選択理由
若い人の参加がない。どうしたら良いのか。	-

2　参加者アンケート

本アンケートはワークショップ参加者(101 名)に配付し、回収できた 87 票を有効票として集計した。グラフに記した（N ＝ 87）は、回答者の合計数を示している。このため単純回答の場合、回答個数の合計は 87 となるが、複数回答の場合、１人が複数個選択するため、回答個数の合計は 87 を超える。複数回答における占有率（%）は、回答個数を回答者総数 87 で除した値としている。

なお、(　) で囲んである数字は回答個数を表している。

配付された参加者アンケート用紙は、配付資料の資料６（P110）を参照。

1　加入している主な活動母体

加入している主な活動母体は、「町会・自治会」(39.1%）が最も多く、次いで「防犯協会」(37.9%)、「学生ボランティア」(23.0%）となっている（図１)。

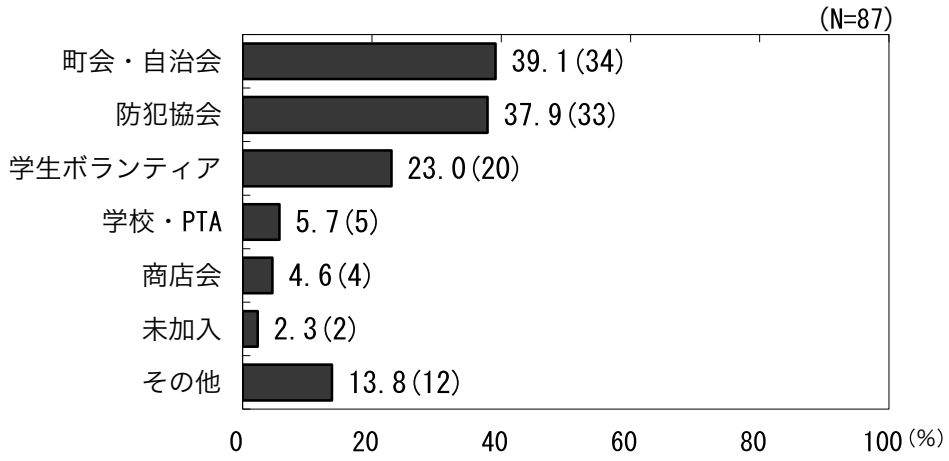


図１．加入している主な活動母体（複数回答）

【その他の内訳】	N
自主	2
自主防犯ボランティア・団体	2
六本木安全安心パトロール隊	1
消防団、消防少年団	1
中野区地域環境アドバイザー	1
地域の安全・安心を考える会	1
地域ボランティア団体	1
ＮＰＯ法人ささえ手	1
地区委員会	1
子供見守り委員会	1

2　防犯活動の取組年数

防犯活動の取組年数は、「15 年以上」（20.7％）が最も多く、「10 ～ 15 年未満」を合わせた防犯活動 10 年以上が、回答者の約 1/ 3（34.5％）を占めている（図２）。

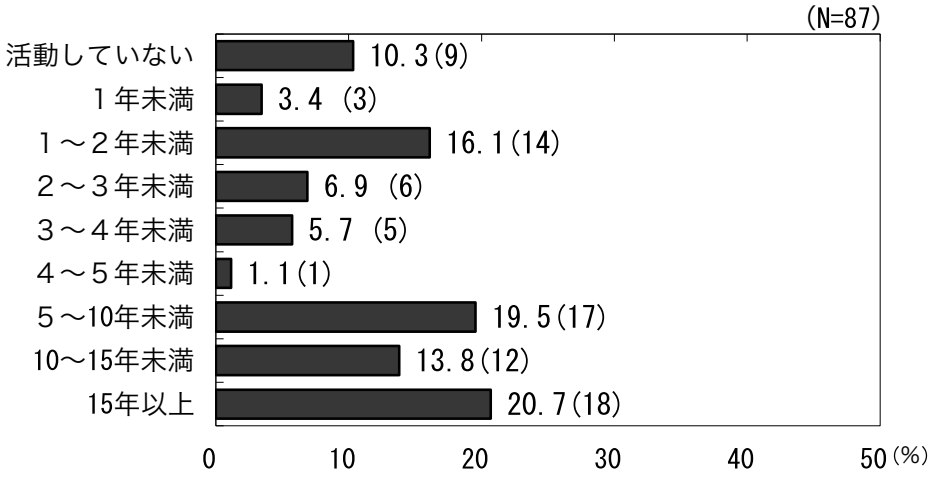


図２．防犯活動の取組年数

3　平均的な活動日数

平均的な活動日数は、「週に３日程度」（18.4％）が最も多く、次いで「月に１日」（17.2％）、「週に１日程度」（16.1％）となっている（図３）。

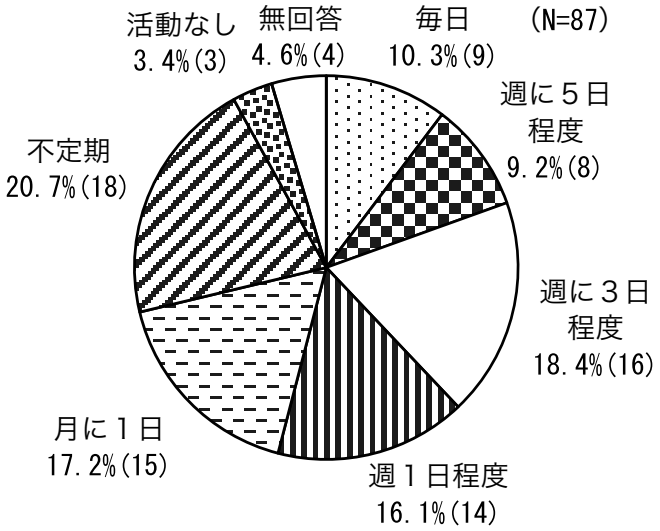


図３．平均的な活動日数

4　主な活動内容

主な活動内容は、「防犯パトロール」（69.0%）が最も多く、次いで「子供の安全確保（保護・誘導・見守り）」（36.8%）、「環境浄化活動（落書き対策・清掃活動など）」（27.6%）、「青少年の健全育成」（20.7%）となっている（図４）。

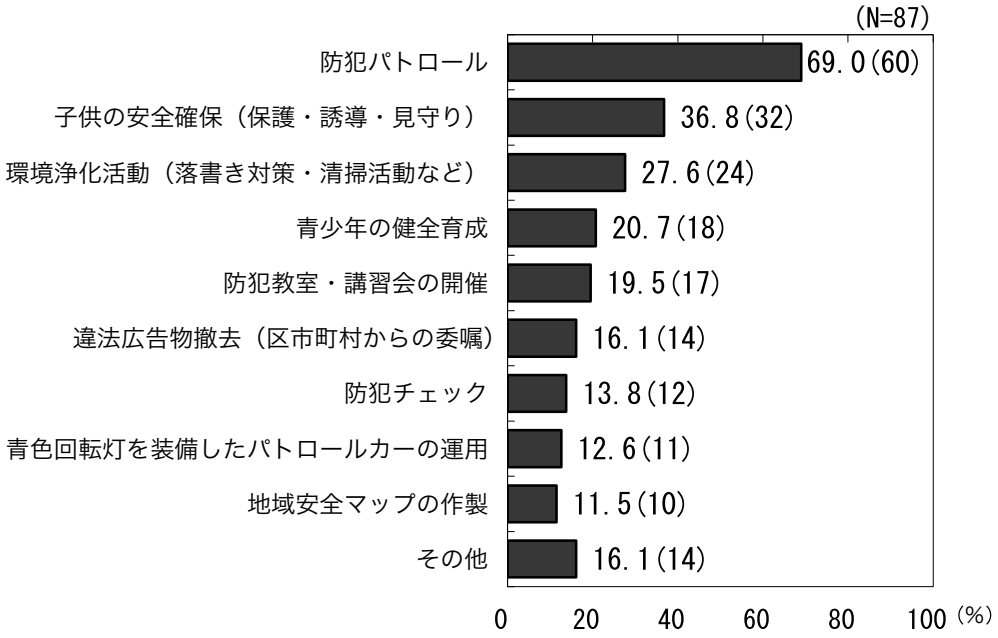


図４．主な活動内容（複数回答）

【その他の内訳】	N
チラシ配り	4
ポスター整備	3
83 運動	1
年間を通じ、振込み詐欺・万引き・ひったくり防止のキャンペーン	1
痴漢防止・振り込め詐欺防止キャンペーン	1
防犯パレード	1
地域安全安心ステーション	1
振り込め詐欺防止の広報	1
安全安心に関するもの、交通安全等	1

5　活動上の課題

活動上の課題は、「町会・自治会との連携」（41.4%）が最も多く、次いで「警察との連携」（39.1%）、「学校・ＰＴＡとの連携」（29.9%）、「仲間づくり」「構成員の高齢化」（ともに 26.4%）、「行政との連携」（23.0%）となっている（図５）。

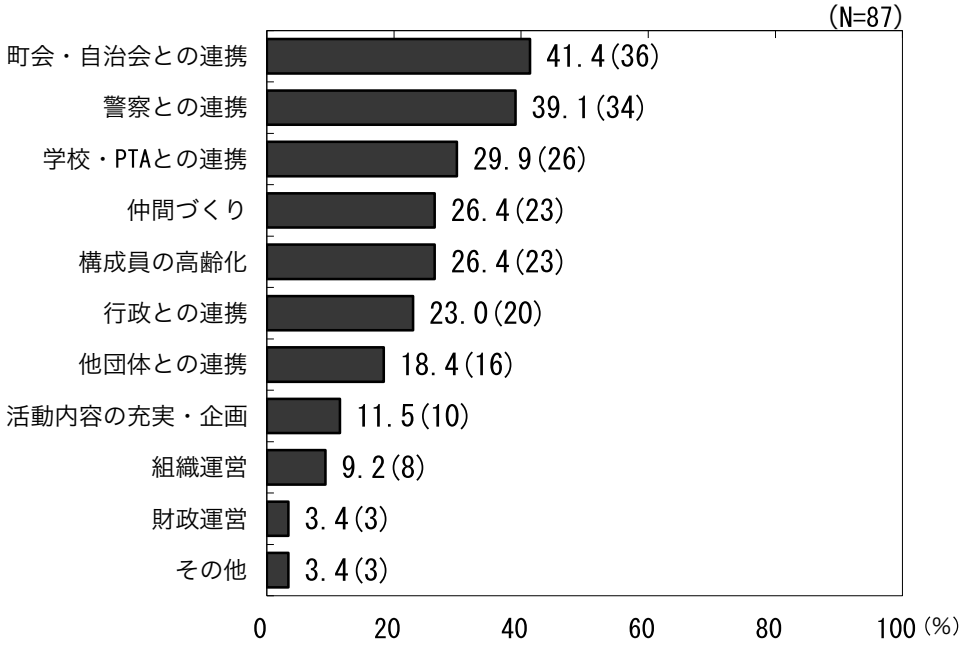


図５．活動上の課題（複数回答）

【その他の内訳】	N
異世代交流による後継者の育成	1
自助・共助の役割を自覚させること	1
地元住民への話し方	1

6　ワークショップに参加した感想

ワークショップに参加した感想は、「とても参考になった」「参考となった」を合わせると 82.7%となった（図６）。主な感想は以下のとおり。

また、それぞれの理由としては、表１に示すような意見が挙げられている。

・いろいろな話を聞くことができた。
・さまざまな活動団体の問題点や内容を聞くことができ、参考・勉強になった。
・これからの活動に関心が出た。
・他地域の活動内容を地元への活動に取り入れたい。
・若いボランティアが積極的に参加していることに驚きを感じた。
・自分達以外にもボランティアで防犯活動をしている人がいることを知り勇気が出た。
・単純に交流にもなった。
・いろいろな案を手に入れることができた。
・時間が足りず、充分に聞きたい部分を掘り下げることが難しかった。
・ファシリテーターを１つのテーブルに一人つけてほしかった。
・自分達の問題とマッチするテーマがなく、議論がかみ合わなかった。

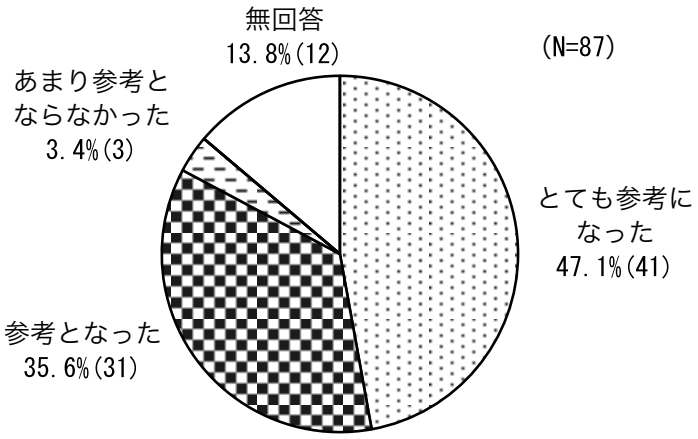


図６．ワークショップに参加した感想

表1．ワークショップに参加した感想（その理由）（1 / 2）

【とても参考になった理由】
一方的にお話を聞くだけではなく、お互いの話を聞くことによって実際に参考になることが多かった。
いろいろな話が聞けて私達のところにも取り入れられると思いました。
いろいろな話が聞けた。
いろいろ話し合いした結果、とても有意義なことでした。大変、勉強になりました。
各種の取組や苦労話が聞けた。学生の活躍の場が広がるように参考としたい。
学生さんや他の町会の皆様のお話が聞けたことが参考になりました。
学生ボランティアがいる。
学校での話し合いだけでは得ることができない内容を聞くことができた。
考えている問題が少しわかった。
行政や警察との連携により、メンバーを増やすことにつながるかと思う。また、子供（小学、中学、高校）の参加を促したいと考える。
さまざまな活動団体の問題点や活動内容を聞くことができ、とても参考になりました。
さまざまな経験の方々から貴重な意見を聞けました。方向性としても、多角的で、良かったと思います。
さまざまな世代の方と交流できたことが大きな成果だと思う。これからのボランティア活動に活かしていきたい。
さまざまな立場の人と接し、お互いの活動や課題を知ることができたため
参考になる意見を聞くことができました。
自分達以外の活動を聞けて、とても刺激になった。
自分は知らなかった活動や、これからの活動に興味・関心が出ました。
席替えが功を奏して楽しく聞き、自身を持って話せて、理解が広まった。
他地域の活動や様子がわかったこと。同じような問題を抱えること。その対策を解決しなくても頑張っていること。自分の方向性も見えたこと。得るものがたくさんでした。
他地区の活動内容を聞いて、地元に持ち帰り参考にさせて頂きます。学生さん（若い人）の意見を聞くことができたことは有意義でした。
他の学生ボランティアの方のお話を聞けて良かった。
他の団体での防犯パトロールのやり方が大きな参考になった。社会に関心が薄いと思われる若い人が、ボランティアに積極的に参加している点に、驚きを感じた。
他の団体メンバーとの交流
他のボランティア団体の活動内容を聞くのはとても参考になったが、それ以上に自分達のほかにも防犯につとめている方がこんなにいると知り、勇気が出た。
地域の連携の大切さを実感しました。学生ボランティアとして活動に参加するだけではなく、地域住民として地域の活動にも参加しようと思いました。
長年ボランティアをしている人たちの話をたくさん聞くことができ、課題も見つけることができてとてもためになった。
初めて参加して、さまざまなボランティア活動をしていることを知った。また、さまざまな問題があることも知った。
東村山市だけではなく、いろいろな区でやっていることを知ったこと。防犯カメラを町内会でつけていること等です。
勉強になりました。
皆さんの活動状況をお聞きできて大変に参考になった。防犯・防災は車の両輪であると思えた。
若い方、学生の方の話を聞けたこと。
若い人が多く参加していること。毎日・毎週、活動している方々が素晴らしいと思いました。
若い人の積極的な意見を聞くことができて良かったと思う。

表１．ワークショップに参加した感想（その理由）（2/ 2）

【参考となった理由】
いろいろな方とお話しできて良かったです。時間がもっとほしかった。
いろいろな活動方法があるのだということを知った。
多くの話が聞けて良かった。
会員増員への妙案には至らなかったが、いろいろな話を聞くことができたのは良かった。
学校でできないことや、地域の人とのかかわりの大切さがわかりました。これからもボランティアを頑張ります。
後継者育成や警察との協力を他の人から聞けて良かった。単純に交流にもなった。
後継者づくりは、やはりかなりの人達の課題でした。なかなか即効性のある施策はありませんが、地道に引き続きやっていこうと思います。
高齢化に対するいろいろな防犯が必要なのだと思いました。
子供の参加方法。
今後の活動に使える知識を得ることができた。
さまざまな活動の種類を知ることができたから。
さまざまな活動を知ることができ、勉強になりました。
参考となる意見がありました。
自分以外の人との交流、特に世代が違うのでいろいろな案を手に入れることができました。
他の活動されている方のお話が聞けたので良かった。
他の活動の話がきけたこと
特にリーダー育成のやり方に貴重な意見がありました。
人がいない、積極的に参加する人が少ない。
人の話を聞くことができて、知らないことがあると気付いた。
ファシリテーターを１つのテーブルに一人つけて欲しかった。時間が少なく感じた。
ボランティアとは自分自身を高めることにあることを再認識した。
本人の熱心さが一番
若いボランティアとの活動が共有できそう。

【あまり参考とならなかった理由】
１つのテーブルで議論する時間が少々足りず、充分に聞きたい部分を掘り下げることが難しかったため
私共の問題とマッチするテーマがなく、議論が噛み合わない。
若い高校生、大学生の参加があり、活発な話し合いに感動した。これからはなるべく褒めて参加をして頂く努力をいたします。

※参　考

グループ発表の際にも感想などがありましたので、紹介します。

○「参加者の拡大」のグループに参加したが、どうしても話が堂々巡りになってしまった。
○ 最近、学生ボランティアに加入したが、具体的には何も活動していなかった。今回のワークショップで、いろいろな方が活動されていると知った。機会があれば自分からどんどん参加していきたい。
○ 学生ボランティアがたくさん参加していて大変勉強になった。学生達がこれだけのことをやっているというのがわかった。どうしたら学生達と町会や地域の人達が無駄のない交流をしながら防犯活動をできるのかと思っていたので、良い機会をいただいた。
○ 高校２年で生徒会活動をしている。いろいろなボランティア活動の話を聞くことができたので良い機会であった。
○ 自分に刺激を与える目的で本日参加した。防犯や子供見守り活動をしているが、だんだんと慣れが出ているのではないかと思っていた。みなさんの意見を聞いて自分に活を入れたいと思った。
○ 若い人達に入ってもらう良いアイディアがあれば参考にしたいと思って参加した。
○ 町会で防犯パトロールを月２回行っている。他の方がどういう活動をされているのかを知りたくて参加した。
○ 学生ボランティアの話を聞いて少々びっくりした。若い人は社会に無関心ではないかと思っていたが、意外とそうでもないことがわかった。
○ 学生でこのような活動をしているなら、うちの地域でも是非活動していただきたい。また、そういう学生もいることは心強い。地域の方の防犯ボランティアに対する温度差が随分あると感じた。
○ 自分の地域は犯罪が少ない所なので、活動に熱心な方は少ない。継続できる良い知恵をもらいに来たが、やはり似たような考えの方が多かった。
○ ワークショップに参加して、いろいろな世代の方達の話を聞いていくことは、自身も成長できるし知識が広がる。
○ 大学一年で活動を始めたばかりだが、いろいろな方のお話を聞き、各地域でやっていることは違うが、みなさん防犯活動を真剣に考えている姿を見て、自分もいろいろなことを知り、防犯に対する知識を深めたいと思った。
○ 最近、防犯パトロール隊を結成した。いろいろなことを吸収しようと参加した。
○ 他の地域でどんな防犯活動をしているのかと思い参加した。日頃活動している取組以外にも、まだたくさんの取組があることを知り、考え方、やり方、手法が違う。良い所をみなさんからいただいて役立てたい。
○ 子供がいない地域に、どうやって子供会をつくるのか、半分あきらめているが、何らかの形で次世代に残せるものをつくりたい。
○ 若者の防犯活動への参加はどうなっているのかと思いここに参加した。

7　席替えの感想

○ 席替えの感想は、「とても良かった」が 70.1％となっている。（図７）。

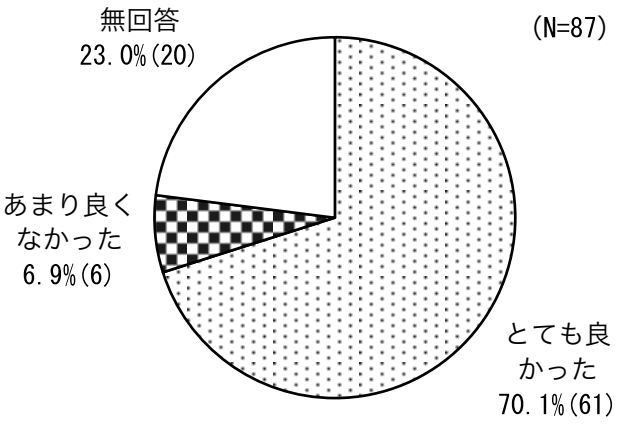


図７．席替えの感想

○ それぞれの理由としては、表２に示すような意見が挙げられている。主なものは以下のとおり。

・いろいろな意見を聞くことができた。
・繰り返して話すことで、参加者がオープンになってきた。
・さまざまな人と交流することができて良かった。
・時間が足りずに、テーマを決めてじっくり話ができるようにしてほしい。
・バタバタとして落ち着かない。

表２．席替えの感想

いろいろな人と話せた。いろいろな意見を聞くことができた。（類似回答 28 件）
いろいろな人と話ができたが、もう少しつっこんで話をする時間があっても良い。（類似回答５件）
考えさせられた。皆様、いろいろ苦労され、工夫されていた。（類似回答３件）
新しい考えを聞くことができた。議論が新鮮だった。（類似回答２件）
自分達とは違う話を聞き、参考になった。（類似回答２件）
一回だけより、二回、三回と繰り返して話すことにより、皆さんもオープンになってきて良かった。
面白かった。人の前で意見を言うのは気になる。ゆっくり話を聞けた。
参加者拡大や、行政や警察との連携が各人の話の中でよく聞けたことが良かった。
自分の思っていること、参考にしていきたいものがあるので良いと思います。
席替え等したことがなかったので新鮮だった。
席替えは２回が良い。
テーマを分けることにより、１つのテーマをみっちりと話すことができたため
話を短くまとめようとする意識を持って話せたので、多くの話題を聞く、話すことができたので、良かったと思う。
分科会の２テーマの参加。
まだまだ都の指導等がなければ、住み良い地域は生まれません。
バタバタとして落ち着かない。メンバーについて把握するだけで時間がかかって勿体ない。

8　ワークショップの開催時間について

ワークショップの開催時間については、「ちょうどよい」(50.6%) が最も多く、次いで「長い」(25.3%)、「短い」(11.5%) となっている (図8)。

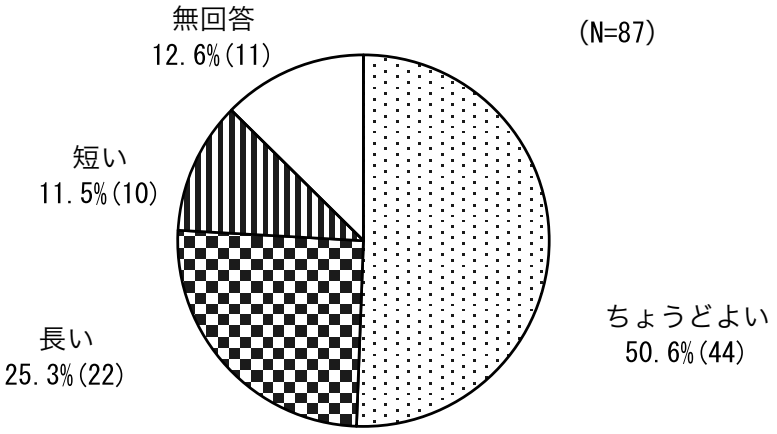


図8．ワークショップの開催時間について

9　ワークショップの開催日について

ワークショップの開催日については、今回のワークショップと同様の「日曜日・祝祭日」(40.2%) が最も多く、次いで「土曜日」(23.0%)、「平日」(12.6%) となっている (図9)。

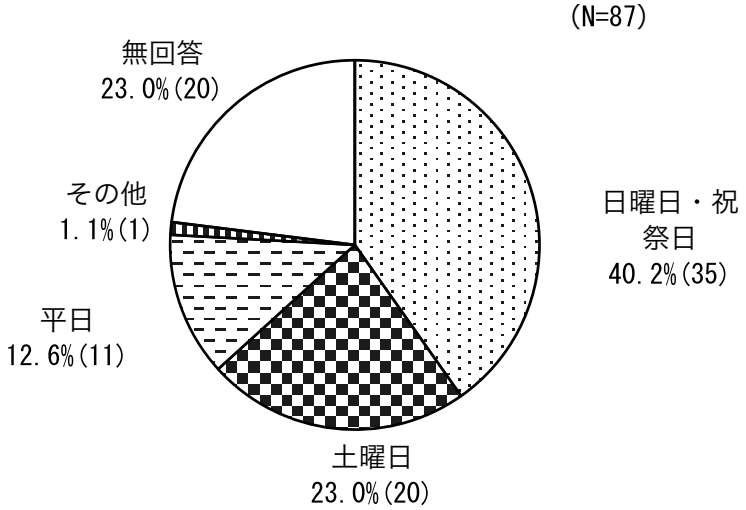


図9．ワークショップの開催日について

10　今後、同様のワークショップへの参加意向

今後、同様のワークショップへの参加意向は、「参加する」「都合がつけば参加する」合わせて81.6%となっており、「参加しない」は2.3%にとどまっている（図10）。

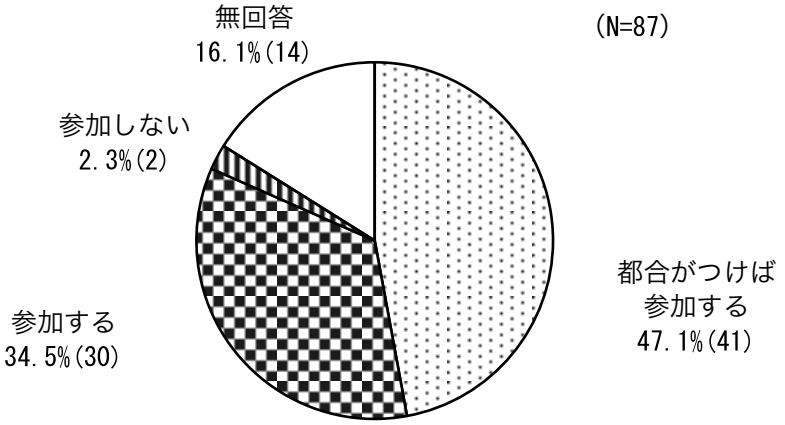


図10. 今後、同様のワークショップへの参加意向

11　もっと知りたいと思った取組事例

表３のような取組事例が挙げられた。

表３．もっと知りたいと思った取組事例

【分科会：活動内容の充実】

ﾃｰﾌﾞﾙ番号	取組事例
1	活動内容の充実を主として、ボランティアの幅を広げる。
無回答	具体的な充実の内容、計画。

【分科会：活動内容の充実、学校・ＰＴＡとの上手な連携】

ﾃｰﾌﾞﾙ番号	取組事例
1	防犯について、いろいろな話が聞けた。深い話が、グループごとなので良かった。
3	地域防犯広報活動、活動参加者を増やす結論がでなかった。
8	ボランティアがなかなか集まらないこと。高校生が地域活動をしていることが素晴らしいことだと思いました。

【分科会：参加者の拡大】

ﾃｰﾌﾞﾙ番号	取組事例
4	後継者問題。
5	私達と同世代で防犯活動をしているＳＶＳ（成城警察署ボランティア団体）をもっと知りたいと思った。
7	①町会の高齢者、特に女性を 40 名くらいの防犯パトロール隊を組織して、月水金 11 ～ 20 時と決めて習慣化されている。②防犯活動を企業に呼びかけている。
8	町会全体となると商店街組織、ＰＴＡ組織、未加入者、町内外の参加が得られにくいので、後継者の育成が非常に難しい状況になっている様子が見えました。
無回答	後継者問題について話していたことを聞いてみたかった。
無回答	組織の作り方が大変良かったです。
無回答	防犯ボランティアを増やすには？
無回答	参加者の拡大、どのような活動をしていったら良いか。

【分科会：行政や警察との上手な連携】

ﾃｰﾌﾞﾙ番号	取組事例
3	セーフコミュニティの内容。
8	振り込め詐欺撲滅に参加します。
11	警察・消防（防犯・防災）との連携、企業参加の事例発表
無回答	話の中で、行政との協力の必要性を多く聞いたが、ボランティア側からどのような要望があるのか。行政からは、どのようなレスポンスがあるのかを聞きたい。
無回答	自分で旗を作り、警察署に行った人の話を聞いてすごいと思った。ボランティアは積極的に行わなくてはいけないなと、今日参加して思いました。

【分科会：学校・ＰＴＡとの上手な連携】

ﾃｰﾌﾞﾙ番号	取組事例
16	学生団体と地域の町会・ＰＴＡとの連携。
無回答	町会と学校との連絡ごとでの話し合い。

12　ワークショップの運営についての意見

主に表４のようなものが挙げられた。

・各方面の話を聞くことができた。
・運営がスムーズだった。
・長時間で疲れている人がいたので、短時間で集中しても良い。
・安全・安心まちづくりアカデミー講座や見守りボランティアリーダー育成講座の内容を紹介してみてはどうか。

表４．ワークショップの運営についての意見

ありがとうございました。また、何かありましたら、参加したいです。（類似回答３件）
たくさんのボランティアの活動例を聞きました。参考になることが多くありました。今後もこういったワークショップを開催して頂けるとありがたいです。（類似回答３件）
初めてのワークショップだったので戸惑ったが、参加してみて勉強になった部分もあった。（類似回答２件）
同じような問題に取り組んでいる地域と協議したいと思います。
開催時間が長く負担に感じた。全体的に何をするのか内容を把握していなかったので、少し面食らった。でも、全体的に参考になった（若い人の意見・考え方を聞けて）。
学生さんのボランティアの人が増えたのが良かったと思います。
最初は難しいことかなと不安があった。自分は何ができるのか考えさせられた。地域で安全・安心な街づくりをしていくようにしたい。
長時間だったため、大変疲れている方がいらっしゃいました。高齢の方もいらっしゃいますので、短時間に集中して行うのも良いのではないでしょうか。本日はありがとうございました。
テーマ別にテーブルにつきましたが、あまりテーマにとらわれることもなかったように感じました。関係者の皆様、ご準備、ありがとうございました。
とてもスムーズに運営して頂き、ありがとうございました。
防犯・防災は車の両輪であるとともに、行政は縦割りであると言われ、民間は横のつながりと言われているので、行政と民間との連携が必要であると考える。
安全・安心まちづくりアカデミー講座と見守りボランティアリーダー育成講座の内容を紹介してみてはいかがでしょうか。

【参考資料：参加者アンケート集計表】

※複数回答の場合、回答個数の合計と回答総数の数は一致しない。

いいなぁ 安心まちづくりワークショップ参加者アンケート集計結果

1　加入している主な活動母体		
（複数回答）	回答個数	構成比(%)
町会・自治会	34	39.1
商店会	4	4.6
学校・PTA	5	5.7
防犯協会	33	37.9
学生ボランティア	20	23.0
未加入	2	2.3
その他	12	13.8
無回答	1	1.1
回答総数	87	100.0
2　防犯活動の取組年数		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
活動していない	9	10.3
１年未満	3	3.4
１～２年未満	14	16.1
２～３年未満	6	6.9
３～４年未満	5	5.7
４～５年未満	1	1.1
５～10年未満	17	19.5
10～15年未満	12	13.8
15年以上	18	20.7
無回答	2	2.3
回答総数	87	100.0
3　平均的な活動日数		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
毎日	9	10.3
週に５日程度	8	9.2
週に３日程度	16	18.4
週１日程度	14	16.1
月に１日	15	17.2
不定期	18	20.7
活動なし	3	3.4
無回答	4	4.6
合計	87	100.0
4　主な活動内容		
（複数回答）	回答個数	構成比(%)
防犯パトロール	60	69.0
青色回転灯を装備したパトロールカーの運用	11	12.6
子供の安全確保（保護・誘導・見守り）	32	36.8
青少年の健全育成	18	20.7
環境浄化活動（落書き対策・清掃活動など）	24	27.6
違法広告物撤去（区市町村からの委嘱）	14	16.1
防犯教室・講習会の開催	17	19.5
地域安全マップの作製	10	11.5
防犯チェック	12	13.8
その他	14	16.1
無回答	7	8.0
回答総数	87	100.0
5　活動上の課題		
（複数回答）	回答個数	構成比(%)
行政との連携	20	23.0
警察との連携	34	39.1
町会・自治会との連携	36	41.4
学校・PTAとの連携	26	29.9
組織運営	8	9.2
仲間づくり	23	26.4
構成員の高齢化	23	26.4
他団体との連携	16	18.4
財政運営	3	3.4
活動内容の充実・企画	10	11.5
その他	3	3.4
無回答	4	4.6
回答総数	87	100.0

6　ワークショップに参加した感想		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
とても参考になった	41	47.1
参考となった	31	35.6
あまり参考とならなかった	3	3.4
参考とならなかった	0	0.0
無回答	12	13.8
合計	87	100.0
7　席替えの感想		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
とても良かった	61	70.1
あまり良くなかった	6	6.9
無回答	20	23.0
合計	87	100.0
8　ワークショップの開催時間について		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
長い	22	25.3
短い	10	11.5
ちょうどよい	44	50.6
無回答	11	12.6
合計	87	100.0
9　ワークショップの開催日について		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
平日	11	12.6
土曜日	20	23.0
日曜日・祝祭日	35	40.2
その他	1	1.1
無回答	20	23.0
合計	87	100.0
10　今後、同様のワークショップへの参加意向		
（単純回答）	回答個数	構成比(%)
参加する	30	34.5
都合がつけば参加する	41	47.1
参加しない	2	2.3
無回答	14	16.1
合計	87	100.0

3 配付資料

安全･安心まちづくり課　ＦＡＸ番号　　０３－５３８８－１２１７

平成24年度「防犯ボランティアのつどい」 参加申込書

平成24年　　月　　日

東京都青少年･治安対策本部　安全･安心まちづくり課　あて

１１月１８日（日曜日）開催の「防犯ボランティアのつどい」への参加を希望します。

いずれかに○を付けてください。(複数可)

所属団体等		安全･安心まちづくりアカデミー修了者
		子供見守りボランティアリーダー育成講座修了
		落書き消去サポーター
		防犯ボランティア団体
		学生ボランティア

住　　所	〒
氏　　名	
電　　話	
ＦＡＸ	
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	

■■■■■■■■■■■■■■ 事 前 ア ン ケ ー ト ■■■■■■■■■■■■■■■■

＊ ワークショップにおけるグループ分けの参考としますので、必ずご記入下さい。よろし

1　このワークショップでは、みなさんが地域で防犯活動を行う上で最も関心のあることについて意見交流していただきたいと考えています。そこでお尋ねします。
この機会にぜひ話し合ってみたいテーマとその理由を第2候補まで簡潔にご記入下さい。

第1候補	【テーマ】	
	（理由）	

第2候補	【テーマ】	
	（理由）	

記入例	【テーマ】	行政との連携
	（理由）	活動案を持って役所へ相談に行こうとしたが、手続きが良く分からず諦めた。
		または、補助等様々な支援や連携をお願いしたが、断られた。

（その他のテーマ例）　学校との連携　警察との連携　町会･自治会との連携　若者の活動参加など、自由にご記入下さい。

2　活動を行う上で困っていること、相談したいこと、成功事例･失敗事例を簡潔にご記入下さい。

困っていること、相談したいこと	
成功事例･失敗事例	

ありがとうございました。

資料１

～ いいなぁ 安心まちづくり ワークショップ　次第 ～

開　会	浦谷 安全・安心まちづくり担当課長
運営委員長　挨　拶	小出 東京大学大学院教授
オリエンテーション	杉崎 まちづくりコーディネーター

グループ活動

・自己紹介（一人１分）

・意見交換（27分）

・グループ活動レポート記入（5分）

◆席替え

・自己紹介（一人１分）

・意見交換（27分）

・グループ活動レポート記入（5分）

【分科会のテーマ】

◆活動内容の充実
◆参加者の拡大
◆行政や警察との上手な連携
◆学校・PTAとの上手な連携

休　憩（10分）

グループ発表

席替え

グループ内での発表（20分）

　このワークショップでは、より多くの方と知り合っていただき、ネットワークの輪を広げていただくため、席替えをたくさんします。
　皆さん、より多くの仲間づくりをしましょう！

全体発表（5分）	各分科会１名
講師講評（6分）	小出先生、樋野先生、杉崎先生
閉会　挨拶	五十嵐治安対策担当部長
「いいなぁ 安心の樹」の作成（10分）	参加者全員
記念撮影	参加者全員

※　17:30まで、交流の場として受付ホールをご利用いただけます。

資料２

平成24年度「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」 参加者名簿

名簿番号	区市町村	テーブル番号	安全・安心まちづくりアカデミー修了者	子供見守りボランティアリーダー育成講座修了者	防犯ボランティア団体	学生ボランティア
1	港区	8		○		
2	港区	11		○		
3	港区	3			○	
4	新宿区	5		○		
5	新宿区	2		○		
6	新宿区	4		○		
7	新宿区	16	○	○		
8	新宿区	4		○		
9	文京区	3		○		
10	台東区	8	○			
11	江東区	11	○			
12	江東区	4		○		
13	品川区	1			○	
14	目黒区	11		○		
15	世田谷区	5			○	
16	世田谷区	6				○
17	世田谷区	9			○	
18	世田谷区	10			○	
19	世田谷区	16			○	
20	世田谷区	15		○		
21	世田谷区	1			○	
22	世田谷区	15			○	
23	世田谷区	12				○
24	世田谷区	2			○	
25	世田谷区	14			○	
26	世田谷区	4			○	
27	世田谷区	10		○		
28	世田谷区	13			○	
29	渋谷区	5				○
30	渋谷区	3			○	
31	渋谷区	7			○	
32	渋谷区	16			○	
33	中野区	2	○	○		
34	中野区	16	○	○		

※個人情報に配慮して氏名は割愛してあります。

平成24年度「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」 参加者名簿

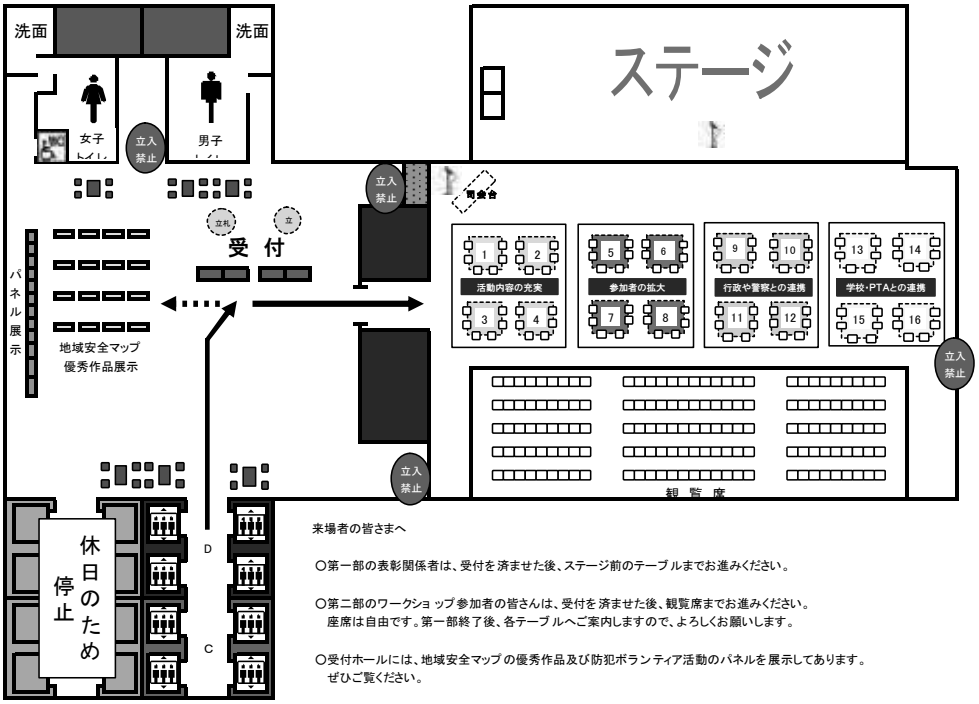
名簿番号	区市町村	テーブル番号	安全・安心まちづくりアカデミー修了者	子供見守りボランティアリーダー育成講座修了者	防犯ボランティア団体	学生ボランティア
35	中野区	15	○	○		
36	杉並区	10		○		
37	杉並区	7	○			
38	杉並区	8			○	
39	杉並区	3			○	
40	杉並区	9	○			
41	杉並区	12			○	
42	杉並区	2			○	
43	杉並区	6		○		
44	杉並区	9	○	○		
45	杉並区	14		○		
46	杉並区	3				○
47	杉並区	8			○	
48	杉並区	13		○		
49	杉並区	6	○			
50	豊島区	13			○	
51	豊島区	15			○	
52	豊島区	14			○	
53	豊島区	9			○	
54	豊島区	14			○	
55	豊島区	10			○	
56	豊島区	11		○		
57	豊島区	12			○	
58	豊島区	11			○	
59	豊島区	13			○	
60	豊島区	16			○	
61	豊島区	9			○	
62	北区	12	○			
63	板橋区	3			○	
64	練馬区	16				○
65	練馬区	13				○
66	練馬区	13	○	○		
67	練馬区	12		○		
68	練馬区	1		○		
69	練馬区	7	○			

平成24年度「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」 参加者名簿

名簿番号	区市町村	テーブル番号	安全・安心まちづくりアカデミー修了者	子供見守りボランティアリーダー育成講座修了者	防犯ボランティア団体	学生ボランティア
70	練馬区	15				○
71	練馬区	1				○
72	練馬区	6				○
73	練馬区	7				○
74	練馬区	14				○
75	練馬区	15	○	○		
76	練馬区	4		○		
77	葛飾区	14	○			
78	八王子市	5				○
79	八王子市	10		○		
80	三鷹市	11				○
81	調布市	5				○
82	町田市	12	○			
83	小金井市	10			○	
84	日野市	1				○
85	日野市	8				○
86	日野市	5		○		
87	日野市	7				○
88	日野市	2		○		
89	日野市	4				○
90	日野市	6				○
91	日野市	16			○	
92	東村山市	1			○	
93	東村山市	3			○	
94	東村山市	15			○	
95	東村山市	12	○			
96	東村山市	7			○	
97	東村山市	8			○	
98	東村山市	2			○	
99	東村山市	6		○		
100	国分寺市	9	○	○		
101	狛江市	8		○		
102	清瀬市	7		○		
103	埼玉県	11				○
104	神奈川県	4				○

資料３

平成24年度　防犯ボランティアのつどい　会場案内図



来場者の皆さまへ

○第一部の表彰関係者は、受付を済ませた後、ステージ前のテーブルまでお進みください。

○第二部のワークショップ参加者の皆さんは、受付を済ませた後、観覧席までお進みください。
座席は自由です。第一部終了後、各テーブルへご案内しますので、よろしくお願いします。

○受付ホールには、地域安全マップの優秀作品及び防犯ボランティア活動のパネルを展示してあります。
ぜひご覧ください。

資料４

「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」の分科会一覧

初めにご着席いただくテーブルは、申込時のアンケートに沿って事務局で指定させていただきましグループ活動では席替えを予定していますので、その際の参考としてください。

活動内容の充実

○既存の活動のレベルアップ
○新しい活動の企画・実施に向けた取組方法
○地域の課題解決に向けた検討手法
○社会的防犯事案に対する問題意識の共有と、ボランティア活動への反映
○防災活動との連携
○交通安全活動との連携
など

～ 青色のテーブル

参加者の拡大

○メンバーの高齢化に伴う団体の維持・継続
○青年・壮年世代への働きかけ
○ボランティア活動未経験の高齢者への働きかけ
○防犯ボランティア団体と学生ボランティアとの連携
○参加者拡大に向けたイベントの企画・開催
など

～ ピンクのテーブル

行政や警察との連携

○地元の区市町村や警察署への相談・働きかけ方
○防犯活動関連の補助金情報（東京都、区市町村ほか）
○行政や警察との上手な連携の仕方
○行政や警察への各種申請手続き
○地域の防犯情報の取得
○防犯講和の講師派遣
など

～ 緑色のテーブル ～

学校・PTAとの連携

○地域と学校の関わり
○地域活動へのPTAや子供の参加呼びかけ
○具体的な子供の見守り方法のほか、
○防犯ボランティア団体と学校との連携
○防犯ボランティア団体と町会や自治会、商店会との連携
○町会と町会の連携
など

～ 黄色のテーブル ～

資料５

いいなぁ 安心まちづくりワークショップ　グループ活動レポート

名簿番号	

※ 名簿上の番号をご記入下さい
（名札にも書いてあります）

氏名	

グループ活動（意見交換）の中で、今後の活動の参考となると思われる事例がありましたら、お２人まで以下の記入欄にご記入ください。

【席替え前のグループでの意見交換】

参加された分科会に〇をし、テーブル番号を記入ください

分科会		
		活動内容の充実
		参加者の拡大
		行政や警察との上手な連携
		学校・ＰＴＡとの上手な連携

テーブル番号	

①	どなたが発言されましたか	名簿番号		氏名	
どのような取組事例か、ご記入ください					
なぜ、この取組事例を選びましたか					

②	どなたが発言されましたか	名簿番号		氏名	
どのような取組事例か、ご記入ください					
なぜ、この取組事例を選びましたか					

【席替え後のグループでの意見交換】

参加された分科会に〇をし、テーブル番号を記入ください

分科会		活動内容の充実
		参加者の拡大
		行政や警察との上手な連携
		学校・ＰＴＡとの上手な連携

テーブル番号	

①	どなたが発言されましたか	名簿番号		氏名	
どのような取組事例か、ご記入ください					
なぜ、この取組事例を選びましたか					

②	どなたが発言されましたか	名簿番号		氏名	
どのような取組事例か、ご記入ください					
なぜ、この取組事例を選びましたか					

♣ このレポートは、グループ発表のときの参考としてご利用ください。

♣ グループ発表後に回収しますのでよろしく御協力願います。

資 料 6

いいなぁ 安心まちづくりワークショップ　参加者アンケート

名簿番号	

※ 名簿上の番号をご記入下さい
（名札にも書いてあります）

氏名	

今後の安全・安心まちづくり施策の参考とさせていただきますので、ご記入下さい。

1　あなたが加入している主な活動母体を次の中からお選びください（複数可）。　回答欄

①町会・自治会　②商店会　③学校・ＰＴＡ　④ 防犯協会　⑤学生ボランティア　⑥未加入
⑦その他（　　）

2　あなたの防犯活動の取組年数をお聞かせください。　回答欄　　年

※ 活動されていない場合は、「０年」とご記入下さい。

3　あなたの平均的な活動日数をお聞かせください。　回答欄

①毎日　②週に５日程度　③週に３日程度　④週１日程度　⑤月に1日　⑥不定期　⑦活動なし

4　あなたの主な活動内容をお聞かせください（複数可）。　回答欄

①防犯パトロール　②青色回転灯を装備したパトロールカーの運用　③子供の安全確保(保護・誘導・見守り)
④青少年の健全育成　⑤環境浄化活動(落書き対策・清掃活動など)　⑥違法広告物撤去(市町村からの委嘱)
⑦防犯教室・講習会の開催　⑧地域安全マップの作製　⑨防犯チェック　⑩その他(　　)

5　あなたが活動をする上での課題をお聞かせください（複数可）。　回答欄

①行政との連携　②警察との連携　③町会・自治会との連携　④学校・ＰＴＡとの連携　⑤組織運営
⑥仲間づくり　⑦ 構成員の高齢化　⑧ 他団体との連携　⑨ 財政運営　⑩活動内容の充実・企画
⑪その他(　　)

６以下は、ワークショップ終了時にご記入ください。

6　本日のワークショップに参加した感想をお聞かせください。　回答欄

①とても参考になった　②参考となった　③あまり参考とならなかった　④参考とならなかった

理由	

裏面につづく

7　グループ活動における席替えの感想をお聞かせください。

回答欄	

①とても良かった

②あまり良くなかった

理由	

8　ワークショップの開催時間について、感想をお聞かせください。

回答欄	

① 長い　　②　短い　　③　ちょうどよい

9　ワークショップの開催日について、最も望ましいものをお選びください。

回答欄	

① 平日　　②土曜日　　③日曜日・祝祭日　　④その他(　　)

10　今後、同様のワークショップを開催した場合、参加されますか。

回答欄	

① 参加する　　② 都合がつけば参加する　　③ 参加しない

11　他のメンバーのグループ発表を聞いて、自分が参加しなかった他のテーブルでも、この方の活動内容をもっと知りたいと思われた取組事例がありましたら、以下にご記入ください。

ご要望の多い事例を取材し、報告書でご紹介することを予定しています。

分科会		
		活動内容の充実
		参加者の拡大
		行政や警察との上手な連携
		学校・ＰＴＡとの上手な連携

テーブル番号	

どのような取組事例か、ご記入ください	

12　本日のワークショップの運営について、ご意見等があればご記入ください。

ありがとうございました。

資料７

平成24年度 いいなぁ 安心まちづくりワークショップ 意見交換メモ

【あなたの自己紹介メモ】 ※１分以内で簡潔にお話できる内容にまとめてください

名簿番号		区市町村		氏名	
自分の地域の特徴					
この分科会を選んだ理由（理由がない場合は、今日聞いてみたいこと）					

【席替え前のグループ】 ※ 名簿番号、区市町村、氏名は名札に書いてあります。

名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	

※ この用紙は回収しませんので、お気軽にご利用ください。

【席替え後のグループ】 ※ 名簿番号、区市町村、氏名は名札に書いてあります。

名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	
名簿番号		区市町村		氏名	

※ この用紙は回収しませんので、お気軽にご利用ください。

4 「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」運営委員会

委員長　小出　　治（東京大学大学院教授）
委　員　樋野　公宏（独立行政法人建築研究所主任研究員）
委　員　杉崎　和久（まちづくりコーディネーター）
委　員　斉藤美和子（東京都子供見守りボランティアリーダー育成講座修了者）
委　員　豊田　治樹（東京都安全・安心まちづくりアカデミー修了者）

(1) 第１回委員会
① 開催日：平成 24 年９月６日（木）
② 場　所：25 階 110 会議室
③ 議　事：ワークショップの運営方法（案）について

(2) 第２回委員会
① 開催日：平成 24 年 10 月 26 日（金）
② 場　所：都庁第一本庁舎 35 階北側 35B 会議室
③ 議　事：ワークショップの運営方法について
　　分科会テーマの抽出について

(3) 第３回委員会
① 開催日：平成 25 年１月 31 日（木）
② 場　所：都庁第一本庁舎 25 階 106 会議室
③ 議　事：報告書（案）について

安全・安心まちづくり活動　虎の巻
～「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」実施報告書～

平成 25 年３月発行

編　集　「いいなぁ 安心まちづくりワークショップ」運営委員会

発　行　東京都青少年・治安対策本部　総合対策部　安全・安心まちづくり課
〒163-8001　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
都庁第一本庁舎３５階北側　　電話　03-5388-2282

登録番号（２４）４４